

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ワセダイリョウガクエン 学校法人 早稲田医療学園							
フリガナ大学の名称	ニンゲンソウゴウカガクダイガク 人間総合科学大学 (University of Human Arts and Sciences)							
大学本部の位置	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地							
大学の目的	本大学は、教育基本法に則り、学校教育法に定める大学として、広く生涯を通しての学修の機会を提供し、人間理解の体系的、総合的な教育・研究を行うことにより、強い責任感と内発的動機を有して、「活力ある人間性豊かな社会」の構築と「人類の健康と幸福」の追求に貢献し得る人材を養成、輩出することを目的とする。							
新設学部等の目的	保健医療学部の看護学科ならびにリハビリテーション学科理学療法学専攻は、開設以来、高い志願倍率を維持し、定員充足率も高い値で推移している。また、卒業生の多くを医療施設を中心に送り出し、社会の要請に応じて来た。急速に高齢化が進む社会にて、益々高まる看護師と理学療法士のニーズに応え、地域に、さらに国際的に貢献できる人材を養成していくことが本学の社会的使命と捉え、保健医療学部の看護学科ならびにリハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員をそれぞれ10名増員する。また、ヘルスフードサイエンス学科については、定員の適正化を図るため20名を減員する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間科学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地
	ヘルスフードサイエンス学科	4	60 (80)	—	240 (320)	学士（食品健康科学）	令和2年4月 第1年次	
	保健医療学部							
	看護学科	4	90 (80)	—	360 (320)	学士（看護学）	令和2年4月 第1年次	
リハビリテーション学科理学療法学専攻	4	50 (40)	—	200 (160)	学士（理学療法学）	令和2年4月 第1年次		
計		—	—	—				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<ul style="list-style-type: none"> ・人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 臨床心理学専攻（廃止）（△15） ※令和2年4月学生募集停止 ・人間総合科学大学専門職短期大学部 データビジネス学科（40） （令和元年10月認可申請） 							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
		科目	科目	科目	科目	単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼 任 教 員 等
教 員 組 織 の 概 要	新 設 分	人間科学部 ヘルスフードサイエンス学科	4 (4)	— (—)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	3 (1)	39 (39)
		保健医療学部 看護学科	8 (8)	6 (6)	8 (8)	2 (1)	24 (23)	3 (3)	54 (54)
		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4 (4)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	53 (53)
		計	16 (16)	8 (8)	13 (13)	5 (4)	42 (41)	6 (4)	— (—)
	既 設 分	人間科学部 健康栄養学科	10 (10)	— (—)	3 (3)	4 (4)	17 (17)	5 (3)	25 (25)
		保健医療学部 リハビリテーション学科 義肢装具学専攻	3 (3)	1 (1)	— (—)	2 (2)	6 (6)	— (—)	56 (56)
		計	13 (13)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	23 (23)	5 (3)	— (—)
	合 計		29 (29)	9 (9)	16 (16)	11 (10)	65 (64)	11 (7)	— (—)
	既 設 分	人間科学部 心身健康科学科 (通信教育課程)	9 (9)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	18 (18)	— (—)	53 (53)
	教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計	
事 務 職 員		14 (14)		16 (16)		30 (30)			
技 術 職 員		2 (2)		1 (1)		3 (3)			
図 書 館 専 門 職 員		1 (0)		4 (4)		5 (4)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)		5 (5)		5 (5)			
計		17 (16)		26 (26)		43 (42)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	23,319.67㎡	660.73㎡		0.00㎡		23,980.40㎡		
	運 動 場 用 地	2,837.00㎡	0.00㎡		0.00㎡		2,837.00㎡		
	小 計	26,156.67㎡	660.73㎡		0.00㎡		26,817.40㎡		
	そ の 他	1,271.00㎡	0.00㎡		0.00㎡		1,271.00㎡		
合 計	27,427.67㎡	660.73㎡		0.00㎡		28,088.40㎡			
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	18,205.50㎡ (18,205.5㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)		863.35㎡ (863.35㎡)		19,068.85㎡ (19,068.85㎡)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		()	()	()	()	()	()		
	計	()	()	()	()	()	()		
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	㎡								
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	㎡								

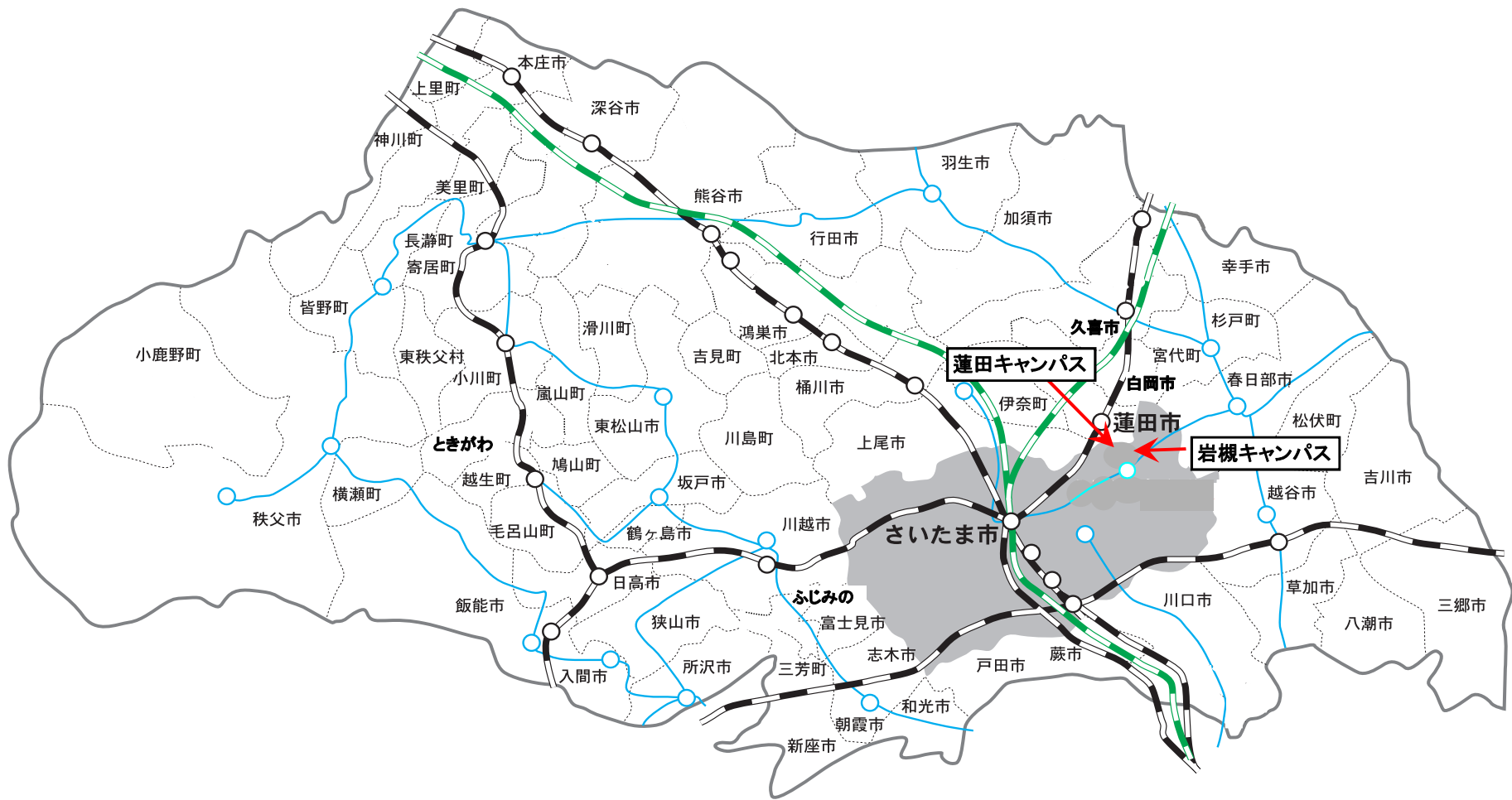
経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体	
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—千円	—千円		
	共同研究費等		30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	—千円	—千円		
	図書購入費	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	—千円	—千円		
	設備購入費	244,000千円	35,000千円	35,000千円	35,000千円	35,000千円	—千円	—千円		
経費の見積り及び維持方法の概要	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
経費の見積り及び維持方法の概要	人間科学部 心身健康科学科 【通信教育課程】	320千円	290千円	290千円	290千円	—千円	—千円			
	健康栄養学科	1,550千円	1,350千円	1,350千円	1,350千円	—千円	—千円			
	ヘルスフードサイエンス学科	1,600千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	—千円	—千円			
	保健医療学部 看護学科	1,800千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	—千円	—千円			
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1,700千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	—千円	—千円			
	リハビリテーション学科 義肢装具学専攻	1,900千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	—千円	—千円			
	人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 修士課程 【通信教育課程】	980千円	780千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
	心身健康科学専攻 博士後期課程 【通信教育課程】	1,000千円	700千円	700千円	—千円	—千円	—千円			
	健康栄養科学専攻 修士課程	980千円	880千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
	臨床心理学専攻 修士課程 【通信教育課程】	970千円	770千円	770千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、手数料収入、資産運用収入等							
既設大学の状況	大学の名称	人間総合科学大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	【通学課程】	年	人	年次人	人		倍			
	人間科学部						0.67	平成17年度	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地	
	健康栄養学科	4	80	—	320	学士（健康栄養科学）	0.95			
	ヘルスフードサイエンス学科	4	80	—	240	学士（食品健康科学）	0.18			
	保健医療学部						1.04	平成23年度	埼玉県さいたま市岩槻区太田字新正寺曲輪354番3	
	看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	1.13			
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4	40	—	160	学士（理学療法学）	1.09			
	リハビリテーション学科 義肢装具学専攻	4	30	—	120	学士（義肢装具学）	0.76	平成23年度		
大学院 人間総合科学研究科 健康栄養科学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（健康栄養科学）	0.20	平成21年度	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地		
【通信教育課程】										
人間科学部 心身健康科学科 （通信教育課程）	4	500	—	2,500	学士（人間科学）	0.60	平成12年度		平成29年度入学定員減(△500人)	
大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 修士課程 （通信教育課程）	2	30	—	60	修士（心身健康科学）	0.86	平成16年度	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地		
博士後期課程 （通信教育課程）	3	9	—	27	博士（心身健康科学）	0.99	平成19年度			
臨床心理学専攻 修士課程 （通信教育課程）	3	15	—	45	修士（臨床心理学）	0.86	平成28年度		令和元年度より学生募集停止（臨床心理学専攻）	

附属施設の概要	名称：人間総合科学大学大学院附属臨床心理研究センター心理相談室 目的：外来心理相談施設及び本学学生の臨床実習施設 所在地：埼玉県蓮田市蓮田1丁目3番十王ビルPART II 205 設置年月：平成28年4月 規模等：建物143.88㎡	
---------	--	--

学校法人早稲田医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和元年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
人間総合科学大学				→	人間総合科学大学				
人間科学部					人間科学部				
健康栄養学科	80	—	320		健康栄養学科	80	—	320	
ヘルスフードサイエンス学科	80	—	320		ヘルスフードサイエンス学科	60	—	240	定員変更(Δ20)
保健医療学部					保健医療学部				
看護学科	80	—	320		看護学科	90	—	360	定員変更(10)
リハビリテーション学科					リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	—	160		理学療法学専攻	50	—	200	定員変更(10)
義肢装具学専攻	30	—	120		義肢装具学専攻	30	—	120	
計	310	—	1240		計	310	—	1240	
人間総合科学大学大学院				→	人間総合科学大学大学院				
人間総合科学研究科					人間総合科学研究科				
健康栄養科学専攻(M)	5	—	10		健康栄養科学専攻(M)	5	—	10	
計	5	—	10		計	5	—	10	
人間総合科学大学（通信教育課程）				→	人間総合科学大学（通信教育課程）				
人間科学部					人間科学部				
心身健康科学科	500	(3年次 編入学者)	2000		心身健康科学科	500	(3年次 編入学者)	2000	
計	500	(3年次 編入学者)	2000		計	500	(3年次 編入学者)	2000	
人間総合科学大学大学院（通信教育課程）				→	人間総合科学大学大学院（通信教育課程）				
人間総合科学研究科					人間総合科学研究科				
心身健康科学専攻(M)	30	—	60		心身健康科学専攻(M)	30	—	60	
心身健康科学専攻(D)	9	—	27		心身健康科学専攻(D)	9	—	27	
臨床心理学専攻(M)	15	—	45			0	—	0	令和2年4月学生募集停止
計	54	—	132		計	39	—	87	
早稲田医療技術専門学校				→	早稲田医療技術専門学校				
保健学科	40	—	40		保健学科	40	—	40	
計	40	—	40		計	40	—	40	

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				→	人間総合科学大学専門職短期大学部				専門職短期大学の設置 (認可申請)
					データビジネス学科	40	—	80	
					計	40	—	80	



埼玉県内における位置関係

至 上野・東京

最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



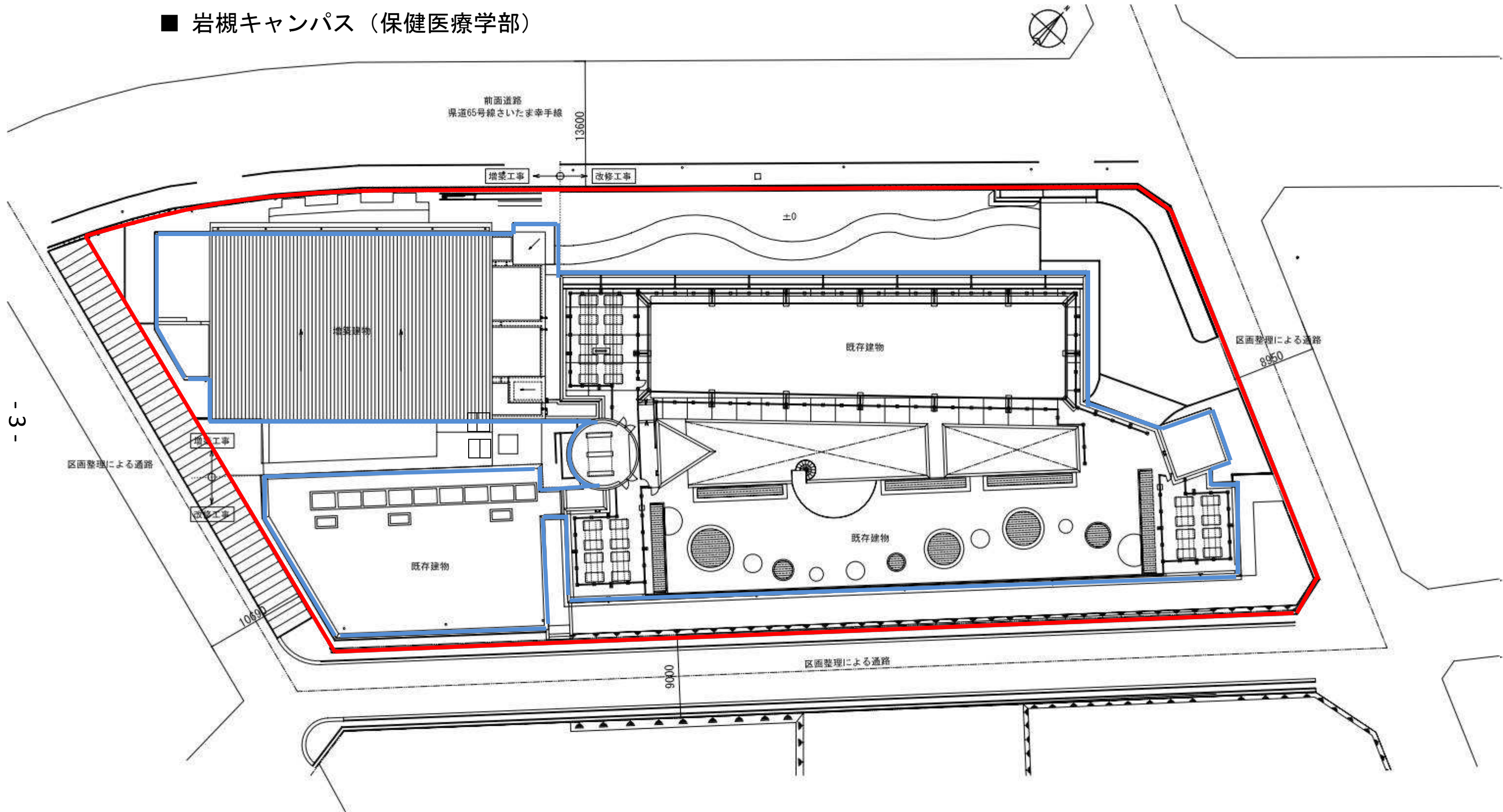
東武野田線岩槻駅から徒歩 14 分



J R 宇都宮線蓮田駅から徒歩 13 分

校舎・運動場等の配置図

■ 岩槻キャンパス（保健医療学部）

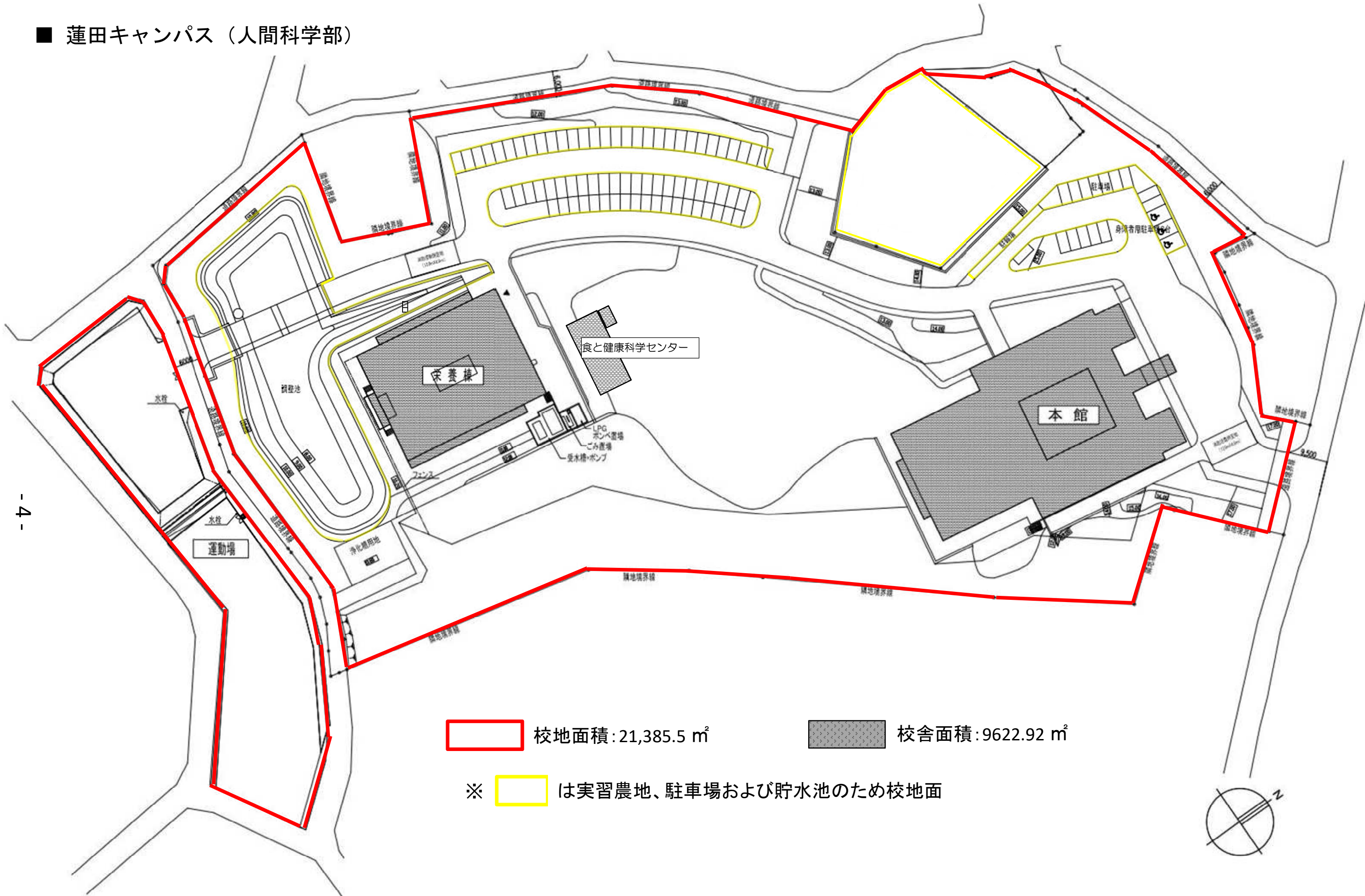


- 3 -

校地面積: 5,431.9 m² (一部共用: 660.73 m²)

校舎面積: 9,445.93 m² (一部共用: 863.35 m²)

■ 蓮田キャンパス（人間科学部）



人 間 総 合 科 学 大 学

学 則

人間総合科学大学 学則

〔目次〕

第1章	総則	3
第2章	大学の組織	3
第3章	教職員の組織	4
第4章	教授会	4
第5章	学年、学期及び休業日	4
第6章	修業年限及び在学年限	5
第7章	入学・休学・復学・退学及び除籍	5
第8章	教育課程	6
第9章	授業及び学習指導	7
第10章	試験及び成績評価	8
第11章	卒業要件等	8
第12章	科目等履修生	10
第13章	特別聴講学生	10
第14章	学費等	10
第15章	賞罰	11
別表第1	入学検定料、学費等、その他	13
別表第2-1	心身健康科学科 開設授業科目一覧	14
別表第2-1-2	心身健康科学科 開設授業科目一覧（平成31年度入学以降）	16
別表第2-1-3	心身健康科学科 開設授業科目一覧教育交流校	18
別表第2-1-4	心身健康科学科 開設授業科目一覧教育交流校（平成31年度入学以降）	20
別表第2-2-1	削除	
別表第2-2-2	削除	
別表第2-2-3	心身健康科学科 看護教員養成コース科目一覧	22
別表第2-3-1	削除	
別表第2-3-2	削除	
別表第2-3-3	削除	
別表第2-3-4	削除	
別表第2-3-5	健康栄養学科 開設授業科目一覧（平成28年度入学以降）	23
別表第2-3-5	健康栄養学科 開設授業科目一覧（平成31年度入学以降）	24
別表第2-4-1	ヘルスフードサイエンス学科 開設授業科目一覧	25
別表第2-4-2	ヘルスフードサイエンス学科 開設授業科目一覧 （平成30年度入学以降）	26
別表第2-4-3	ヘルスフードサイエンス学科 開設授業科目一覧 （平成31年度入学以降）	27
別表第2-5-1	削除	
別表第2-5-2	看護学科 開設授業科目一覧（平成24年度入学以降）	28
別表第2-5-3	看護学科 開設授業科目一覧（保健師選択コース） （平成24年度入学以降）	29
別表第2-5-4	看護学科 開設授業科目一覧（平成28年度入学以降）	30
別表第2-5-5	看護学科 開設授業科目一覧（保健師選択コース） （平成28年度入学以降）	31

別表第2-5-6	看護学科 開設授業科目一覧（令和2年度入学以降）	32
別表第2-5-7	看護学科 開設授業科目一覧（保健師選択コース） （令和2年度入学以降）	33
別表第2-6-1	リハビリテーション学科理学療法学専攻 開設授業科目一覧	34
別表第2-6-2	リハビリテーション学科理学療法学専攻 開設授業科目一覧 （平成28年度入学以降）	35
別表第2-6-3	リハビリテーション学科理学療法学専攻 開設授業科目一覧 （令和2年度入学以降）	36
別表第2-7-1	リハビリテーション学科義肢装具学専攻 開設授業科目一覧	37
別表第2-7-2	リハビリテーション学科義肢装具学専攻 開設授業科目一覧 （平成28年度入学以降）	38
別表第2-7-3	リハビリテーション学科義肢装具学専攻 開設授業科目一覧 （令和2年度入学以降）	39
別表第3-1-1	心身健康科学科の卒業の要件	40
別表第3-1-2	心身健康科学科の卒業の要件（平成31年度入学以降）	40
別表第3-1-3	看護教員養成コースの卒業の要件	40
別表第3-2	健康栄養学科の卒業の要件	41
別表第3-2-2	健康栄養学科の卒業要件（平成28年度入学以降）	41
別表第3-2-3	健康栄養学科の卒業要件（平成31年度入学以降）	41
別表第3-3	ヘルスフードサイエンス学科の卒業要件	42
別表第3-3-2	ヘルスフードサイエンス学科の卒業要件（平成30年度入学以降）	42
別表第3-4-1	看護学科の卒業の要件	43
別表第3-4-2	看護学科の卒業の要件（平成24年度入学以降）	43
別表第3-4-3	看護学科の卒業の要件（保健師選択コース）（平成24年度入学以降）	43
別表第3-4-4	看護学科の卒業の要件（平成28年度入学以降）	43
別表第3-4-5	看護学科の卒業の要件（保健師選択コース）（平成28年度入学以降）	43
別表第3-4-6	看護学科の卒業の要件（令和2年度入学以降）	43
別表第3-4-7	看護学科の卒業の要件（保健師選択コース）（令和2年度入学以降）	43
別表第3-5-1	リハビリテーション学科理学療法学専攻の卒業の要件	44
別表第3-5-2	リハビリテーション学科理学療法学専攻の卒業の要件 （平成28年度入学以降）	44
別表第3-5-3	リハビリテーション学科理学療法学専攻の卒業の要件 （令和2年度入学以降）	44
別表第3-6-1	リハビリテーション学科義肢装具学専攻の卒業の要件	44
別表第3-6-2	リハビリテーション学科義肢装具学専攻の卒業の要件 （平成28年度入学以降）	44
別表第3-6-3	リハビリテーション学科義肢装具学専攻の卒業の要件 （令和2年度入学以降）	44

人間総合科学大学 学則

第1章 総則

(目的)

第1条 人間総合科学大学人間科学部は、建学の精神に基づき、広く生涯を通しての学修の機会を提供し、人間理解の体系的、総合的な教育・研究を行うことにより、強い責任感と内発的動機を有して、「活力ある人間性豊かな社会」の構築と「人類の健康と幸福」の追求に貢献し得る人材を養成、輩出することを目的とする。

2 人間科学部心身健康科学科は、こころ・からだ・文化の側面から、人間を総合的に理解し、心身ともに健康で豊かに暮らせる社会構築を支援できる人材を養成することを目的とする。

3 人間科学部健康栄養学科は、人間の生活と「栄養・食」とのかかわりを科学的・統合的視点から追求し、現代の保健医療サービスに対応できる人材を養成することを目的とする。

4 人間科学部ヘルスフードサイエンス学科は、人間の総合的科学的理解と「食・栄養」を幅広く学び、食の安全・安心、リスク管理と、国際的な食のマネジメントの総合的な知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。

5 保健医療学部は、保健医療専門職者として高い倫理観と使命感を持ち、高度な専門知識に基づく確かな技術を実践するとともに、心身健康科学をはじめとした総合的な人間理解のもと、さまざまな関連職者と連携し、広く社会に貢献できる活力ある人材を養成することを目的とする。

(自己点検及び評価)

第2条 本大学は前条の目的の達成及び教育研究水準の向上をはかる為、教育研究活動等の状況について自己点検及び評価を行う。

2 前項に定める点検及び評価を行うにあたっての項目及び体制については、別に定める。

(情報の積極的な提供)

第2条の2 本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 大学の組織

(学部・学科及び収容定員)

第3条 本大学に、次の学部及び学科を置き、その収容定員を次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	収容定員
人間科学部		
心身健康科学科 通信教育課程	500名	2,000名
健康栄養学科	80名	320名
ヘルスフードサイエンス学科	60名	240名
保健医療学部		
看護学科	90名	360名
リハビリテーション学科		
理学療法学専攻	50名	200名
義肢装具専攻	30名	120名

2 人間科学部心身健康科学科に前項に定める収容定員の範囲内で次のコースを置き、その収容定員を次のとおりとする。

コース	入学定員	収容定員
養護教諭養成コース	100名	400名
看護教員養成コース(3年次編入学)	40名	80名

(大学院)

第3条の2 本大学に大学院を置く。

2 大学院については、人間総合科学大学大学院学則の定めるところによる。

(附置機関)

第4条 本大学に、次の附置機関を置く。

- 一 図書館
- 二 人間総合科学 心身健康科学研究所
- 三 インスティテューショナル・リサーチ室
- 四 地域・産学連携センター
- 五 国際交流推進室

2 附置機関に関する規程は、別に定める。

第3章 教職員の組織

(教職員の組織)

第5条 本大学に学長、学部長、学科長、教授、准教授、講師、助教、助手、助手補、事務職員及び技術職員を置き、必要に応じて、副学長、補佐職、その他の職員を置くことができる。

2 学長は、本大学の全般に関して最終決定権を有し、校務をつかさどり所属教職員を統督する。

3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

4 学部長は、学長を補佐し、その学部に関する業務を遂行する。

5 事務職員を統括するため、事務局長を置き、学長を補佐し、事務全般に関する業務を遂行する。

6 前項のほか、大学運営に必要な役職職員を置く。それ等の役職職員については、別に定める。

第4章 教授会

(教授会)

第6条 本大学各学部に、教授会を置く。

2 教授会に関する規程は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 人間科学部健康栄養学科及びヘルスフードサイエンス学科並びに保健医療学部の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 人間科学部心身健康科学科の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる、または10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

(学期)

第8条 学年を、次の2学期に分ける。

前期： 4月1日から9月30日まで

後期： 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日は次のとおりとする。ただし、面接授業及び科目修了試験等の行われる日は除くものとする。

- 一 日曜日（人間科学部心身健康科学科は月曜日とする。）
- 二 国民の祝日に関する法律による日
- 三 学園創立記念日 5月2日
- 四 季節休業（学長が別に定めるものとする。）

- 2 前項の規程にかかわらず、休業日であっても授業を行うことができる。
- 3 第1項の規程にかかわらず、臨時の休業日を定めることができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第10条 本大学の修業年限は4年とし、8年を超えて在学することはできない。

- 2 前項の規程にかかわらず、第16条第1項第1号の規程により入学した者については8年から在学年数として認定された年数を減じた年数、同条第2号及び第3号の規程により入学した者については同条第2項により定められた在学すべき年数の3倍を超えて在学することはできない。
- 3 特別の事情により、第1項及び第2項における年数を超える在学を許可することがある。

第7章 入学・休学・復学・退学及び除籍

(入学の時期)

第11条 本大学の入学の時期は、学期の始めとする。

(入学資格等)

第12条 本大学に入学できる者は、次の各号の一に該当し、入学の許可を受けた者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の課程を修了した者
- 三 外国において、学校教育による12年の課程を終了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者
- 四 高等学校卒業程度認定試験規則により高等学校卒業程度認定試験に合格した者、又は大学入学資格検定規程により大学入学資格検定試験に合格した者
- 五 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 六 満18歳以上の年齢に達し、本学において高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められた者
- 七 文部科学大臣が指定した者

(入学の出願)

第13条 本大学への入学を志願する者は、所定の入学願書及び別に定める書類に、入学検定料(別表第1)を添えて願出しなければならない。

(入学者の選考)

第14条 入学志願者に対しては、書類審査若しくは選考試験を行う。その方法は、その都度定める。

(入学の手続き及び許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の書類を提出するとともに、所定の入学料及び授業料等を納付しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(再入学、編入学、転入学、転学部、転学科)

第16条 次の各号の一に該当する者で、本大学への入学を志願する者があるときは、教育に支障のない場合に限り、選考の上、別に定めるところにより、相当年次に入学を許可することができる。

- 一 本大学を卒業、退学、又は除籍された者
- 二 他の大学(外国の大学を含む。)を卒業、退学、又は除籍された者
- 三 短期大学(外国の短期大学を含む。)、高等専門学校の専攻科及び修業年限が2年以上で、その他別に定める基準を満たす専修学校専門課程を卒業した者

- 2 学生が、本学の他学部への転入又は当該学生が在学している学部内の他学科等への転入を希望したときは、当該学部又は当該学科に収容力のある限り、選考の上、別に定めるところにより、相当年次に許可することができる。
- 3 前項の規程により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、別に定めるところによる。

(休学)

- 第17条** 傷病その他やむを得ない事由により、3カ月以上修学できない者は、医師の診断書又は事由を証明する書類を添付し、保証人連署の上願い出て、学長の許可を得た上で休学することができる。
- 2 休学期間は、1学期間（前期又は後期）を単位とする。
 - 3 休学期間は、通算して8学期間を超えることができない。
 - 4 休学期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

(復学)

- 第18条** 休学の事由が止んだ者は、学長の許可を得て、復学することができる。ただし、復学できる時期は、学期の始めとする。

(退学)

- 第19条** 傷病その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、本学所定の用紙に退学事由を明記し提出すること。

(除籍)

- 第20条** 次の各号の一に該当する者は、学長がこれを除籍することができる。
- 一 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
 - 二 第10条第1項に定める在学年限を超えた者
 - 三 第17条第3項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
 - 四 履修申込みを怠り、督促してもなお行わない者
 - 五 成績不良の者
 - 六 死亡した者

(二重学籍の禁止)

- 第20条の2** 学生は、他の大学、短期大学または大学院の正規の課程に在籍してはならない。

第8章 教育課程

(授業科目)

- 第21条** 人間科学部心身健康科学科における授業科目は、別表第2-1及び別表第2-2のとおりとする。
- 2 人間科学部健康栄養学科における授業科目は、別表第2-3のとおりとする。
 - 3 人間科学部ヘルスフードサイエンス学科における授業科目は、別表第2-4のとおりとする。
 - 4 保健医療学部看護学科における授業科目は、別表第2-5のとおりとする。
 - 5 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻における授業科目は、別表第2-6のとおりとする。
 - 6 保健医療学部リハビリテーション学科義肢装具学専攻における授業科目は、別表第2-7のとおりとする。

第22条 削除

(栄養士及び管理栄養士国家試験受験の資格)

- 第22条の2** 栄養士の資格を取得しようとする者は、人間科学部健康栄養学科又は人間科学部ヘルスフードサイエンス学科に在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得しなければならない。

- 3 管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は、人間科学部健康栄養学科に在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得しなければならない。

(教育職員免許状)

第22条の3 教育職員免許状を取得するには、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 前項の免許状を取得するための課程を置き（以下「教職課程」という。）授業科目、単位数等について、必要な事項は別に定める。
- 3 本学の教職課程において取得できる教育職員免許状は、次に掲げるものとする。

学科等	免許状の種類
人間科学部心身健康科学科養護教諭養成コース	養護教諭1種
人間科学部健康栄養学科	栄養教諭1種

(保健師及び看護師国家試験受験の資格)

第22条の4 保健師国家試験受験資格及び看護師国家試験受験資格を取得しようとする者は、保健医療学部看護学科に在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得しなければならない。

(理学療法士国家試験受験の資格)

第22条の5 理学療法士国家試験受験資格を取得しようとする者は、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻に在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得しなければならない。

(義肢装具士国家試験受験の資格)

第22条の6 義肢装具士国家試験受験資格を取得しようとする者は、保健医療学部リハビリテーション学科義肢装具学専攻に在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得しなければならない。

第9章 授業及び学習指導

(授業)

第23条 人間科学部心身健康科学科の授業は、通信授業、面接授業（メディア等を利用して行う授業含む）及び放送授業によって行う。

- 一 通信授業は、主として印刷教材により学修させる授業であり、面接授業は、大学設置基準第25条の方法による授業であり、放送授業は大学通信教育設置基準第3条の方法による授業である。
- 二 通信授業においては、学生は、所定の報告課題について学習報告（以下「テキスト課題」という。）を提出し、添削指導を受けるものとする。
- 三 放送授業においては、学生は、所定の課題を提出し、添削指導を受けるものとする。

2 人間科学部健康栄養学科及びヘルスフードサイエンス学科並びに保健医療学部の授業は、大学設置基準第25条による。

(単位の計算方法)

第24条 人間科学部心身健康科学科の授業科目の単位数は、1単位の履修時間を45時間とし、次の基準により計算する。

- 一 印刷教材による授業（以下「通信授業」という。）については、45時間に相当する学修量の教材をもって1単位とする。
- 二 面接授業及び放送授業については、15時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規程にかかわらず、卒業研究については、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第24条の2 人間科学部健康栄養学科及びヘルスフードサイエンス学科並びに保健医療学部の授業科目の単位数は、1単位の履修時間を45時間とし、次の基準により計算する。

- 一 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学が定める時間の授業

をもって1単位とする。

二 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規程にかかわらず、卒業研究については、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(通信授業に関する質疑)

第25条 通信授業に関する質疑は、所定の方法によって行うものとする。

(面接授業)

第26条 面接授業は、本大学又は本大学が指定する会場において実施する。

2 面接授業(メディア等を利用して行う授業を含む。)を行う時期及び会場は、別に定める。

第10章 試験及び成績評価

(人間科学部心身健康科学科における試験)

第27条 人間科学部心身健康科学科における試験は、科目修了試験及び面接授業試験(以下「スクーリング試験」という。)等とする。

2 通信授業による各科目の履修は、テキスト課題を提出しかつ指定の時期に科目修了試験を受けなければならない。

3 面接授業による各科目の履修は、面接授業に出席しかつ指定の時期にスクーリング試験を受けなければならない。

4 放送授業による各科目の履修は、放送授業を視聴しかつ指定の時期にスクーリング試験に相当する試験を受けなければならない。

(科目修了試験)

第28条 科目修了試験を受験できる者は、当該科目のテキスト課題に合格した者とする。

2 科目修了試験は、本大学及び本大学が指定する会場において実施される。

3 科目修了試験を行う時期及び会場は、別に定める。

(人間科学部健康栄養学科及びヘルスフードサイエンス学科並びに保健医療学部における試験)

第29条 人間科学部健康栄養学科及びヘルスフードサイエンス学科並びに保健医療学部における試験は、前期及び後期のそれぞれにおいて、筆記、口述及び論文等の方法によって行う。

(成績評価)

第30条 成績は、S(100点~90点)、A(89点~80点)、B(79点~70点)、C(69点~60点)、D(59点~0点)の5種類の評価をもって表し、S、A、B、Cを合格とし、Dを不合格とする。

2 不合格者には、再試験等を行うことがある。

3 疾病その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者は、その理由が適当であると認められ、許可を受けた場合に限り追試験を受けることができる。

4 追試験及び再試験等受験の際には、別に定める手数料を納入しなければならない。

(単位の授与)

第31条 各授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。

2 通信授業は、テキスト課題及び科目修了試験に合格した者について所定の単位を与える。

3 面接授業は、出席が良好でかつスクーリング試験に合格した者について所定の単位を与える。

4 放送授業については、視聴を完了し、試験に合格した者に対して所定の単位を与える。

第11章 卒業要件等

(進級の要件)

第31条の2 進級については別に定める。

(卒業の要件)

第32条 卒業の認定には、次の各号に掲げる要件を全て満たすことを必要とする。

- (1) 本大学に休学、停学期間を除いて4年以上在学すること。ただし、第16条第1項の規程により入学した者については、同条第2項により定められた在学すべき年数以上在学することとする。
- (2) 修得単位数は、次のとおりとする。
 - 一 人間科学部心身健康科学科は、別表第3—1に掲げる最低単位数を含めて合計124単位以上
 - 二 人間科学部健康栄養学科は、別表第3—2に掲げる最低単位数を含めて合計130単位以上
 - 三 人間科学部ヘルスフードサイエンス学科は、別表第3—3に掲げる最低単位数を含めて合計130単位以上
 - 四 保健医療学部看護学科は、別表第3—4に掲げる最低単位数を含めて合計124単位以上
 - 五 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は、別表第3—5に掲げる最低単位数を含めて合計124単位以上
 - 六 保健医療学部リハビリテーション学科義肢装具学専攻は、別表第3—6に掲げる最低単位数を含めて合計124単位以上

(学位の授与)

第33条 前条の要件を満たす者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位を授与する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位の種類)

第34条 前条の卒業を認定された者には、次の学位を授与する。

学部名	学科名	学位
人間科学部	心身健康科学科	学士(人間科学)
	健康栄養学科	学士(健康栄養学)
	ヘルスフードサイエンス学科	学士(食品健康科学)
保健医療学部	看護学科	学士(看護学)
	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻 義肢装具学専攻	学士(理学療法学) 学士(義肢装具学)

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第35条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が大学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(大学又は短期大学以外の教育施設等における学修)

第36条 本大学は、教育上有益と認めるときは、高等専門学校の専攻科又は修業年限が2年以上の専修学校専門課程における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第37条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学又は短期大学若しくは高等専門学校の専攻科及び修業年限が2年以上の専修学校専門課程において履修した授業科目について修得した単位を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行ったその他文部科学大

臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第35条、第36条と合わせて60単位を超えないものとする。

4 単位認定の科目については、別に定める。

第12章 科目等履修生

(科目等履修生)

第38条 授業科目の一部の履修を希望する者に対しては、本課程の教育に支障がない限り、選考の上、科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 大学の入学資格のない者が、科目等履修生として所定の科目の単位を修得したときには、正科生としての入学資格を与えることができる

3 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第39条 削除

第13章 特別聴講学生

(特別聴講学生)

第40条 他の大学又は短期大学若しくは高等専門学校専攻科又は修業年限が2年以上の専修学校専門課程若しくはその他文部科学大臣が別に定める学種及び本大学は、双方の大学の規則に定めるところにより、両大学等の学生が、特別聴講学生としてそれぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認めることができる。

2 前項に規程する学生の受入れの手段等については、別に定める。

第14章 学費等

(学費)

第41条 人間科学部心身健康科学科の学費は分納とし、別表第1に定めるものとする。

2 人間科学部健康栄養学科及びヘルスフードサイエンス学科並びに保健医療学部の学費は分納とし、別表第1に定めるものとする。

(学費等の納付)

第42条 学年ごとに別表第1に従って算出された学費等の金額を、所定の期日までに納めなければならない。

(復学等の場合の授業料)

第43条 復学する者は、復学する当該学期の授業料を規程の期日までに納付しなければならない。

(退学及び停学の場合の授業料)

第44条 学期の途中で退学し又は除籍された者の該当年度分の授業料は、徴収する。

2 停学期間中の授業料は、徴収する。

(休学の場合の在籍料)

第45条 休学期間中の場合は、別途定める在籍料を徴収する。

(編入学生及び特別聴講学生等の授業料等)

第46条 編入学生及び特別聴講学生の検定料及び納付金については、徴収する。

(学費の返還制限)

第47条 納入した学費は、理由の如何にかかわらずこれを返還しない。

(手数料)

第48条 手数料については、別に定める。

第15章 賞罰

(表彰)

第49条 学生として特に表彰に価する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰する。
2 表彰に関する規程は別に定める。

(懲戒)

第50条 本大学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、懲戒処分に付することができる。
2 学生の懲戒に関する規程は、別に定める。

附則

1 この学則は、平成12年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成13年 4月 1日から施行する。ただし、第35、36、37、41条及び別表第5の改正規程は、平成12年度入学生より適用する。

附則

1 この学則は、平成13年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成15年 7月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成16年 1月30日から施行する。

附則

1 この学則は、平成16年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成17年 1月28日から施行する。

附則

1 この学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成19年 6月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成20年 3月31日から施行する。

附則

1 この学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

2 第3条第1項に規程する保健医療学部看護学科、リハビリテーション学科（理学療法学専攻及び義肢装具学専攻）の収容定員は、同条の規程にかかわらず、平成23年度から平成25年度までは、それぞれ次のとおりとする。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
看護学科	80名	160名	240名
リハビリテーション学科			
理学療法学専攻	40名	80名	120名
義肢装具学専攻	30名	60名	90名

附則

1 この学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成25年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成26年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成27年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成28年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成29年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成29年10月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成30年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、平成31年 4月 1日から施行する。

附則

1 この学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。

別表第1

1. 入学検定料（第13条関係）

区 分	金 額				
	人間科学部			保健医療学部	
	心身健康科学科	健康栄養学科	ヘルスフードサイエンス学科	看護学科	リハビリテーション学科
正 科 生	10,000円	35,000円	35,000円	35,000円	35,000円

（注）但し、センター試験を利用した入学試験を受験する場合は15,000円とする。

2. 学費等（第42条関係）

（1） 正科生

区 分	金 額					
	人間科学部			保健医療学部		
	心身健康科学科	健康栄養学科	ヘルスフードサイエンス学科	看護学科	理学療法専攻	義肢装具学専攻
入 学 料	30,000円	300,000円	300,000円	300,000円	300,000円	300,000円
*1 編 入 料	100,000円	100,000円	100,000円			
授 業 料	280,000円	950,000円	950,000円	1,000,000円	1,000,000円	1,000,000円
実験・実習費	—	100,000円	150,000円	300,000円	200,000円	400,000円
（2年目以降）	—	200,000円	150,000円	400,000円	400,000円	450,000円
施設設備費	—	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円
システム管理・維持費	10,000円	—	—	—	—	—
*2 教職課程費	100,000円	100,000円	—	—	—	—
*2 教職課程スクーリング費	60,000円	—	—	—	—	—
*2 看護教員養成コース登録料	200,000円	—	—	—	—	—
*2 保健師選択コース登録料	—	—	—	50,000円	—	—

*1は編入学生のみ

*2は登録者のみ

心身健康科学科の学費は分納とし、年2回指定された期日までに納入する。

健康栄養学科及びヘルスフードサイエンス学科並びに保健医療学部の学費は、年2回指定された期日までに納入する。

（2） 科目等履修生等

区 分	金 額		
	心身健康科学科	健康栄養学科	ヘルスフードサイエンス学科
登録選考料	10,000円	10,000円	10,000円
登録料	25,000円	30,000円	30,000円
授 業 料	・テキスト履修 1単位当たり	*2 10,000円	—
	・スクーリング履修 1単位当たり （メディア等を利用して 行う授業も含む）	15,000円	—
	・講義・演習 1単位当たり	—	20,000円
システム管理・維持費	5,000円/期	*2 5,000円/期	—
*1 教職課程費	100,000円	100,000円	—
*1 教職課程スクーリング費	60,000円	—	—

*1印は登録者のみ

*2印は教職課程登録者で、心身健康科学科の科目を履修する者のみ

学費等の納入は、指定日までに納入する。

公開講座等については別途定める。

授業科目名		単位数等			授業科目名		単位数等		
		印刷	面接	履修方法			印刷	面接	履修方法
専門科目	特別講義	ストレスマネジメントセミナー ライフスタイルマネジメントセミナー いのちと健康セミナー こころの健康セミナー	1 1 1 1			T T T T			
	総合演習	人間総合科学の探究Ⅰ 人間総合科学の探究Ⅱ 人間総合科学の理解Ⅰ 人間総合科学の理解Ⅱ 【8単位修得】	4 4 4 4	4 4		G G G G			
基礎科目		英語～速読演習 情報処理演習(*) 論文の書き方(*) 大学入門ゼミ(*) 【1単位以上修得】	2	2 1 ①		T S S S			
教職課程科目		教職概論 特別支援教育 教育課程論 道徳教育指導論 総合的な学習の時間の指導法 特別活動論 教育方法論 生徒指導論 教育相談 養護実習Ⅰ(*) 養護実習Ⅱ(*) 教職実践演習(養護教諭)(*) 学校保健 養護概説 健康相談活動 看護実習(*) 体育Ⅲ(*) 体育Ⅳ 【一部教職課程登録者のみ開講】	2 1 1 2 1 1 1 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 2		T T T T T T T T T S S S T T T T S S S			
看護教員養成コース		看護論 看護論演習 看護教育論 看護教育制度 看護教育課程論 保健師教育課程概論 看護教育課程演習 保健師教育課程演習 看護教育方法論 看護教育方法演習 看護教育実習 専門領域別看護論 専門領域別看護論演習 地域看護論演習 看護教育評価論 看護教育評価演習 研究方法 看護学校管理 専門領域別看護論演習(保健師) 【看護教員養成コース登録者のみ開講】	1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		T S T T T T T S S T S S T S S S T S T S S T S T S			
学士申請講座		文明科学概論 ストレスと健康 生命倫理学 発達心理学 心理学概論 運動生理学 【学士申請講座登録者のみ開講】	4 4 4 4 4 4 4			T T T T T T T			

授業科目名		単位数等			授業科目名		単位数等		
		印刷	面接	履修方法			印刷	面接	履修方法
専門科目	特別講義	ストレスマネジメントセミナー ライフスタイルマネジメントセミナー いのちと健康セミナー こころの健康セミナー	1 1 1 1			T T T T			
	総合演習	人間総合科学の探究Ⅰ 人間総合科学の探究Ⅱ 人間総合科学の理解Ⅰ 人間総合科学の理解Ⅱ 【8単位修得】	4 4 4 4	4 4		G G G G			
基礎科目		英語～速読演習 (T) 情報処理演習 (N) (*) 論文の書き方 (N/S) (*) 大学入門ゼミ (N) (*) 【1単位以上修得】	2	2 1 ①		T S S S			
教職課程科目		教職概論 特別支援教育 教育課程論 道徳教育指導論 総合的な学習の時間の指導法 特別活動論 教育方法論 生徒指導論 教育相談 養護実習Ⅰ (*) 養護実習Ⅱ (*) 教職実践演習 (養護教諭) (*) 学校保健 養護概説 健康相談活動 看護実習 (*) 体育Ⅰ 体育Ⅱ 体育Ⅲ (*) 体育Ⅳ 【一部教職課程登録者のみ開講】	2 1 1 2 1 1 1 2 1 2 2 2 2 2 1 1 1 1	1 2		T T T T T T T T S S S T T T S T T S S			
看護教員養成コース		看護論 看護論演習 看護教育論 看護教育制度 看護教育課程論 保健師教育課程概論 看護教育課程演習 保健師教育課程演習 看護教育方法論 看護教育方法演習 看護教育実習 専門領域別看護論 専門領域別看護論演習 地域看護論演習 看護教育評価論 看護教育評価演習 研究方法 看護学校管理 専門領域別看護論演習 (保健師) 【看護教員養成コース登録者のみ開講】	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 2 1 3 2 2 1 1		T S T T T T S S T S S T S S T S T S T S T S			
学士申請講座		文明科学概論 ストレスと健康 生命倫理学 発達心理学 心理学概論 運動生理学 【学士申請講座登録者のみ開講】	4 4 4 4 4 4			T T T T T T			

別表第2-1-4 心身健康科学科 開設授業科目一覧 (第21条第1項関係) 教育交流校
(平成31年度入学以降)

○数字は必修科目
T:テキスト履修 S:スクーリング(※)履修 T・S:テキスト・スクーリング(※)履修
G:卒業研究
履修可能年次は、原則1. 2. 3. 4年次、卒業研究4年次。
面接授業開講科目は、年度によって変更することがある。
(*) スクーリングのみによる科目
(※) メディア等を利用して行う授業を含む

授業科目名		単位数等			授業科目名		単位数等		
		印刷	面接	履修方法			印刷	面接	履修方法
専門科目 コア科目	心身健康科学概論		2	S	専門科目 分野別科目	生命と遺伝子 (T)	2		T
	ヒューマンI (N)		①	S		生命と遺伝子 (S)		1	T
	ヒューマンII (N)		①	S		高齢者の健康増進 (T)	2		T
	ヒューマンIII (N)		①	S		成人看護学 (T)	2		T
	ヒューマンIV (S)		1	S		生活習慣と健康 (T)	2		T
	ヒューマンV (T)	②		T		看護学概論 (T)	4		T
	心身健康科学I (N)		①	T		リハビリテーション概論 (T)	2		T
	心身健康科学II (T)	②		T		スポーツ障害学 (T)	2		T
	心身健康科学III (T)	②		T		基礎から学ぶいのちの科学 (T)	2		T
		【10単位以上修得】							
分野別科目	《統合I「こころ」と「からだ」のつながり》				障害からの回復 (T)	2		T	
	人間科学 (T)	②		T	細胞といのちの営み (T)	2		T	
	人間科学 (N/S)		②	S	レクリエーション理論・実践 (S)		1	S	
	行動科学 (T)	②		T	セラピューティックレクリエーション理論 (T)	1		S	
	行動科学 (N/S)		②	S	子どもを対象としたレクリエーション実践 (S)		1	S	
	ストレスと健康 (T)	2		T	リハビリテーション体育 (S)		1	S	
	ストレスと健康 (N/S)		2	S	リラクゼーション実践 (S)		2	S	
	人間関係論 (T)	2		T	心身一如の科学 (T)	2		T	
	人間関係論 (N)		2	S	基礎看護学I	1		T	
	発達心理学 (T)	2		T	基礎看護学II	1		T	
	発達心理学 (N)		1	S	基礎看護学III	1		T	
	青年期心理学 (T)	2		T	基礎看護学IV	1		T	
	青年期心理学 (N)		1	S	小児看護学I	1		T	
	産業心理学 (T)	2		T	小児看護学II	1		T	
	社会心理学 (T)	2		T	小児看護学III	1		T	
	交流分析 (T)	2		T	看護管理と医療安全	1		T	
	交流分析 (N)		1	S	運動学	1		T	
	カウンセリング論 (T)	2		T	リハビリテーション医学	1		T	
	カウンセリング論 (N/S)		2	S	臨床医学I	4		T	
	カウンセリング実践 (S) (*)		2	S	臨床医学II	2		T	
	現代家族論 (T)	2		T	理学療法概論	1		T	
	心の防衛機制と反応 (T)	2		T	理学療法評価学	1		T	
	心理学概論 (T)	2		T	理学療法治療学	1		T	
	心理学研究法 (T)	2		T	義肢装具学	1		T	
	心理学基礎実験I (S) (*)		1	S	高次脳機能障害学	1		T	
	心理学基礎実験II (S) (*)		1	S	地域理学療法学	1		T	
	心理検査法実習I (S) (*)		1	S	生活環境論	1		T	
	心理検査法実習II (S) (*)		1	S					
	臨床心理学実践 (S) (*)		2	S	【8単位以上修得】				
	精神保健 (T)	2		T	《統合III「文化・社会」の継承》				
	精神看護 (T)	4		T	文明科学 (T)	②		T	
	精神看護 (N)		1	S	文明科学 (N/S)		②	S	
	コミュニティ心理学 (T)	2		T	比較文化論 (T)	2		T	
	コミュニティ心理学 (N/S)		2	S	比較文化論 (S)		2	S	
	心理統計学I (T)	2		T	東洋文化論 (T)	2		T	
	心理統計学I (N)		2	S	日本仏教の世界 (T)	2		T	
	心理統計学II (N)		2	S	日本仏教の世界 (S)		1	S	
	教育心理学 (学習と発達) (T)	2		T	人間観 (T)	4		T	
	高齢期心理学 (T)	2		T	地域の福祉 (T)	4		T	
	人間理解へのアプローチ (N) (*)		1	S	高齢社会と福祉・医療 (T)	4		T	
	人間発達学 (S)		1	S	医療職と生涯学習 (T)	2		T	
	こころの科学 (T)	2		T	伝承医学 (T)	2		T	
	コミュニケーション入門 (T)	2		T	現代の養生訓 (T)	2		T	
	カウンセリング入門 (T)	2		T	食べもの学 (T)	4		T	
		【8単位以上修得】			食べもの学 (N)		1	S	
《統合II「生命と健康」のシステム》				地球と生命の誕生 (T)	2		T		
生命科学 (T)	②		T	いのちの文化人類学 (T)	2		T		
生命科学 (N/S)		②	S	異文化コミュニケーション (T)	4		T		
身体の構造と機能 (T)	2		T	地球・生命・文化の歴史 (T)	4		T		
身体の構造と機能 (N/S)		2	S	教育学概論 (T)	2		T		
健康科学論 (T)	2		T	法学 (日本国憲法) (T)	2		T		
健康科学論 (S)		2	S	プレゼンテーション論 (T)	1		T		
心身医学 (T)	2		T	リーダーシップ論 (T)	1		T		
心身医学 (S)		1	S	食文化論 (T)	2		T		
栄養と代謝 (T)	2		T	地球規模での微生物と人間 (T)	2		T		
栄養と代謝 (S)		1	S	野外レクリエーション実践I (S)		1	S		
脳科学論 (T)	2		T	野外レクリエーション実践II (S)		1	S		
脳科学論 (S)		1	S	野外レクリエーション実践III (S)		1	S		
病気の成り立ち (T)	2		T	比較芸術論 (T)	2		T		
病気の成り立ち (S)		1	S	比較芸術論 (S)		1	S		
臨床薬学 (T)	2		T	江戸の子育て (T)	2		T		
保健学 (T)	2		T	死生観とスピリチュアリティ (T)	2		T		
女性のからだと健康 (T)	2		T	手当の科学 (T)	2		T		
高齢者のからだと健康 (T)	2		T	哲学	1		T		
自律神経生理学 (T)	2		T	教育学	1		T		
自律神経生理学 (S)		1	S	生物学	1		T		
運動生理学 (T)	2		T	物理学	1		T		
運動生理学 (S)		1	S	論理学	1		T		
環境とホルモン (T)	2		T	倫理学	1		T		
健康教育概論 (T)	2		T						
応用看護学 (T)	2		T	【8単位以上修得】					
老化・寿命の科学 (T)	2		T	《統合IV「人間の未来学》					
免疫学 (アレルギー) (T)	2		T	生命倫理学 (T)	2		T		
免疫学 (アレルギー) (S)		1	S	生命倫理学 (N)		1	S		
予防栄養学 (T)	2		T	人間と環境 (T)	2		T		
予防栄養学 (N/S)		1	S	人間と環境 (N)		2	S		
				地球の環境問題 (T)	4		T		
				【2単位以上修得】					

授業科目名		単位数等			授業科目名		単位数等		
		印刷	面接	履修方法			印刷	面接	履修方法
専門科目	特別講義	ストレスマネジメントセミナー ライフスタイルマネジメントセミナー いのちと健康セミナー こころの健康セミナー	1 1 1 1			T T T T			
	総合演習	人間総合科学の探究Ⅰ 人間総合科学の探究Ⅱ 人間総合科学の理解Ⅰ 人間総合科学の理解Ⅱ 【8単位修得】	4 4 4 4	4 4		G G G G			
基礎科目		英語～速読演習 (T) 情報処理演習 (N) (*) 論文の書き方 (N/S) (*) 大学入門ゼミ (N) (*) 【1単位以上修得】	2	2 1 ①		T S S S			
教職課程科目		教職概論 特別支援教育 教育課程論 道徳教育指導論 総合的な学習の時間の指導法 特別活動論 教育方法論 生徒指導論 教育相談 養護実習Ⅰ (*) 養護実習Ⅱ (*) 教職実践演習 (養護教諭) (*) 学校保健 養護概説 健康相談活動 看護実習 (*) 体育Ⅰ 体育Ⅱ 体育Ⅲ (*) 体育Ⅳ 【一部教職課程登録者のみ開講】	2 1 1 2 1 1 1 2 1 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1	1 2		T T T T T T T T S S S T T T S T T S S			
看護教員養成コース		看護論 看護論演習 看護教育論 看護教育制度 看護教育課程論 保健師教育課程概論 看護教育課程演習 保健師教育課程演習 看護教育方法論 看護教育方法演習 看護教育実習 専門領域別看護論 専門領域別看護論演習 地域看護論演習 看護教育評価論 看護教育評価演習 研究方法 看護学校管理 専門領域別看護論演習 (保健師) 【看護教員養成コース登録者のみ開講】	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 2 1 1 1		T S T T T T S S T S S S T S S T S T S T S			
学士申請講座		文明科学概論 ストレスと健康 生命倫理学 発達心理学 心理学概論 運動生理学 【学士申請講座登録者のみ開講】	4 4 4 4 4 4			T T T T T T			

別表第2-2-1 心身健康科学科 社会教育主事課程科目一覧（第21条第1項関係）

（削除）

別表第2-2-2 心身健康科学科 養護教諭養成コース科目一覧（第21条第1項関係）

（削除）

別表第2-2-3 心身健康科学科 看護教員養成コース科目一覧（第21条第1項関係）

（*・・・看護教員養成コース登録者のみ履修可）

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法	
			必修	選択	テキスト eラーニング	スクーリング
基礎分野	比較文化論	3	2		2	
	青年期心理学	3	1			1
	プレゼンテーション論	3	1		1	
	生命倫理学	3	1			1
	リーダーシップ論	3	1		1	
教育分野	教育学概論	3	2		2	
	教育心理学（学習と発達）	3	2		2	
	教育課程論	3	1		1	
	教育方法論	3	1		1	
専門分野 看護教育の理解	看護論（*）	3	1		1	
	看護論演習（*）	3	1			1
	看護教育論（*）	3	1		1	
	看護教育制度（*）	3	1		1	
	看護教育課程論（*）	3		2	1	1
	看護教育課程演習（*）	3		2		2
	看護教育方法論（*）	3	3		2	1
	看護教育方法演習（*）	3	3			3
	看護教育実習（*）	3	2			2
	専門領域別看護論（*）	3	1		1	
	専門領域別看護論演習（*）	3		2		2
	看護教育評価論（*）	3	1		1	
	看護教育評価演習（*）	3	1			1
	研究方法（*）	3	2		1	1
看護学校管理（*）	3	1		1		
看護教員養成プログラム修了要件			36			

1. 看護師養成所専任教員養成に係る教育内容である。

2. 保健師養成所専任教員養成に係る教育内容は、上表中の「看護教育課程論」を「保健師教育課程概論」に「看護教育課程演習」を「保健師教育課程演習」に、「専門領域別看護論演習」を「地域看護論演習」及び「専門領域別看護論演習（保健師）」に読み替えて36単位を修了要件とする。

保健師教育課程概論（*）	3		2	1	1
保健師教育課程演習（*）	3		2		2
地域看護論演習（*）	3		1		1
専門領域別看護論演習（保健師）（*）	3		1		1

- 別表第2-3-1 健康栄養学科 開設授業科目一覧 (第21条第2項関係)
(削除)
- 別表第2-3-2 健康栄養学科 開設授業科目一覧 (第21条第2項関係) (21年度入学以降)
(削除)
- 別表第2-3-3 健康栄養学科 開設授業科目一覧 (第21条第2項関係) (22年度入学以降)
(削除)
- 別表第2-3-4 健康栄養学科 開設授業科目一覧 (第21条第2項関係) (25年度入学以降)
(削除)

別表第2-3-5 健康栄養学科 開設授業科目一覧 (第21条第2項関係)
(平成28年度入学以降)

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
				講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	コア	心身健康科学概論	必	2		
		行動科学概論	必	1		
		生命科学概論	必	1		
		文明科学概論	必	1		
	人間と社会	統計学	必	1		
		スポーツと健康	必		1	
		体育概論	必	1		
		こころの科学	必	2		
		発達心理学と環境	選	2		
		精神保健	必	1		
		食品発酵学	選	2		
		食文化論	必	2		
	UHAS セミナー	職業とキャリア形成	必	1		
		コンピュータ入門	必	2		
		生物学基礎	必	2		
		化学基礎	必	2		
		英語基礎	必	2		
		コミュニケーション演習	必	1		
	演習	管理栄養士基礎演習Ⅰ	必	1		
		管理栄養士基礎演習Ⅱ	必	1		
		管理栄養士基礎演習Ⅲ	必	1		
管理栄養士基礎演習Ⅳ		必	1			
管理栄養士基礎演習Ⅴ		必	1			
専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	人体の構造と機能Ⅰ(体液と血圧調節・生殖系)	必	1		
		人体の構造と機能Ⅱ(消化器系・代謝・内分泌)	必	1		
		人体の構造と機能Ⅲ(循環器系・呼吸器系)	必	1		
		人体の構造と機能Ⅳ(血液・造血器系、呼吸と調整)	必	1		
		人体の構造と機能Ⅴ(ホメオスタシス・腎)	必	1		
		人体の構造と機能Ⅵ(神経系・運動器系・感覚器)	必	1		
		生化学Ⅰ	必	1		
		生化学Ⅱ	必	1		
		解剖生理学実習	必		1	
		脳科学	選	2		
		生化学実験	必		1	
		細胞と遺伝子	選	2		
		疾病と治療	病気の成り立ちⅠ	必	2	
			病気の成り立ちⅡ	必	2	
	臨床医学入門		必	2		
	免疫学(アレルギー)		必	2		
	感染症学		選	2		

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数	
				講義・ 演習	実験・ 実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	生活と環境	必	2	
		からだと健康	選	2	
		公衆衛生学Ⅰ	必	2	
		公衆衛生学Ⅱ	必	2	
	食べ物と健康	食品学総論	必	2	
		食品学各論	必	2	
		食品管理論	必	2	
		食品学実験Ⅰ	必		1
		食品学実験Ⅱ	必		1
		食の科学	必	2	
		調理学	必	2	
		調理学実習Ⅰ	必		1
		調理学実習Ⅱ	必		1
		食品衛生学	必	2	
	食品衛生学実験	必		1	
	食事計画実習	必		3	
	食環境生産教育実習	選		2	
	専門分野	基礎栄養学	栄養と代謝	必	2
栄養代謝実験			必		1
栄養生理化学			必	1	
応用栄養学		栄養学各論Ⅰ	必	2	
		栄養学各論Ⅱ	必	2	
		応用栄養学実習	必		1
		栄養アセスメント論	必	2	
栄養教育論		栄養教育論Ⅰ	必	2	
		栄養教育論Ⅱ	必	2	
		栄養教育実習Ⅰ	必		1
		栄養教育実習Ⅱ	必		1
		カウンセリング論	必	2	
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	必	2		
臨床栄養学Ⅱ	必	2			
臨床栄養学Ⅲ	必	2			
臨床栄養学実習Ⅰ	必		1		
臨床栄養学実習Ⅱ	必		1		
介護予防と栄養	必	2			
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	必	2		
	公衆栄養学Ⅱ	必	2		
	公衆栄養学実習	必		1	
	地域栄養学演習	必	1		
給食経営管理論	給食経営管理論	必	2		
	給食経営管理実習	必		2	
	フードマネージメント論	必	2		
総合演習	管理栄養士総合演習	必	4		
臨地実習	臨地実習	必		4	
卒業研究	卒業研究	必		2	
共通科目	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-3-6 健康栄養学科 開設授業科目一覧 (第21条第2項関係)
(平成31年度入学以降)

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数	
				講義・ 演習	実験・ 実習
基礎 分野	コア	心身健康科学	必	1	
		ヒューマンⅠ	必	1	
		ヒューマンⅡ	必	1	
		ヒューマンⅢ	必	1	
	人間と社会	統計学	必	1	
		スポーツと健康	必		1
		体育概論	必	1	
		こころの科学	必	2	
		発達心理学と環境	選	2	
		精神保健	必	1	
		食品発酵学	選	2	
		食文化論	必	2	
		UHAS セミナー	職業とキャリア形成	必	1
	コンピュータ入門		必	2	
	生物学基礎		必	2	
	化学基礎		必	2	
	英語基礎		必	2	
	コミュニケーション演習		必	1	
	演習	管理栄養士基礎演習Ⅰ	必	1	
		管理栄養士基礎演習Ⅱ	必	1	
		管理栄養士基礎演習Ⅲ	必	1	
		管理栄養士基礎演習Ⅳ	必	1	
		管理栄養士基礎演習Ⅴ	必	1	
専門 基礎 分野	人体の 構造と 機能 及び 疾病の 成り立ち	人体の構造と機能Ⅰ(体液と 血圧調節・生殖系)	必	1	
		人体の構造と機能Ⅱ(消化器 系・代謝・内分泌)	必	1	
		人体の構造と機能Ⅲ(循環器 系・呼吸器系)	必	1	
		人体の構造と機能Ⅳ(血液・ 造血器系、呼吸と調整)	必	1	
		人体の構造と機能Ⅴ(ホメオ スタシス・腎)	必	1	
		人体の構造と機能Ⅵ(神経 系・運動器系・感覚器)	必	1	
		生化学Ⅰ	必	1	
		生化学Ⅱ	必	1	
		解剖生理学実習	必		1
		脳科学	選	2	
	生化学実験	必		1	
	細胞と遺伝子	選	2		
	疾病と 治療	病気の成り立ちⅠ	必	2	
		病気の成り立ちⅡ	必	2	
		臨床医学入門	必	2	
		免疫学(アレルギー)	必	2	
		感染症学	選	2	

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数	
				講義・ 演習	実験・ 実習
専門 基礎 分野	社会・環境 と健康	生活と環境	必	2	
		からだと健康	選	2	
		公衆衛生学Ⅰ	必	2	
		公衆衛生学Ⅱ	必	2	
		食べ物と健康	食品学総論	必	2
	食品学各論	必	2		
	食品管理論	必	2		
	食品学実験Ⅰ	必		1	
	食品学実験Ⅱ	必		1	
	食の科学	必	2		
	調理学	必	2		
	調理学実習Ⅰ	必		1	
	調理学実習Ⅱ	必		1	
	食品衛生学	必	2		
	食品衛生学実験	必		1	
	食事計画実習	必		3	
	食環境生産教育実習	選		2	
専門 分野	基礎栄養学	栄養と代謝	必	2	
		栄養代謝実験	必		1
		栄養生理化学	必	1	
	応用栄養学	栄養学各論Ⅰ	必	2	
		栄養学各論Ⅱ	必	2	
		応用栄養学実習	必		1
		栄養アセスメント論	必	2	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	必	2	
		栄養教育論Ⅱ	必	2	
		栄養教育実習Ⅰ	必		1
		栄養教育実習Ⅱ	必		1
		カウンセリング論	必	2	
	カウンセリング実習	必		1	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	必	2	
臨床栄養学Ⅱ		必	2		
臨床栄養学Ⅲ		必	2		
臨床栄養学実習Ⅰ		必		1	
臨床栄養学実習Ⅱ		必		1	
介護予防と栄養		必	2		
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	必	2		
	公衆栄養学Ⅱ	必	2		
	公衆栄養学実習	必		1	
	地域栄養学演習	必	1		
給食経営管 理論	給食経営管理論	必	2		
	給食経営管理実習	必		2	
	フードマネージメント論	必	2		
総合演習	管理栄養士総合演習	必	4		
臨地実習	臨地実習	必		4	
卒業研究	卒業研究	必		2	
共通科目	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-4-1 ヘルスフードサイエンス学科 開設授業科目一覧（第21条第3項関係）

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
				講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	コア科目	心身健康科学概論	必	2		
		行動科学概論	必	1		
		生命科学概論	必	1		
	基礎科目	こころの科学	必	2		
		化学基礎	必	2		
		生物学基礎	必	2		
		生化学	必	2		
		有機化学	選	2		
		無機化学	選	2		
		食品微生物学	必	2		
		細胞と遺伝子	選	2		
		基礎統計演習	必	2		
		英語基礎	必	2		
		食文化論	必	2		
		コンピュータ入門	必	2		
		論理学—論理的思考と表現法	必	1		
		数学	必	1		
		ストレスと食・健康	必	1		
		職業とキャリア形成	必	1		
		コミュニケーション演習	必	1		
		体育概論	必	1		
		スポーツと健康	必		1	
		専門基礎分野	食品・栄養の基礎	食品学総論	必	2
	食品学各論			選	2	
	食品学実験Ⅰ			必		1
	食品学実験Ⅱ			必		1
食の科学	必			2		
食品素材論	必			2		
調理学	選			2		
栄養と代謝	必			2		
栄養代謝実験	選				1	
食品加工基礎	選			2		
食品加工基礎実習	選				1	
食生活と健康	必			2		
食品管理論	選			2		
食品衛生学	必		2			
食品衛生学実験	必			1		
人間理解の基礎	生化学実験		必		1	
	身体の構造と機能		必	2		
	病気の成り立ち		選	2		
	解剖生理学実習		選		1	
	食品発酵学	選	2			
	免疫学	選	2			
専門分野	ヘルスフードサイエンス分野	ヘルスフードサイエンス	必	2		
		ブレインサイエンス	選	2		
		公衆衛生学Ⅰ	必	2		
		公衆衛生学Ⅱ	選	2		
		シンバイオティクス	選	2		
		分析化学	選	2		
		応用微生物学実験	選		1	
		応用栄養学実習	選		1	

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
				講義・ 演習	実験・ 実習	
専門分野	ヘルスフードサイエンス分野	栄養分析学実験	選		1	
		公衆栄養学	必	2		
		ライフステージ栄養学（栄養指導論）	選	2		
		ライフステージ栄養管理実習（栄養指導論）	選		1	
		ヘルスサイエンスリサーチ	選	2		
		食品官能評価	選	2		
		栄養遺伝子学（ニュートリゲノミクス）	選	2		
		食品機能評価	選	2		
		フードマネジメント分野	調理学実習Ⅰ	選		1
			調理学実習Ⅱ	選		1
	総合調理実習		選		2	
	給食の運営管理論		選	2		
	給食経営管理実習（校外実習）		選		2	
	食品工学総論		選	2		
	フードマネジメント論		必	2		
	食品加工貯蔵学		選	2		
	食品加工応用		選		2	
	分子調理学		選		2	
	食品機能学		必	2		
	食品分析学		選	2		
	食品生命科学		選	2		
	機能性食品学Ⅰ		選	2		
	機能性食品学Ⅱ		選	2		
	機能性評価科学		選	2		
	グローバルフードビジネス分野		フードシステム学	必	2	
		食品の経営学	必	2		
		食品流通学	選	2		
食品資源論		選	2			
食品生産流通学実習（視察）		選		1		
フードスペシャリスト論		選	2			
フードコーディネーター論		選	2			
健康科学英語（心身、食品、健康、衛生）		選	2			
国際英語（プレゼンテーション）		選	2			
食品安全等国際制度論		必	2			
グローバルヘルスフード開発		選	2			
フードセーフティ入門		選	2			
食品リスク管理論		選	2			
食環境生産教育実習		選		2		
国際産学連携論	選	2				
トレーサビリティ論	選	2				
フードビジネス関連法規	選	2				
インターンシップ 卒業研究	インターンシップ	選		2		
	卒業研究	選		2		
共通科目	国際研修	選		1		
	ボランティア活動	選		1		

別表第2-4-2 ヘルスフードサイエンス学科 開設授業科目一覧 (第21条第3項関係)
(平成30年度入学以降)

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数	
				講義・ 演習	実験・ 実習
基礎分野	コア科目	心身健康科学概論	必	2	
		行動科学概論	必	1	
		生命科学概論	必	1	
	基礎科目	こころの科学	必	2	
		化学基礎	必	2	
		生物学基礎	必	2	
		生化学	必	2	
		有機化学	必	2	
		無機化学	選	2	
		食品微生物学	必	2	
		細胞と遺伝子	選	2	
		基礎統計演習	必	2	
		英語基礎	必	2	
		食文化論	必	2	
		コンピュータ入門	必	2	
		論理学—論理的思考と表現法	必	1	
		数学	必	1	
		ストレスと食・健康	必	1	
		職業とキャリア形成	必	1	
		コミュニケーション演習	必	1	
	体育概論	必	1		
	スポーツと健康	必		1	
	専門基礎分野	食品・栄養の基礎	食品学総論	必	2
食品学各論			必	2	
食品学実験Ⅰ			必		1
食品学実験Ⅱ			必		1
食の科学			必	2	
食品素材論			必	2	
調理学			必	2	
栄養と代謝			必	2	
栄養代謝実験			必		1
食品加工基礎			必	2	
食品加工基礎実習			選		1
食生活と健康			必	2	
食品管理論			選	2	
食品衛生学			必	2	
食品衛生学実験			必		1
臨床栄養学概論			必	2	
給食計画論			必	2	
人間理解の基礎		生化学実験	必		1
		身体の構造と機能	必	2	
		病気の成り立ち	必	2	
		解剖生理学実習	必		1
		食品発酵学	選	2	
		免疫学	必	2	
感染症学	選	2			
専門分野	ヘルスフードサイエンス分野	ヘルスフードサイエンス	必	2	
		ブレインサイエンス	選	2	
		公衆衛生学Ⅰ	必	2	
		公衆衛生学Ⅱ	必	2	
		シンバイオティクス	選	2	
		分析化学	選	2	

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数	
				講義・ 演習	実験・ 実習
専門分野	ヘルスフードサイエンス分野	応用微生物学実験	選		1
		臨床栄養学実習	必		1
		応用栄養学実習	選		1
		栄養分析学実験	必		1
		公衆栄養学	必	2	
		栄養指導論Ⅰ	必	2	
		栄養指導論Ⅱ	必	2	
		栄養指導実習	必		1
		ライフステージ栄養学	必	2	
		ライフステージ栄養管理実習	選		1
		ヘルスサイエンスリサーチ	選	2	
		食品官能評価	選	2	
		栄養遺伝子学(ニュートリゲノミクス)	選	2	
		食品機能評価	選	2	
	フードマネジメント分野	調理学実習Ⅰ	必		1
		調理学実習Ⅱ	必		1
		総合調理(給食の運営)実習	必		2
		給食の運営管理論	必	2	
		給食経営管理実習(校外実習)	必		2
		食品工学総論	選	2	
		フードマネジメント論	必	2	
		食品加工貯蔵学	選	2	
		食品加工応用	選		2
分子調理学		選		2	
食品機能学		必	2		
食品分析学		選	2		
食品生命科学		選	2		
機能性食品学Ⅰ		選	2		
機能性食品学Ⅱ		選	2		
機能性評価科学		選	2		
グローバルフードビジネス分野		フードシステム学	必	2	
		食品の経営学	必	2	
		食品流通学	選	2	
	食品資源論	選	2		
	食品生産流通学実習(視察)	選		1	
	フードスペシャリスト論	選	2		
	フードコーディネーター論	選	2		
	健康科学英語(心身、食品、健康、衛生)	選	2		
	国際英語(プレゼンテーション)	選	2		
	食品安全等国際制度論	必	2		
	グローバルヘルスフード開発	選	2		
	フードセーフティ入門	選	2		
	食品リスク管理論	選	2		
	食環境生産教育実習	選		2	
	国際産学連携論	選	2		
トレーサビリティ論	選	2			
フードビジネス関連法規	選	2			
インターンシップ 卒業研究	インターンシップ	選		2	
	卒業研究	選		2	
共通科目	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-4-3 ヘルスフードサイエンス学科 開設授業科目一覧 (第21条第3項関係)
(平成31年度入学以降)

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
				講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	コア科目	心身健康科学	必	1		
		ヒューマンⅠ	必	1		
		ヒューマンⅡ	必	1		
		ヒューマンⅢ	必	1		
	基礎科目	こころの科学	必	2		
		化学基礎	必	2		
		生物学基礎	必	2		
		生化学	必	2		
		有機化学	必	2		
		無機化学	選	2		
		食品微生物学	必	2		
		細胞と遺伝子	選	2		
		基礎統計演習	必	2		
		英語基礎	必	2		
		食文化論	必	2		
		コンピュータ入門	必	2		
		論理学—論理的思考と表現法	必	1		
		数学	必	1		
		ストレスと食・健康	必	1		
		職業とキャリア形成	必	1		
		コミュニケーション演習	必	1		
		体育概論	必	1		
		スポーツと健康	必		1	
		専門基礎分野	食品・栄養の基礎	食品学総論	必	2
	食品学各論			必	2	
	食品学実験Ⅰ			必		1
	食品学実験Ⅱ			必		1
食の科学	必			2		
食品素材論	必			2		
調理学	必			2		
栄養と代謝	必			2		
栄養代謝実験	必				1	
食品加工基礎	必			2		
食品加工基礎実習	選				1	
食生活と健康	必			2		
食品管理論	選			2		
食品衛生学	必			2		
食品衛生学実験	必				1	
臨床栄養学概論	必			2		
給食計画論	必			2		
人間理解の基礎	生化学実験		必		1	
	身体の構造と機能		必	2		
	病気の成り立ち		必	2		
	解剖生理学実習		必		1	
	食品発酵学		選	2		
	免疫学		必	2		
	感染症学		選	2		
	ヘルスフードサイエンス分野		ヘルスフードサイエンス	必	2	
			ブレインサイエンス	選	2	
			公衆衛生学Ⅰ	必	2	
公衆衛生学Ⅱ		必	2			
シンパリオティクス		選	2			
分析化学		選	2			

分野		授業科目名	必修・ 選択の別	単位数	
				講義・ 演習	実験・ 実習
専門分野	ヘルスフードサイエンス分野	応用微生物学実験	選		1
		臨床栄養学実習	必		1
		応用栄養学実習	選		1
		栄養分析学実験	必		1
		公衆栄養学	必	2	
		栄養指導論Ⅰ	必	2	
		栄養指導論Ⅱ	必	2	
		栄養指導実習	必		1
		ライフステージ栄養学	必	2	
		ライフステージ栄養管理実習	選		1
		ヘルスサイエンスリサーチ	選	2	
		食品官能評価	選	2	
		栄養遺伝子学(ニュートリゲノミクス)	選	2	
		食品機能評価	選	2	
	フードマネジメント分野	調理学実習Ⅰ	必		1
		調理学実習Ⅱ	必		1
		総合調理(給食の運営)実習	必		2
		給食の運営管理論	必	2	
		給食経営管理実習(校外実習)	必		2
		食品工学総論	選	2	
フードマネジメント論		必	2		
食品加工貯蔵学		選	2		
食品加工応用		選		2	
分子調理学		選		2	
食品機能学		必	2		
食品分析学		選	2		
食品生命科学		選	2		
機能性食品学Ⅰ		選	2		
機能性食品学Ⅱ		選	2		
機能性評価科学		選	2		
グローバルフードビジネス分野	フードシステム学	必	2		
	食品の経営学	必	2		
	食品流通学	選	2		
	食品資源論	選	2		
	食品生産流通学実習(視察)	選		1	
	フードスペシャリスト論	選	2		
	フードコーディネーター論	選	2		
	健康科学英語(心身、食品、健康、衛生)	選	2		
	国際英語(プレゼンテーション)	選	2		
	食品安全等国際制度論	必	2		
	グローバルヘルスフード開発	選	2		
	フードセーフティ入門	選	2		
	食品リスク管理論	選	2		
	食環境生産教育実習	選		2	
国際産学連携論	選	2			
トレーサビリティ論	選	2			
フードビジネス関連法規	選	2			
インターンシップ 卒業研究	インターンシップ	選		2	
	卒業研究	選		2	
	共通科目	国際研修	選		1
ボランティア活動		選		1	

別表第2-5-1 看護学科 開設授業科目一覧 (第21条 第4項関係)
(削除)

別表第2-5-2 看護学科 開設授業科目一覧 (第21条 第4項関係)
(平成24年度入学以降)

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数			
			講義・ 演習	実験・ 実習		
基礎 分野	コア	心身健康科学概論	必	1		
		行動科学概論	必	1		
		生命科学概論	必	1		
		文明科学概論	必	1		
		生命倫理	必	1		
	人間と生活	ストレスと健康	選	1		
		人間工学	選	1		
		統計学	選	1		
		情報論	必	1		
		スポーツと健康	選	1		
		体育概論	選	1		
		食べもの学	選	1		
		生物学	選	1		
	人間と社会	化学	選	1		
		家族社会学	必	1		
		現代家族論	選	1		
		法学	必	1		
		日本国憲法	選	2		
		人間関係論	必	1		
		心理学	必	1		
	人間と文化	地域貢献論	選	1		
		国際文化論	選	1		
		生活文化論	選	1		
		医療英語	必	1		
		基礎英語	選	1		
		オーラルコミュニケーション	選	1		
	セ ミ ナ ー	英語文献講読	選	1		
中国語		選	1			
職業とキャリア形成		必	1			
論理的思考と表現法		選	1			
専門 基礎 分野	U H A S	コミュニケーション演習	必	1		
		コンピュータ入門	選	1		
		健康の現象	機能形態学Ⅰ	必	2	
			機能形態学Ⅱ	必	2	
	生化学		必	1		
	臨床栄養学		必	1		
	微生物学		必	1		
	病理学		必	1		
	疾病と治療Ⅰ (呼吸・循環・血液・造血・栄養代謝・排泄機能)		必	2		
	疾病と治療Ⅱ (脳神経・感覚・運動機能)		必	1		
	疾病と治療Ⅲ (内部環境調節・性・生殖・生体防御機能・小児)		必	2		
	疾病と治療Ⅳ (精神)		必	1		
	薬理学		必	1		
	薬と健康		選	1		
	老年学		選	1		
	環境と社会	環境と健康	選	1		
		保健医療福祉行政論	必	2		
		社会保障制度論	必	2		
		生活福祉論	選	1		
		障害者福祉論	選	1		
		国際保健医療論	選	1		
		保健医療福祉専門職連携論	必	1		
		疫学	必	2		
		保健統計学	選	2		

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門 分野	看護の 基本	看護学原論	必	2	
		ヘルスアセスメント	必	2	
		生活援助技術論	必	3	
		看護治療論	必	2	
		看護過程展開論	必	1	
		基礎看護学実習Ⅰ	必		1
	臨床看護	基礎看護学実習Ⅱ	必		2
		成人看護学概論	必	1	
		慢性期援助論	必	2	
		急性期・回復期援助論	必	2	
		終末期援助論	必	1	
		成人看護学実習Ⅰ (慢性期)	必		3
	生涯 発達看護	成人看護学実習Ⅱ (急性期)	必		3
		小児看護学概論	必	1	
		小児看護学援助論	必	3	
		小児看護学実習	必		2
		母性看護学概論	必	1	
		母性看護学援助論	必	3	
	生活 支援看護	母性看護学実習	必		2
		老年看護学概論	必	1	
		老年看護学援助論	必	3	
		老年看護学実習Ⅰ (生活支援)	必		2
		老年看護学実習Ⅱ (健康障害時)	必		2
		精神看護学概論	必	1	
		精神看護学援助論	必	3	
		精神看護学実習	必		2
		在宅看護概論	必	1	
在宅看護援助論		必	3		
在宅看護実習		必		2	
看護の 発展	地域看護学概論	必	2		
	地域生活支援技術論	必	2		
	学校看護論	選	1		
	産業看護論	選	2		
	健康危機管理論	選	1		
	看護管理・看護情報学	選	1		
	感染看護論	選	1		
	看護国際協力論	必	1		
	災害と看護活動	必	1		
	クリティカルケア論	選	1		
	リハビリテーション看護論	選	1		
	緩和ケア論	選	1		
	認知症ケア論	選	1		
	遺伝看護	選	1		
	ウイメンズヘルスケア論	選	1		
	リエゾン看護論	選	1		
	家族看護論	選	1		
健康看護論	選	1			
看護研究Ⅰ	必	1			
看護研究Ⅱ	必	2			
統合実習	必		2		
共通 科目	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-5-3 看護学科（保健師選択コース） 開設授業科目一覧
 （平成24年度入学以降）

（第21条 第4項関係）

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎 分野	コア	心身健康科学概論	必	1	
		行動科学概論	必	1	
		生命科学概論	必	1	
		文明科学概論	必	1	
		生命倫理	必	1	
	人間と生活	ストレスと健康	選	1	
		人間工学	選	1	
		統計学	選	1	
		情報論	必	1	
		スポーツと健康	選	1	
		体育概論	選	1	
		食べもの学	選	1	
		生物学	選	1	
		化学	選	1	
	人間と社会	家族社会学	必	1	
		現代家族論	選	1	
		法学	必	1	
		日本国憲法	選	2	
		人間関係論	必	1	
		心理学	必	1	
		地域貢献論	選	1	
	人間と文化	国際文化論	選	1	
		生活文化論	選	1	
		医療英語	必	1	
		基礎英語	選	1	
		オーラルコミュニケーション	選	1	
	セ ミ ナ ー	英語文献講読	選	1	
		中国語	選	1	
		職業とキャリア形成	必	1	
		論理的思考と表現法	選	1	
専門 基礎 分野	健康の現象	コミュニケーション演習	必	1	
		コンピュータ入門	選	1	
		機能形態学Ⅰ	必	2	
		機能形態学Ⅱ	必	2	
		生化学	必	1	
		臨床栄養学	必	1	
		微生物学	必	1	
		病理学	必	1	
		疾病と治療Ⅰ（呼吸・循環・血液・造血・栄養代謝・排泄機能）	必	2	
		疾病と治療Ⅱ（脳神経・感覚・運動機能）	必	1	
	疾病と治療Ⅲ（内部環境調節・性・生殖・生体防御機能・小児）	必	2		
	疾病と治療Ⅳ（精神）	必	1		
	薬理学	必	1		
	薬と健康	選	1		
	老年学	選	1		
	環境と社会	環境と健康	選	1	
		保健医療福祉行政論	必	2	
		社会保障制度論	必	2	
		生活福祉論	選	1	
		障害者福祉論	選	1	
国際保健医療論		選	1		
保健医療福祉専門職連携論		必	1		
疫学		必	2		
保健統計学		必	2		

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門 分野	看護の 基本	看護学原論	必	2	
		ヘルスアセスメント	必	2	
		生活援助技術論	必	3	
		看護治療論	必	2	
		看護過程展開論	必	1	
		基礎看護学実習Ⅰ	必		1
	基礎看護学実習Ⅱ	必		2	
	臨床 看護	成人看護学概論	必	1	
		慢性期援助論	必	2	
		急性期・回復期援助論	必	2	
		終末期援助論	必	1	
		成人看護学実習Ⅰ（慢性期）	必		3
		成人看護学実習Ⅱ（急性期）	必		3
	生涯 発達 看護	小児看護学概論	必	1	
		小児看護援助論	必	3	
		小児看護学実習	必		2
		母性看護学概論	必	1	
		母性看護援助論	必	3	
		母性看護学実習	必		2
		老年看護学概論	必	1	
老年看護援助論		必	3		
老年看護学実習Ⅰ（生活支援）		必		2	
老年看護学実習Ⅱ（健康障害時）		必		2	
生活 支援 看護	精神看護学概論	必	1		
	精神看護援助論	必	3		
	精神看護学実習	必		2	
	在宅看護概論	必	1		
	在宅看護援助論	必	3		
	在宅看護実習	必		2	
	地域看護学概論	必	2		
	地域生活支援技術論	必	2		
	地域看護活動論	必	4		
	学校看護論	必	1		
	産業看護論	必	2		
	地域看護管理論	必	1		
	健康危機管理論	必	1		
	地域看護学実習Ⅰ	必		2	
地域看護学実習Ⅱ	必		3		
看護 の 発 展	看護管理・看護情報学	選	1		
	感染看護論	選	1		
	看護国際協力論	必	1		
	災害と看護活動	必	1		
	クリティカルケア論	選	1		
	リハビリテーション看護論	選	1		
	緩和ケア論	選	1		
	認知症ケア論	選	1		
	遺伝看護	選	1		
	ウィメンズヘルスケア論	選	1		
	リエゾン看護論	選	1		
	家族看護論	選	1		
	健康看護論	必	1		
	看護研究Ⅰ	必	1		
	看護研究Ⅱ	必	2		
	統合実習	必		2	
国際研修	選		1		
ボランティア活動	選		1		

別表第2-5-4 看護学科 開設授業科目一覧 (第21条 第4項関係)
(平成28年度入学以降)

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎 分野	コア	心身健康科学概論	必	1	
		行動科学概論	必	1	
		生命科学概論	必	1	
		文明科学概論	必	1	
		生命倫理	必	1	
	人間と社会	人間工学	選	1	
		統計学	選	1	
		スポーツと健康	選	1	
		体育概論	選	1	
		家族社会学	必	1	
		法学	必	1	
		日本国憲法	選	2	
		人間関係論	必	1	
		心理学	必	1	
		国際文化論	選	1	
		生活文化論	選	1	
		医療英語	必	1	
	セ ミ ナ ー	オーラルコミュニケーション	選	1	
		英語文献講読	選	1	
		職業とキャリア形成	必	1	
		論理的思考と表現法	選	1	
		コミュニケーション演習	必	1	
		コンピュータ入門	必	2	
		数学基礎	選	1	
	生物学基礎	選	1		
	化学基礎	選	1		
	物理学基礎	選	1		
英語基礎	選	1			
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	機能形態学1 (生理学基礎Ⅰ (ホメオスタシス・腎))	必	1	
		機能形態学2 (生理学基礎Ⅱ (ホメオスタシス・腎))	必	1	
		機能形態学3 (循環器系・呼吸器系Ⅰ)	必	1	
		機能形態学4 (循環器系・呼吸器系Ⅱ)	必	1	
		機能形態学5 (神経系・運動器系・感覚器Ⅰ)	必	1	
		機能形態学6 (神経系・運動器系・感覚器Ⅱ)	必	1	
		機能形態学7 (消化器系・代謝・内分泌Ⅰ)	必	1	
		機能形態学8 (消化器系・代謝・内分泌Ⅱ)	必	1	
		機能形態学14 (生化学Ⅰ)	必	1	
	疾病の成り立ち	疾病と治療1 (病理学概論Ⅰ)	必	1	
		疾病と治療2 (病理学概論Ⅱ)	必	1	
		疾病と治療11 (薬理学)	必	1	
		疾病と治療12 (薬と健康)	選	1	
		疾病と治療13 (病理学各論Ⅰ (呼吸・循環・血液・造血))	必	1	
		疾病と治療14 (病理学各論Ⅱ (内分泌・代謝・腎))	必	1	
		疾病と治療15 (病理学各論Ⅲ (神経系・感覚器・運動機能))	必	1	
		疾病と治療16 (病理学各論Ⅳ (免疫・アレルギー・腫瘍・婦人科))	必	1	
		疾病と治療17 (病理学各論Ⅴ (小児))	必	1	
		疾病と治療18 (病理学各論Ⅵ (精神))	必	1	
		疾病と治療19 (臨床栄養学)	必	1	
		疾病と治療20 (微生物学)	必	1	
	疾病と治療21 (老年医学)	選	1		
	健康支援と社会保障制度	環境と健康	選	1	
		保健医療福祉行政論	必	2	
		社会保障制度論	必	2	
		生活福祉論	選	1	
		障害者福祉論	選	1	
		国際保健医療論	選	1	
		保健医療福祉専門職連携論	必	1	
		疫学	必	2	
		保健統計学	選	2	

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門 分野	基礎看護学	看護学原論	必	2	
		看護共通技術Ⅰ	必	1	
		看護共通技術Ⅱ	必	1	
		看護基礎技術Ⅰ	必	2	
		看護基礎技術Ⅱ	必	1	
		看護基礎技術Ⅲ	必	2	
		看護の展開	必	1	
		基礎看護学実習Ⅰ	必		1
		基礎看護学実習Ⅱ	必		2
	成人看護学	成人看護学概論	必	1	
		成人看護援助論Ⅰ	必	2	
		成人看護援助論Ⅱ	必	2	
		成人看護援助論Ⅲ	必	1	
		成人看護学実習Ⅰ (慢性期)	必		3
		成人看護学実習Ⅱ (急性期)	必		3
	小児看護学	小児看護学概論	必	1	
		小児看護援助論	必	3	
		小児看護学実習	必		2
	母性看護学	母性看護学概論	必	1	
		母性看護援助論Ⅰ	必	2	
		母性看護援助論Ⅱ	必	1	
		母性看護学実習	必		2
	老年看護学	老年看護学概論	必	1	
		老年看護援助論Ⅰ	必	2	
		老年看護援助論Ⅱ	必	1	
		老年看護学実習Ⅰ (生活支援)	必		2
		老年看護学実習Ⅱ (健康障害時)	必		2
	精神看護学	精神看護学概論	必	1	
		精神看護援助論	必	3	
		精神看護学実習	必		2
	在宅看護論	在宅看護概論	必	1	
		在宅看護援助論Ⅰ	必	2	
		在宅看護援助論Ⅱ	必	1	
在宅看護実習		必		2	
看護総合演習Ⅰ		必	1		
生活支援看護	看護総合演習Ⅱ	必	1		
	地域看護学概論	必	2		
	地域看護活動論	必	2		
看護の発展	学校看護論	選	1		
	産業看護論	選	2		
	健康危機管理論	選	1		
	看護管理・看護情報学	必	1		
	感染看護論	選	1		
	看護国際協力論	選	1		
	災害と看護活動	選	1		
	クリティカルケア論	選	1		
	リハビリテーション看護論	選	1		
	緩和ケア論	選	1		
	認知症ケア論	選	1		
	遺伝看護	選	1		
	ウィメンズヘルスケア論	選	1		
	リエゾン看護論	選	1		
	家族看護論	選	1		
	健康看護論	選	1		
	看護研究Ⅰ	必	1		
	看護研究Ⅱ	必	2		
	統合実習	必		2	
	共通科目	国際研修	選		1
ボランティア活動		選		1	

別表第2-5-5 看護学科（保健師選択コース） 開設授業科目一覧（第21条第4項関係）
（平成28年度入学以降）

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	コア	心身健康科学概論	必	1	
		行動科学概論	必	1	
		生命科学概論	必	1	
		文明科学概論	必	1	
		生命倫理	必	1	
	人間と社会	人間工学	選	1	
		統計学	選	1	
		スポーツと健康	選	1	
		体育概論	選	1	
		家族社会学	必	1	
		法学	必	1	
		日本国憲法	選	2	
		人間関係論	必	1	
		心理学	必	1	
		国際文化論	選	1	
		生活文化論	選	1	
		医療英語	必	1	
	SEMINARS	オーラルコミュニケーション	選	1	
		英語文献講読	選	1	
		職業とキャリア形成	必	1	
		論理的思考と表現法	選	1	
		コミュニケーション演習	必	1	
		コンピュータ入門	必	2	
		数学基礎	選	1	
	生物学基礎	選	1		
	化学基礎	選	1		
	物理学基礎	選	1		
英語基礎	選	1			
専門基礎分野	人体の構造と機能	機能形態学1 (生理学基礎Ⅰ (ホメオスタシス・腎))	必	1	
		機能形態学2 (生理学基礎Ⅱ (ホメオスタシス・腎))	必	1	
		機能形態学3 (循環器系・呼吸器系Ⅰ)	必	1	
		機能形態学4 (循環器系・呼吸器系Ⅱ)	必	1	
		機能形態学5 (神経系・運動器系・感覚器Ⅰ)	必	1	
		機能形態学6 (神経系・運動器系・感覚器Ⅱ)	必	1	
		機能形態学7 (消化器系・代謝・内分泌Ⅰ)	必	1	
		機能形態学8 (消化器系・代謝・内分泌Ⅱ)	必	1	
	機能形態学14 (生化学Ⅰ)	必	1		
	疾病の成り立ち	疾病と治療1 (病理学概論Ⅰ)	必	1	
		疾病と治療2 (病理学概論Ⅱ)	必	1	
		疾病と治療11 (薬理学)	必	1	
		疾病と治療12 (薬と健康)	選	1	
		疾病と治療13 (病理学各論Ⅰ (呼吸・循環・血液・造血))	必	1	
		疾病と治療14 (病理学各論Ⅱ (内分泌・代謝・腎))	必	1	
		疾病と治療16 (病理学各論Ⅲ (神経系・感覚器・運動機能))	必	1	
		疾病と治療18 (病理学各論Ⅳ (免疫・アレルギー・腫瘍・婦人科))	必	1	
		疾病と治療17 (病理学各論Ⅴ (小児))	必	1	
		疾病と治療18 (病理学各論Ⅵ (精神))	必	1	
		疾病と治療19 (臨床栄養学)	必	1	
		疾病と治療20 (微生物学)	必	1	
疾病と治療21 (老年医学)		選	1		
健康支援と社会保障制度	環境と健康	選	1		
	保健医療福祉行政論	必	2		
	社会保障制度論	必	2		
	生活福祉論	選	1		
	障害者福祉論	選	1		
	国際保健医療論	選	1		
	保健医療福祉専門職連携論	必	1		
疫学	必	2			
保健統計学	必	2			

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門分野	基礎看護学	看護学原論	必	2	
		看護共通技術Ⅰ	必	1	
		看護共通技術Ⅱ	必	1	
		看護基礎技術Ⅰ	必	2	
		看護基礎技術Ⅱ	必	1	
		看護基礎技術Ⅲ	必	2	
		看護の展開	必	1	
		基礎看護学実習Ⅰ	必		1
		基礎看護学実習Ⅱ	必		2
		成人看護学	成人看護学概論	必	1
	成人看護援助論Ⅰ		必	2	
	成人看護援助論Ⅱ		必	2	
	成人看護援助論Ⅲ		必	1	
	成人看護学実習Ⅰ (慢性期)		必		3
	成人看護学実習Ⅱ (急性期)		必		3
	小児看護学		小児看護学概論	必	1
		小児看護援助論	必	3	
		小児看護学実習	必		2
	母性看護学	母性看護学概論	必	1	
		母性看護援助論Ⅰ	必	2	
		母性看護援助論Ⅱ	必	1	
		母性看護学実習	必		2
	老年看護学	老年看護学概論	必	1	
		老年看護援助論Ⅰ	必	2	
		老年看護援助論Ⅱ	必	1	
		老年看護学実習Ⅰ (生活支援)	必		2
		老年看護学実習Ⅱ (健康障害時)	必		2
	精神看護学	精神看護学概論	必	1	
		精神看護援助論	必	3	
		精神看護学実習	必		2
	在宅看護論	在宅看護概論	必	1	
		在宅看護援助論Ⅰ	必	2	
		在宅看護援助論Ⅱ	必	1	
		在宅看護実習	必		2
		看護総合演習	看護総合演習Ⅰ	必	1
	看護総合演習Ⅱ		必	1	
	生活支援看護	地域看護学概論	必	2	
		公衆衛生看護技術論	必	2	
		地域看護活動論	必	2	
		公衆衛生看護活動論	必	2	
		学校看護論	必	1	
		産業看護論	必	2	
公衆衛生看護管理論		必	1		
健康危機管理論		必	1		
公衆衛生看護学実習Ⅰ		必		2	
公衆衛生看護学実習Ⅱ		必		3	
看護の発展	看護管理・看護情報学	必	1		
	感染看護論	選	1		
	看護国際協力論	選	1		
	災害と看護活動	選	1		
	クリティカルケア論	選	1		
	リハビリテーション看護論	選	1		
	緩和ケア論	選	1		
	認知症ケア論	選	1		
	遠伝看護	選	1		
	ウィメンズヘルスケア論	選	1		
	リエゾン看護論	選	1		
	家族看護論	選	1		
	健康看護論	必	1		
	看護研究Ⅰ	必	1		
	看護研究Ⅱ	必	2		
統合実習	必		2		
共通科目	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-5-6 看護学科 開設授業科目一覧 (第21条 第4項関係)
(令和2年度入学以降)

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	心身健康科学	必	1		
	ヒューマンⅠ	必	1		
	ヒューマンⅡ	必	1		
コア	ヒューマンⅢ	必	1		
	生命倫理	必	1		
	心理学	必	1		
	スポーツと健康	選	1		
	体育概論	選	1		
人間の理解	人間工学	選	1		
	美術	選	1		
	コミュニケーション演習	必	1		
	人間関係論	必	1		
	家族社会学	必	1		
他者との共生	法学	必	1		
	日本国憲法	選	2		
	国際文化論	選	1		
	コンピュータ入門Ⅰ	必	1		
	コンピュータ入門Ⅱ	選	1		
	生活文化論	選	1		
	英会話	選	1		
	医療英語	必	1		
	英語文献講読	選	1		
	ベトナム語	選	1		
	岩槻の文化とものづくり	選	1		
	専門的能力の基盤	職業とキャリア形成	必	1	
		大学生入門	必	1	
論理的思考と表現法		選	1		
数学基礎		選	1		
生物学基礎		選	1		
化学基礎		選	1		
物理学基礎		選	1		
英語基礎		選	1		
統計学		選	1		
専門基礎分野		生理学Ⅰ	必	1	
	生理学Ⅱ	必	1		
	生理学Ⅲ	必	2		
	解剖学Ⅰ	必	1		
	解剖学Ⅱ	必	1		
	生化学	必	1		
	栄養学	必	1		
	(健康とその障害を抱える人々への支援)	病理学概論	必	2	
疾病と治療Ⅰ		必	2		
疾病と治療Ⅱ		必	1		
疾病と治療Ⅲ		必	1		
疾病と治療Ⅳ		必	1		
精神科学		必	1		
薬理学		必	1		
薬と健康		選	1		
微生物学		必	1		
老年医学		選	1		
環境と健康		選	1		
保健医療福祉行政論		必	2		
社会保障制度論		必	2		
生活福祉論		選	1		
障害者福祉論		選	1		
疫学Ⅰ		必	1		
疫学Ⅱ		選	1		
保健統計学		選	2		
力専門的能力の基盤		国際保健医療論	選	1	
		保健医療福祉専門職連携論	必	1	

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門分野	看護学原論	必	2		
	看護共通技術Ⅰ	必	1		
	看護共通技術Ⅱ	必	1		
	専門的能力の修得Ⅱ(専門的能力の基盤)	看護基礎技術Ⅰ	必	2	
		看護基礎技術Ⅱ	必	1	
		看護基礎技術Ⅲ	必	2	
		看護の展開	必	1	
		在宅看護学概論	必	1	
		在宅看護援助論Ⅰ	必	2	
		在宅看護援助論Ⅱ	必	1	
		地域看護学概論	必	2	
		地域看護活動論	必	2	
		感染看護論	選	1	
		リエゾン看護論	選	1	
		家族看護論	選	1	
		健康看護論	選	1	
		セクシュアリティ論	選	1	
		専門的能力の修得Ⅲ(対象の特殊性に即した専門的能力)	慢性期看護学概論	必	1
	慢性期看護援助論		必	2	
	急性期看護学概論		必	1	
	急性期看護援助論		必	2	
	小児看護学概論		必	1	
	小児看護援助論		必	3	
	母性看護学概論		必	1	
	母性看護援助論Ⅰ		必	2	
	母性看護援助論Ⅱ		必	1	
	老年看護学概論		必	1	
	老年看護援助論Ⅰ		必	2	
	老年看護援助論Ⅱ		必	1	
	精神看護学概論		必	1	
	精神看護援助論		必	3	
	学校看護論		選	1	
	産業看護論		選	2	
クリティカルケア論	選		1		
リハビリテーション看護論	選		1		
緩和ケア論	選	1			
認知症ケア論	選	1			
遺伝看護	選	1			
(医療施設における実習Ⅳ)	基礎看護学実習Ⅰ	必		1	
	基礎看護学実習Ⅱ	必		2	
	慢性期看護学実習	必		3	
	急性期看護学実習	必		3	
	小児看護学実習	必		2	
Ⅴ(実習Ⅴ)	母性看護学実習	必		2	
	老年看護学実習Ⅱ	必		3	
	精神看護学実習	必		2	
専門的能力の発展	老年看護学実習Ⅰ	必		1	
	在宅看護学実習	必		2	
	統合実習	必		2	
	看護管理・看護情報学	必	1		
	看護研究Ⅰ	必	1		
	看護研究Ⅱ	必	1		
	領域別専門看護学演習	選	1		
	健康危機管理論	選	1		
	看護国際協力論	選	1		
	災害と看護活動	選	1		
科共通	医療経営論	選	1		
	看護教育論	選	1		
	代替医療論	選	1		
	看護研究Ⅲ	選	1		
	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-5-7 看護学科（保健師選択コース） 開設授業科目一覧（第21条第4項関係）
（令和2年度入学以降）

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	心身健康科学	必	1		
	ヒューマンⅠ	必	1		
	ヒューマンⅡ	必	1		
	ヒューマンⅢ	必	1		
コア	生命倫理	必	1		
	心理学	必	1		
	スポーツと健康	選	1		
	体育概論	選	1		
人間の理解	人間工学	選	1		
	美術	選	1		
	コミュニケーション演習	必	1		
	人間関係論	必	1		
他者との共生	家族社会学	必	1		
	法学	必	1		
	日本国憲法	選	2		
	国際文化論	選	1		
	コンピュータ入門Ⅰ	必	1		
	コンピュータ入門Ⅱ	選	1		
	生活文化論	選	1		
	英会話	選	1		
	医療英語	必	1		
	英語文献講読	選	1		
	ベトナム語	選	1		
	岩槻の文化とものづくり	選	1		
	職業とキャリア形成	必	1		
	大学生入門	必	1		
専門的能力の基盤	論理的思考と表現法	選	1		
	数学基礎	選	1		
	生物学基礎	選	1		
	化学基礎	選	1		
	物理学基礎	選	1		
	英語基礎	選	1		
	統計学	選	1		
	生理学Ⅰ	必	1		
	生理学Ⅱ	必	1		
	生理学Ⅲ	必	2		
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	必	1		
	解剖学Ⅱ	必	1		
	生化学	必	1		
	栄養学	必	1		
（健康とその障害を抱える人々への支援）	病理学概論	必	2		
	疾病と治療Ⅰ	必	2		
	疾病と治療Ⅱ	必	1		
	疾病と治療Ⅲ	必	1		
	疾病と治療Ⅳ	必	1		
	精神科学	必	1		
	薬理学	必	1		
	薬と健康	選	1		
	微生物学	必	1		
	老年医学	選	1		
	環境と健康	選	1		
	保健医療福祉行政論	必	2		
	社会保障制度論	必	2		
	生活福祉論	選	1		
	障害者福祉論	選	1		
	疫学Ⅰ	必	1		
	疫学Ⅱ	必	1		
	保健統計学	必	2		
	発展	国際保健医療論	選	1	
		保健医療福祉専門職連携論	必	1	

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門分野	看護学原論	必	2		
	看護共通技術Ⅰ	必	1		
	看護共通技術Ⅱ	必	1		
	専門的能力の修得Ⅱ（専門的能力の基盤）	看護基礎技術Ⅰ	必	2	
		看護基礎技術Ⅱ	必	1	
		看護基礎技術Ⅲ	必	2	
		看護の展開	必	1	
		在宅看護学概論	必	1	
		在宅看護援助論Ⅰ	必	2	
		在宅看護援助論Ⅱ	必	1	
		地域看護学概論	必	2	
		地域看護活動論	必	2	
		感染看護論	選	1	
		リエゾン看護論	選	1	
		家族看護論	選	1	
		健康看護論	必	1	
		セクシュアリティ論	選	1	
	専門的能力の修得Ⅲ（対象の特殊性に即した専門的能力）	慢性期看護学概論	必	1	
		慢性期看護援助論	必	2	
		急性期看護学概論	必	1	
		急性期看護援助論	必	2	
		小児看護学概論	必	1	
		小児看護援助論	必	3	
		母性看護学概論	必	1	
		母性看護援助論Ⅰ	必	2	
		母性看護援助論Ⅱ	必	1	
		老年看護学概論	必	1	
		老年看護援助論Ⅰ	必	2	
		老年看護援助論Ⅱ	必	1	
		精神看護学概論	必	1	
		精神看護援助論	必	3	
		公衆衛生看護技術論	必	2	
公衆衛生看護活動論		必	2		
公衆衛生看護管理論		必	1		
学校看護論		必	1		
産業看護論		必	2		
クリティカルケア論		選	1		
リハビリテーション看護論	選	1			
緩和ケア論	選	1			
認知症ケア論	選	1			
遺伝看護	選	1			
専門的能力の修得Ⅳ（医療施設における実践力）	基礎看護学実習Ⅰ	必	1	1	
	基礎看護学実習Ⅱ	必	2	2	
	慢性期看護学実習	必	3	3	
	急性期看護学実習	必	3	3	
	小児看護学実習	必	2	2	
	母性看護学実習	必	2	2	
	老年看護学実習Ⅱ	必	3	3	
	精神看護学実習	必	2	2	
	V（専門的能力の修得（地域における実践力））	老年看護学実習Ⅰ	必	1	1
		在宅看護学実習	必	2	2
統合実習		必	2	2	
専門的能力の発展	公衆衛生看護学実習Ⅰ	必	2	2	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	必	3	3	
	看護管理・看護情報学	必	1	1	
	看護研究Ⅰ	必	1	1	
	看護研究Ⅱ	必	1	1	
	領域別専門看護学演習	選	1	1	
	健康危機管理論	必	1	1	
	看護国際協力論	選	1	1	
	災害と看護活動	選	1	1	
	医療経営論	選	1	1	
看護教育論	選	1	1		
代替医療論	選	1	1		
看護研究Ⅲ	選	1	1		
科目共通	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-6-1 リハビリテーション学科理学療法専攻 開設授業科目一覧（第21条第5項関係）

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	コア	心身健康科学概論	必	1	
		行動科学概論	必	1	
		生命科学概論	必	1	
		文明科学概論	必	1	
		生命倫理	必	1	
	人間と社会	ストレスと健康	必	1	
		人間工学	選	1	
		統計学	必	1	
		情報論	必	1	
		物理学	必	1	
		スポーツと健康	選	1	
		食べもの学	選	1	
		生物学	選	1	
	人間と文化	家族社会学	必	1	
		法学	必	1	
		人間関係論	必	1	
		地域貢献論	選	1	
	U H A S セミナー	国際文化論	必	1	
		オーラルコミュニケーション	選	1	
		英語文献講読	選	1	
		医療英語	必	1	
		基礎英語	選	1	
	専門基礎分野	職業とキャリア形成	必	1	
		論理的思考と表現法	必	1	
		コミュニケーション演習	必	1	
		コンピュータ入門	選	1	
		健康の現象	解剖学	必	3
解剖学実習			必		2
生理学			必	2	
生理学実習			必		1
運動学			必	2	
運動学実習			必		1
人間発達学			必	1	
臨床運動学			必	1	
一般臨床医学			必	1	
臨床心理学			必	1	
病理学			必	1	
内科学			必	1	
内科学特論			必	1	
整形外科			必	2	
神経内科学			必	1	
神経内科学特論		必	1		
精神医学	必	1			
精神医学特論	必	1			
小児科学	必	1			
老年学	必	1			
外科学	選	1			
薬理学	選	1			
感染予防・消毒法	必	1			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	必	1		
	リハビリテーション概論	必	1		
	社会福祉学	必	1		
	保健医療福祉専門職連携論	必	1		
	公衆衛生学	選	1		
	社会参加と高齢者の福祉	選	1		
	社会参加と高齢者の心理	選	1		
	作業療法概論	必	1		
	言語聴覚学概論	選	1		
	救急救命論	選	1		
	栄養学	選	1		
	看護学	選	1		
	リハビリテーションと国際協力	選	1		
国際保健医療論	選	1			

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	必	1	
		基礎理学療法学	必	2	
		理学療法教育管理論	必	1	
		基礎理学療法学見学実習セミナー	必	1	
		理学療法学研究法	必	1	
		病態運動学	必	2	
	理学療法評価学	理学療法評価概論	必	1	
		理学療法評価学Ⅰ	必	1	
		理学療法評価学Ⅱ	必	1	
		理学療法評価学実習Ⅰ	必		1
		理学療法評価学実習Ⅱ	必		1
		理学療法評価学臨床実習セミナー	必	1	
	理学療法治療学	運動療法学総論	必	1	
		運動器理学療法学	必	1	
		運動器理学療法学実習	必		1
		神経系理学療法学	必	2	
		神経系理学療法学実習	必		1
		老年期理学療法学	必	2	
		小児理学療法学	必	1	
		小児理学療法学実習	必		1
		循環器系理学療法学	必	1	
		呼吸器系理学療法学	必	1	
		代謝系理学療法学	必	1	
		物理療法学	必	2	
		物理療法学実習	必		2
		義肢装具学	必	2	
		義肢装具学実習	必		1
		日常生活活動学	必	2	
		日常生活活動学実習	必		1
		疾患別治療計画	必	1	
		理学療法技術学	選	1	
		急性期理学療法	選	1	
	装具療法特論	選	1		
	スポーツ理学療法学	選	1		
スポーツ障害治療学	選	1			
高次脳機能学	選	1			
総合理学療法学演習	選	1			
療域学	生活環境学	必	2		
	地域理学療法学	必	1		
	リハビリテーション機器	必	1		
臨床実習	基礎理学療法学見学実習	必		1	
	理学療法評価学臨床実習	必		4	
	総合臨床実習Ⅰ	必		7	
	総合臨床実習Ⅱ	必		7	
卒業研究	卒業研究	必	4		
共通科目	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-6-2 リハビリテーション学科理学療法学専攻 開設授業科目一覧 (第21条第5項関係)
(平成28年度入学以降)

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数			
			講義・ 演習	実験・ 実習		
基礎分野	コア	心身健康科学概論	必	1		
		行動科学概論	必	1		
		生命科学概論	必	1		
		文明科学概論	必	1		
		生命倫理	必	1		
	U H A S セミナー	人間工学	選	1		
		統計学	必	1		
		スポーツと健康	選	1		
		体育概論	選	1		
		家族社会学	選	1		
		法学	選	1		
		人間関係論	選	1		
		心理学	選	1		
		国際文化論	選	1		
		生活文化論	選	1		
		医療英語	必	1		
		オールラウンドコミュニケーション	選	1		
		英語文献講読	選	1		
	専門基礎分野	人体の構造と機能	職業とキャリア形成	必	1	
			論理的思考と表現法	必	1	
			コミュニケーション演習	必	1	
			コンピュータ入門	必	2	
			数学基礎	選	1	
			生物学基礎	選	1	
			化学基礎	選	1	
			物理学基礎	必	1	
			英語基礎	選	1	
機能形態学1 (生理学基礎 I (ホメオスタシス・腎))			必	1		
機能形態学3 (循環器系・呼吸器系 I)			必	1		
機能形態学5 (神経系・運動器系・感覚器 I)	必	1				
機能形態学6 (神経系・運動器系・感覚器 II)	必	1				
機能形態学7 (消化器系・代謝・内分泌 I)	必	1				
機能形態学8 (消化器系・代謝・内分泌 II)	必	1				
機能形態学9 (神経系・運動器系解剖学)	必	2				
機能形態学10 (解剖学実習)	必		2			
機能形態学11 (運動学)	必	2				
機能形態学12 (運動学実習)	必		1			
機能形態学13 (人間発達学)	必	1				
機能形態学16 (生理学実習)	必		1			
疾病の成り立ち	疾病と治療1 (病理学概論 I)	必	1			
	疾病と治療2 (病理学概論 II)	必	1			
	疾病と治療3 (一般臨床医学)	必	1			
	疾病と治療4 (神経内科学)	必	1			
	疾病と治療5 (整形外科)	必	2			
	疾病と治療6 (臨床心理学)	必	1			
	疾病と治療8 (精神科学)	必	1			
	疾病と治療9 (理学療法内科学)	必	1			
	疾病と治療10 (理学療法神経内科学)	必	1			
	疾病と治療11 (薬理学)	選	1			
	疾病と治療21 (老年医学)	選	1			
	疾病と治療25 (感染予防・消毒法)	必	1			
	疾病と治療26 (緩和医療)	必	1			
疾病と治療27 (理学療法小児科学)	必	1				
リハビリテーションの理念	リハビリテーション1 (リハビリテーション概論)	必	1			
	公衆衛生学	必	1			
	社会福祉学	必	1			
	リハビリテーション4 (作業療法学)	必	1			
	リハビリテーション5 (言語聴覚学)	必	1			
	保健医療福祉専門職連携論	必	1			
	国際保健医療論	選	1			
看護学	選	1				
栄養学	選	1				

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	必	2	
		基礎理学療法学	必	2	
		理学療法学総合演習 I	必	1	
		理学療法学総合演習 II	必	1	
		理学療法学総合演習 III	必	1	
		理学療法学総合演習 IV	必	1	
		理学療法学総合演習 V	必	1	
		理学療法学総合演習 VI	必	1	
		理学療法学総合演習 VII	必	2	
		理学療法管理と運営	必	1	
		理学療法指導論	必	1	
		理学療法学研究法	必	2	
		卒業研究 I	選	1	
		卒業研究 II	選	2	
	理学療法 評価学	表面解剖と触診法	必	1	
		理学療法評価学	必	2	
		理学療法評価学実習 I	必		1
		理学療法評価学実習 II	必		1
		理学療法評価学演習	必	2	
	理学療法治療学	生体計測と運動分析	選	2	
		運動療法学	必	2	
		運動療法学実習	必		1
		物理療法学	必	2	
		物理療法学実習	必		1
		義肢装具学	必	2	
		義肢装具学実習	必		1
		急性期理学療法学	必	2	
		徒手理学療法技術学	選	2	
		骨関節系理学療法学	必	2	
		骨関節系理学療法実習	必		1
神経系理学療法学	必	2			
神経系理学療法実習	必		2		
療法学 地域	小児理学療法学	必	2		
	循環器系理学療法学	必	1		
	呼吸器系理学療法学	必	1		
	代謝系理学療法学	必	1		
	スポーツ理学療法学	選	2		
	日常生活活動	必	2		
	地域理学療法学	必	2		
	生活環境学	必	2		
	健康増進と予防理学療法	選	2		
	臨床 実習	理学療法学見学実習	必		1
理学療法評価学臨床実習		必		3	
総合臨床実習 I		必		7	
科共 目通	総合臨床実習 II	必		7	
	国際研修	選		1	
ボランティア活動	選		1		

別表第2-6-3 リハビリテーション学科理学療法学専攻 開設授業科目一覧（第21条第5項関係）
（令和2年度入学以降）

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	コア	心身健康科学	必	1	
		ヒューマンⅠ	必	1	
		ヒューマンⅡ	必	1	
		ヒューマンⅢ	必	1	
		生命倫理	必	1	
	人間の理解	心理学	選	1	
		スポーツと健康	選	1	
		美術	選	1	
	他者との共生	コミュニケーション演習	必	1	
		人間関係論	選	1	
		倫理学	必	1	
		法学	選	1	
		国際文化論	選	1	
		教育学	必	1	
		コンピュータ入門	必	1	
		英会話	選	1	
		医療英語	必	1	
		英語文献講読	選	1	
ベトナム語	選	1			
岩槻の文化とものづくり	選	1			
専門的能力の基盤	職業とキャリア形成	必	1		
	論理的思考と表現法	必	1		
	数学基礎	選	1		
	生物学基礎	選	1		
	化学基礎	選	1		
	物理学基礎	必	1		
	英語基礎	選	1		
	統計学	必	1		
専門基礎分野	生理学Ⅰ	必	1		
	生理学Ⅱ	必	1		
	生理学Ⅲ	必	1		
	生理学実習	必		2	
	解剖学Ⅰ	必	2		
	解剖学Ⅱ	必	1		
	解剖学実習	必		2	
	運動学	必	2		
	運動学実習	必		1	
	人間発達学	必	1		
	栄養学	必	1		
	医学概論	必	1		
	病理学	必	1		
	内科学	必	1		
	神経内科学Ⅰ	必	1		
	神経内科学Ⅱ	必	1		
	整形外科科学	必	2		
	小児科学	必	1		
	老年医学	必	1		
	精神科学	必	1		
	緩和医療学	必	1		
	臨床心理学	選	1		
	消毒法・感染症・救急救命	必	1		
	人間工学	必	1		
	医用画像学概論	必	1		
	薬理学	必	1		
	リハビリテーション概論	必	1		
	公衆衛生学	必	1		
	看護学	選	1		
	作業療法学	必	1		
	言語聴覚療法学	必	1		
	専門的能力の発展	国際保健医療論	選	1	
保健医療福祉専門職連携論		必	1		

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数			
			講義・ 演習	実験・ 実習		
専門分野	専門的能力の修得	基礎理学療法学	必	1		
		表面解剖と触診法	必	1		
		理学療法評価学	必	1		
		理学療法評価学演習Ⅰ	必	2		
		理学療法評価学演習Ⅱ	必	2		
		理学療法画像評価学	必	1		
		生体計測と運動分析	選	1		
		理学療法臨床推論	必	1		
		運動療法学	必	1		
		運動療法学演習	必	1		
		物理療法学	必	1		
		物理療法学演習	必	2		
		義肢装具学	必	1		
		義肢装具学演習	必	2		
		骨関節系理学療法学	必	1		
		骨関節系理学療法学演習	必	2		
		神経系理学療法学	必	1		
		神経系理学療法学演習	必	2		
		呼吸器系理学療法学	必	1		
		循環器系理学療法学	必	1		
		代謝系および痛理学療法	必	1		
		小児理学療法学	必	1		
		小児理学療法学演習	必	1		
		急性期理学療法学	必	1		
		スポーツ理学療法学	選	1		
		日常生活活動学	必	2		
		地域理学療法学	必	1		
		生活環境学	必	1		
		健康増進と予防理学療法	選	1		
		理学療法学総合演習Ⅰ	必	1		
		理学療法学総合演習Ⅱ	必	1		
		理学療法学総合演習Ⅲ	必	1		
		理学療法学総合演習Ⅳ	必	1		
		理学療法学総合演習Ⅴ	必	1		
		理学療法学総合演習Ⅵ	必	1		
		理学療法学総合演習Ⅶ	必	2		
		理学療法学見学実習	必		1	
		理学療法評価学臨床実習	必		4	
		総合臨床実習Ⅰ	必		8	
		総合臨床実習Ⅱ	必		8	
		地域理学療法学臨床実習	必		1	
		専門的能力の発展	理学療法管理	必	1	
			理学療法指導論	必	1	
医療経営論	選		1			
医療安全学	必		1			
徒手理学療法技術学	必		1			
理学療法特論Ⅰ	選		1			
理学療法特論Ⅱ	選		1			
理学療法学研究法	必		1			
卒業研究Ⅰ	選		1			
卒業研究Ⅱ	選		2			
科共 目通	国際研修	選		1		
	ボランティア活動	選		1		

別表第2-7-1 リハビリテーション学科義肢装具学専攻 開設授業科目一覧 (第21条 第6項関係)

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数			
			講義・ 演習	実験・ 実習		
基礎 分野	コア	心身健康科学概論	必	1		
		行動科学概論	必	1		
		生命科学概論	必	1		
		文明科学概論	必	1		
		生命倫理	必	1		
	人間と 社会	ストレスと健康	必	1		
		人間工学	選	1		
		統計学	必	1		
		情報論	必	1		
		物理学	必	1		
		数学	必	1		
		スポーツと健康	選	1		
		食べもの学	選	1		
		生物学	選	1		
		生化学	選	1		
		人間と 文化	家族社会学	必	1	
			法学	必	1	
	人間関係論		必	1		
	セ ミ ナ ー	地域貢献論	選	1		
		国際文化論	必	1		
		オーラルコミュニケーション	選	1		
		英語文献講読	選	1		
		医療英語	必	1		
	専門 基礎 分野	基礎英語	選	1		
		中国語	選	1		
		職業とキャリア形成	必	1		
		論理的思考と表現法	必	1		
コミュニケーション演習		必	1			
コンピュータ入門		選	1			
健康の 現象		解剖学	必	3		
		解剖学実習	必		2	
		機能解剖学	必	2		
		生理学	必	2		
	運動学	必	2			
	運動学実習	必		1		
	人間発達学	必	1			
	一般臨床医学	必	1			
	臨床心理学	必	1			
	病理学	必	1			
	整形外科	必	2			
	神経内科学	必	1			
	小児科学	必	1			
	老年学	必	1			
	精神医学	必	1			
	内科学	選	1			
	外科学	選	1			
	薬理学	選	1			
感染予防・消毒法	必	1				

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
専門 基礎 分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	必	1	
		社会福祉学	必	1	
		保健医療福祉専門職連携論	必	1	
		公衆衛生学	選	1	
		社会参加と高齢者の福祉	選	1	
		社会参加と高齢者の心理	選	1	
		理学療法学	必	1	
		作業療法概論	必	1	
		福祉用具学	必	1	
		福祉用具学演習	必	1	
		義肢装具関係法規	必	1	
		言語聴覚学概論	選	1	
		救急救命論	選	1	
		栄養学	選	1	
		看護学	選	1	
	リハビリテーションと国際協力	選	1		
	国際保健医療論	選	1		
	義肢装具の技術	図学・製図学	必	1	
		義肢装具材料学	必	1	
		義肢装具材料力学	必	1	
		情報処理演習	必	2	
		機構学	必	1	
		機械要素設計	必	1	
		制御工学	必	1	
		システム工学	必	1	
	リハビリテーション工学	必	1		
	基礎義肢装具学	義肢装具学概論	必	2	
義肢装具基礎工作論		必	2		
義肢装具基礎工作実習		必		3	
義肢Ⅰ(下腿義足)		必	1		
義肢Ⅰ実習(下腿義足)		必		4	
装具Ⅰ(下肢装具)		必	1		
装具Ⅰ実習(下肢装具)		必		6	
応用義肢装具学		義肢装具応用工作論	必	1	
		義肢装具応用工作実習	必		3
		義肢Ⅱ(義手)	必	1	
	義肢Ⅱ実習(義手)	必		2	
	義肢Ⅲ(大腿義足)	必	1		
	義肢Ⅲ実習(大腿義足)	必		5	
	義肢Ⅳ(特殊義足)	選	1		
	義肢Ⅴ(股義足)	選	1		
	装具Ⅱ(体幹装具)	必	1		
	装具Ⅱ実習(体幹装具)	必		2	
	装具Ⅲ(上肢装具)	必	1		
	装具Ⅲ実習(上肢装具)	必		2	
	装具Ⅳ(特殊装具)	選	1		
	装具Ⅴ(靴型装具)	必	1		
	装具Ⅵ(座位保持装置)	必	1		
装具Ⅶ(車いす)	選	1			
義肢装具特論	選	1			
実 臨 習 床	見学実習	必		1	
	臨床実習Ⅰ	必		4	
	臨床実習Ⅱ	必		4	
卒業研究	卒業研究	必	4		
共通科目	国際研修	選		1	
	ボランティア活動	選		1	

別表第2-7-2 リハビリテーション学科義肢装具学専攻 開設授業科目一覧 (平成28年度入学以降) (第21条 第6項関係)

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数			
			講義・ 演習	実験・ 実習		
基礎 分野	コア	心身健康科学概論	必	1		
		行動科学概論	必	1		
		生命科学概論	必	1		
		文明科学概論	必	1		
		生命倫理	必	1		
	人間と社会	人間工学	選	1		
		統計学	必	1		
		スポーツと健康	選	1		
		体育概論	選	1		
		家族社会学	選	1		
		法学	選	1		
		人間関係論	選	1		
		心理学	選	1		
		国際文化論	選	1		
		生活文化論	選	1		
		医療英語	必	1		
		オーラルコミュニケーション	選	1		
		英語文献講読	選	1		
	SEM ナ I S	職業とキャリア形成	必	1		
		論理的思考と表現法	必	1		
		コミュニケーション演習	必	1		
コンピュータ入門		必	2			
数学基礎		選	1			
生物学基礎		選	1			
化学基礎		選	1			
物理学基礎	必	1				
英語基礎	選	1				
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	機能形態学1 (生理学基礎Ⅰ (ホメオスタシス・腎))	必	1		
		機能形態学3 (循環器系・呼吸器系Ⅰ)	必	1		
		機能形態学5 (神経系・運動器系・感覚器Ⅰ)	必	1		
		機能形態学6 (神経系・運動器系・感覚器Ⅱ)	必	1		
		機能形態学7 (消化器系・代謝・内分泌Ⅰ)	必	1		
		機能形態学8 (消化器系・代謝・内分泌Ⅱ)	必	1		
		機能形態学9 (神経系・運動器系解剖学)	必	2		
		機能形態学10 (解剖学実習)	必		2	
		機能形態学11 (運動学)	必	2		
		機能形態学12 (運動学実習)	必		1	
		機能形態学13 (人間発達学)	必	1		
		機能形態学17 (機能解剖学)	必	2		
		疾病の成り立ち	疾病と治療1 (病理学概論Ⅰ)	必	1	
			疾病と治療2 (病理学概論Ⅱ)	必	1	
			疾病と治療3 (一般臨床医学)	必	1	
			疾病と治療4 (神経内科学)	必	1	
		疾病と治療5 (整形外科学)	必	2		
	疾病と治療6 (臨床心理学)	必	1			
	疾病と治療7 (皮膚科学)	必	1			
	疾病と治療21 (老年医学)	選	1			

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数			
			講義・ 演習	実験・ 実習		
専門 基礎 分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	社会福祉学	必	1		
		公衆衛生学	必	1		
		リハビリテーション2(リハビリテーション医学)	必	1		
		リハビリテーション3(理学療法学)	必	1		
		リハビリテーション4(作業療法学)	必	1		
		看護学	選	1		
		栄養学	選	1		
		国際保健医療論	選	1		
		保健医療福祉専門職連携論	必	1		
		福祉用具学	必	1		
		福祉用具学演習	必	1		
		義肢装具関係法規	必	1		
		義肢装具の技術	図学・製図学	必	1	
			義肢装具材料学	必	1	
	義肢装具材料力学		必	1		
	情報処理演習		必	2		
	機構学		必	1		
	機械要素設計		必	1		
	制御工学		必	1		
	専門 分野	基礎義肢装具学	義肢装具学概論	必	2	
			義肢装具工作論	必	2	
義肢装具工作実習			必		6	
下腿義足Ⅰ			必	1		
下腿義足実習Ⅰ			必		5	
体幹装具			必	1		
体幹装具実習			必		3	
義肢装具学基礎演習Ⅰ			必	1		
義肢装具学基礎演習Ⅱ			必	2		
見学実習Ⅰ			必		1	
応用義肢装具学		下肢装具Ⅰ	必	1		
		下肢装具実習Ⅰ	必		5	
		大腿義足	必	1		
		大腿義足実習	必		5	
	下腿義足実習Ⅱ	必		1		
	下肢装具実習Ⅱ	必		1		
	上肢装具	必	1			
	上肢装具実習	必		3		
	義手	必	1			
	義手実習	必		3		
臨床実習	靴型装具	必	1			
	車いす・シーティング	必	2			
	特殊義足	選	1			
	特殊装具	選	1			
	義肢装具特論	選	1			
	義肢装具学総合演習Ⅰ	必	2			
	義肢装具学総合演習Ⅱ	必	2			
	見学実習Ⅱ	必		1		
	臨床実習Ⅰ	必		4		
	臨床実習Ⅱ	必		4		
卒業研究	研究手法演習	必	1			
	卒業研究	必	2			
共通科目	国際研修	選		1		
	ボランティア活動	選		1		

別表第2-7-3 リハビリテーション学科義肢装具学専攻 開設授業科目一覧
(令和2年度入学以降)

(第21条 第6項関係)

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数		
			講義・ 演習	実験・ 実習	
基礎分野	コア	心身健康科学	必	1	
		ヒューマンI	必	1	
		ヒューマンII	必	1	
		ヒューマンIII	必	1	
		生命倫理	必	1	
	人間の 理解の	心理学	選	1	
		スポーツと健康	選	1	
		美術	選	1	
	他者との 共生	コミュニケーション演習	必	1	
		人間関係論	選	1	
		倫理学	必	1	
		法学	選	1	
		国際文化論	選	1	
		コンピュータ入門	必	1	
		英会話	選	1	
		医療英語	選	1	
		英語文献講読	選	1	
		ベトナム語	選	1	
	岩瀬の文化とものづくり	選	1		
	専門的 能力の 基盤	職業とキャリア形成	必	1	
		論理的思考と表現法	必	1	
		数学基礎	選	1	
		生物学基礎	選	1	
		物理学基礎	選	1	
		英語基礎	選	1	
		統計学	必	1	
		情報処理演習	必	2	
専門基礎 分野	生理学的 基礎	生理学I	必	1	
		生理学II	必	1	
		生理学III	必	1	
		生理学実習	必		2
		解剖学I	必	2	
		解剖学II	必	1	
		解剖学実習	必		2
		運動学	必	2	
		運動学実習	必		1
		人間発達学	必	1	
		栄養学	選	1	
		医学概論	必	1	
		病理学	必	1	
		機能解剖学	必	2	
	専門的 能力の 修得	神経内科学	必	1	
		整形外科学	必	2	
		皮膚科学	必	1	
		老年医学	選	1	
		社会福祉学	必	1	
		臨床心理学	必	1	
		公衆衛生学	必	1	
		リハビリテーション医学I	必	2	
		リハビリテーション医学II	必	1	
		看護学	選	1	
		義肢装具学基礎演習I	必	1	
		義肢装具学基礎演習II	必	2	

分野	授業科目名	必修・ 選択の別	単位数				
			講義・ 演習	実験・ 実習			
専門基礎 分野	専門的 能力の 発展	図学・製図学	必	1			
		機構学	必	1			
		機械要素設計	必	1			
		義肢装具材料学	必	1			
		義肢装具材料力学	必	1			
		制御工学	必	1			
		システム工学	必	1			
		人間工学	必	1			
		リハビリテーション工学	必	1			
		義肢装具関係法規	必	1			
		国際保健医療論	選	1			
		保健医療福祉専門職連携論	必	1			
		専門 分野	専門的 能力の 修得	義肢装具学概論I	必	1	
				義肢装具学概論II	必	1	
義肢装具製作技術入門	必			8			
義肢装具学総合演習I	必			2			
義肢装具学総合演習II	必			2			
義手学	必			4			
義足学I	必			6			
義足学II	必			6			
股義足学	選			1			
体幹装具学	必			4			
上肢装具学	必			4			
下肢装具学	必			6			
専門 分野	専門的 能力の 発展			フットウェア	必	2	
				小児装具学	選	1	
		福祉用具学	必	2			
		車椅子・シーティング	必	2			
		最新の義肢装具・支援機器	選	1			
		義肢装具技能試験	必		2		
		見学実習I	必		1		
		見学実習II	必		1		
		臨床実習I	必		4		
		臨床実習II	必		4		
		研究手法演習	必	1			
		卒業研究	必	2			
		共通 科目	国際研修	選		1	
			ボランティア活動	選		1	

別表第3-1-1 心身健康科学科の卒業の要件（第32条関係）

区分 授業科目の種類	卒業に必要な最低単位数 ()は、そのうち スクーリングにより 必要な最低単位数	単位の修得上の要件 及び認定方法	
基礎科目	1 (1)	1 単位以上を修得	
専門科目 コア科目	18 (8)	18 単位以上を修得	
統合科目	6	6 単位以上を修得	
分野別科目	こころ・精神の理解	4	4 単位以上を修得
	からだ・保健の理解	4	4 単位以上を修得
	文化・社会の理解	4	4 単位以上を修得
総合演習	8 (4)	8 単位以上を修得	
教職課程	—	—	
看護教員養成プログラム	—	—	
合計	上記を含めて 124 (30)	—	

別表第3-1-2 心身健康科学科の卒業の要件（第32条関係）
人間科学部心身健康科学科（平成31年度入学以降）

区分 授業科目の種類	卒業に必要な最低単位数 ()は、そのうち スクーリングにより 必要な最低単位数	単位の修得上の要件 及び認定方法	
基礎科目	1 (1)	1 単位以上を修得	
専門科目 コア科目	10 (4)	10 単位以上を修得	
分野別科目	統合Ⅰ	8 (4)	8 単位以上を修得
	統合Ⅱ	8 (2)	8 単位以上を修得
	統合Ⅲ	8 (2)	8 単位以上を修得
	統合Ⅳ	2	2 単位以上を修得
総合演習	8 (4)	8 単位以上を修得	
教職課程	—	—	
看護教員養成プログラム	—	—	
合計	上記を含めて 124 (30)	—	

別表第3-1-3 看護教員養成コースの卒業の要件（第32条関係）

区分		合計	左の内訳		
			看護教員養成プログラムで履修する単位数	看護教員養成プログラムの他に履修する必要がある単位数 (括弧内はスクーリングでの修得単位数)	
基礎科目	必修	1 (1)	—	1 (1)	
コア科目	必修	18 (9)	—	18 (9)	
統合科目	選択必修	6以上	1	5以上	
分野別科目	こころ・精神の理解	選択必修	4以上	3	1以上
	からだ・保健の理解	選択必修	4以上	—	4以上
	文化・社会の理解	選択必修	6以上	6	—
総合演習	必修	8 (4)	—	8 (4)	
教職課程科目	必修	2	2	—	
看護教員養成プログラム（専門分野）	必修	24	—	—	
単位数合計		73単位以上	36単位	37単位以上	

別表第3-2 健康栄養学科の卒業の要件（第32条関係）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	26	1
専門基礎分野	32	10
専門分野	40	13
小計	98	24
合計	上記を含めて130	

別表第3-2-2 健康栄養学科の卒業の要件（第32条関係）
（平成28年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	27	1
専門基礎分野	34	10
専門分野	38	14
小計	99	25
合計	上記を含めて130	

別表第3-2-3 健康栄養学科の卒業の要件（第32条関係）
（平成31年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	26	1
専門基礎分野	34	10
専門分野	38	14
小計	98	25
合計	上記を含めて130	

別表第3-3 ヘルスフードサイエンス学科の卒業の要件（第32条関係）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	28	1
専門基礎分野	14	4
専門分野	16	0
小計	58	5
合計	上記を含めて130	

別表第3-3-2 ヘルスフードサイエンス学科の卒業の要件（第32条関係）
（平成30年度入学以降）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	30	1
専門基礎分野	28	6
専門分野	26	9
小計	84	16
合計	上記を含めて130	

別表第3-4-1 看護学科の卒業の要件（第32条関係）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	12	—
専門基礎分野	25	—
専門分野	52	27
小計	89	27
合計	上記を含めて128	

別表第3-4-2 看護学科の卒業の要件（第32条関係）
（平成24年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	13	—
専門基礎分野	22	—
専門分野	45	23
小計	80	23
合計	上記を含めて128	

別表第3-4-3 看護学科（保健師選択コース）の卒業の要件（第32条関係）
（平成24年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	13	—
専門基礎分野	24	—
専門分野	55	28
小計	92	28
合計	上記を含めて132	

別表第3-4-4 看護学科の卒業の要件（第32条関係）
（平成28年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	14	—
専門基礎分野	27	—
専門分野	46	23
小計	87	23
合計	上記を含めて128	

別表第3-4-5 看護学科（保健師選択コース）の卒業の要件（第32条関係）
（平成28年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	14	—
専門基礎分野	29	—
専門分野	56	28
小計	99	28
合計	上記を含めて132	

別表第3-4-6 看護学科の卒業の要件（第32条関係）
（令和2年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	14	—
専門基礎分野	24	—
専門分野	43	23
小計	81	23
合計	上記を含めて124	

別表第3-4-7 看護学科（保健師選択コース）の卒業の要件（第32条関係）
（令和2年度入学以降）

授業形態 授業科目の分野	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
基礎分野	14	—
専門基礎分野	27	—
専門分野	53	28
小計	94	28
合計	上記を含めて128	

別表第3-5-1 リハビリテーション学科理学療法学専攻の卒業の要件（第32条関係）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	17	—
専門基礎分野	28	4
専門分野	37	28
小計	82	32
合計	上記を含めて124	

別表第3-5-2 リハビリテーション学科理学療法学専攻の卒業の要件（第32条関係）
（平成28年度入学以降）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	13	—
専門基礎分野	30	4
専門分野	44	26
小計	87	30
合計	上記を含めて124	

別表第3-5-3 リハビリテーション学科理学療法学専攻の卒業の要件（第32条関係）
（令和2年度入学以降）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	14	—
専門基礎分野	30	5
専門分野	46	22
小計	90	27
合計	上記を含めて124	

別表第3-6-1 リハビリテーション学科義肢装具学専攻の卒業の要件（第32条関係）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	18	—
専門基礎分野	38	3
専門分野	15	36
小計	71	39
合計	上記を含めて124	

別表第3-6-2 リハビリテーション学科義肢装具学専攻の卒業の要件（第32条関係）
（平成28年度入学以降）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	13	—
専門基礎分野	40	3
専門分野	23	42
小計	76	45
合計	上記を含めて124	

別表第3-6-3 リハビリテーション学科義肢装具学専攻の卒業の要件（第32条関係）
（令和2年度入学以降）

授業形態	講義・演習の 必修科目 単位数	実験・実習の 必修科目 単位数
授業科目の分野		
基礎分野	13	—
専門基礎分野	37	5
専門分野	53	12
小計	103	17
合計	上記を含めて124	

人間総合科学大学学則の変更事項を記載した書類

1. 学則変更の事由

急速に高齢化が進む日本社会にて、高まる看護師と理学療法士のニーズに応えるため、「保健医療学部」の「看護学科」、ならびに「リハビリテーション学科 理学療法学専攻」の収容定員を増員し、また、ヘルスフードサイエンス学科の定員の適正化を図るため収容定員を減員することに伴う必要の改定。

2. 変更点

- (1) 第3条第1項の表中、「人間科学部」の「ヘルスフードサイエンス学科」の入学定員を20名減員して「60名」とし、収容定員を「240名」とする。
- (2) 第3条第1項の表中、「保健医療学部」の「看護学科」の入学定員を10名増員して「90名」とし、収容定員を「360名」とする。
- (3) 第3条第1項の表中、「保健医療学部」の「リハビリテーション学科 理学療法学専攻」の入学定員を10名増員して「50名」とし、収容定員を「200名」とする。

3. 変更時期

令和2年4月1日

人間総合科学大学 学則 新旧対照表（案）

新			旧		
<p>（学部・学科及び収容定員）</p> <p>第3条 本大学に、次の学部及び学科を置き、その収容定員を次のとおりとする。</p>			<p>（学部・学科及び収容定員）</p> <p>第3条 本大学に、次の学部及び学科を置き、その収容定員を次のとおりとする。</p>		
学部・学科	入学定員	収容定員	学部・学科	入学定員	収容定員
人間科学部			人間科学部		
心身健康科学科 通信教育課程	500名	2,000名	心身健康科学科 通信教育課程	500名	2,000名
健康栄養学科	80名	320名	健康栄養学科	80名	320名
ヘルスフードサイエンス学科	60名	240名	ヘルスフードサイエンス学科	80名	320名
保健医療学部			保健医療学部		
看護学科	90名	360名	看護学科	80名	320名
リハビリテーション学科			リハビリテーション学科		
理学療法学専攻	50名	200名	理学療法学専攻	40名	160名
義肢装具専攻	30名	120名	義肢装具専攻	30名	120名

学則の変更の趣旨等を記載した書類

(1) 学則変更（収容定員変更）の内容

人間総合科学大学（以下、本学）は、令和2年4月より、保健医療学部看護学科（以下、看護学科）と、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻（以下、リハビリテーション学科理学療法学専攻）の入学定員および収容定員を増員し、人間科学部ヘルスフードサイエンス学科（以下、ヘルスフードサイエンス学科）の入学定員および収容定員を減員する。

看護学科では、入学定員を10人増員し80人から90人に、収容定員を320人から360人とし、リハビリテーション学科理学療法学専攻では、入学定員を10人増員し40人から50人に、収容定員を160人から200人とする。一方、ヘルスフードサイエンス学科では、入学定員を20人減員し80人から60人に、収容定員を320人から240人とする。

以上を踏まえた本学の令和2年度における入学定員と収容定員の内訳は以下のとおりである（下線部分が変更点）。なお、大学全体としての収容定員総数の変更は行わない。

(表) 令和2年度 人間総合科学大学の入学定員と収容定員

学部	学科	専攻	平成31(令和元)年度			令和2年度		
			入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
人間科学部	心身健康科学科【通信教育課程】		500	—	2,000	500	—	2,000
	健康栄養学科		80	—	320	80	—	320
	ヘルスフードサイエンス学科		<u>80</u>	—	<u>320</u>	<u>60</u>	—	<u>240</u>
	小計		660		2,640	640		2,560
保健医療学部	看護学科		<u>80</u>	—	<u>320</u>	<u>90</u>	—	<u>360</u>
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	<u>40</u>	—	<u>160</u>	<u>50</u>	—	<u>200</u>
		義肢装具学専攻	30	—	120	30	—	120
	小計		150		600	170		680
	合計		810	—	3,240	810	—	3,240

(2) 学則変更（収容定員変更）の必要性

1) 本学の沿革と教育理念

本学の母体となる学校法人早稲田医療学園は、創設以来、「人々の健康と幸福に寄与する人材の育成」という教育理念を掲げ、時代と社会の要請に応えながら、人々のQOL（生活の質）の向上に資する人材を輩出してきた。このような理念のもと、更なる人間理解のため

の学際的・統合的学問分野の構築を目指し、平成 12 年 4 月、人間総合科学大学を開学した。当初は通信教育課程の人間科学部人間科学科（平成 29 年に心身健康科学科に名称変更）を設置し、平成 16 年 4 月に通信制大学院となる人間総合科学研究科心身健康科学専攻修士課程、平成 19 年 4 月に同博士後期課程を、平成 28 年 4 月に臨床心理学専攻修士課程（令和 2 年度募集停止）を開設するまでに至った。

また、平成 17 年 4 月には、人間の生活と「栄養・食」との関係を科学的・統合的視点から追求すべく、通学課程として人間科学部健康栄養学科を開設した。平成 23 年 4 月には、看護学科、リハビリテーション学科（理学療法学専攻・義肢装具学専攻）からなる保健医療学部が続き、平成 29 年 4 月には人間科学部ヘルスフードサイエンス学科をそれぞれ開設、建学の精神に掲げる「人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、学際的に総合して科学的に探究」し、「真に人間を理解」できる専門職業人の養成を進めている。

開学以来、今日に至るまで、健康・医療系学部の教育の中で管理栄養士、看護師、理学療法士、義肢装具士のライセンス保持者を輩出し、また、通信教育課程においては社会人を中心とした約 9,500 名の学士、修士、博士の学位取得者を世に送り出してきた。

建学の精神

人は、心と身体が相関しており、社会的生き物である。

しかも、有史以来、進化発展を続けている。

21 世紀を力強く生きるためには、新しい展望と視座に立って、

一人一人がしっかりした価値観を持ち、

未来を切り拓く自己決定能力と勇気を持たなければならない。

ここに、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、

学際的に総合して科学的に探究する必要がある。

人間総合科学大学を創設し、あらたな学問の追求と統合により、

真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、

活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む。

2) 収容定員の変更の必要性

本学は上記の通り、平成 23 年 4 月に看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻・義肢装具学専攻からなる保健医療学部を開設し、建学の精神に掲げる「人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、学際的に総合して科学的に探究」し、「真に人間を理解」できる専門職業人の養成を行ってきた。平成 31 年 4 月には開設 9 年目を迎え、毎年多くの卒業生が看護師、理学療法士として病院や福祉施設など医療施設を中心に就職（就職希望者で国家

試験に合格した学生の就職率はほぼ 100%) していることから、本学で養成する人材は、社会から一定の評価を受けていると判断している。

「平成 29 年病院報告」(厚生労働省) および「平成 29 年医療施設調査」(厚生労働省) をもとに、都道府県別の病床 100 床に対する看護師数、理学療法士数を算出したところ、看護師数については埼玉県が 48.0 人で、全国平均の 48.7 人よりも下回る状況となっており、埼玉県における看護師の養成は、喫緊の課題になっていると言える。理学療法士数は埼玉県で 5.5 人と、全国平均である 4.7 人よりは多いが、もっとも多い高知県の 6.6 人と比べると、改善の余地が見込まれる。さらに、内閣府の『高齢社会白書』によると、我が国の 65 歳以上の高齢者人口は、平成 30 年時点で 3,558 万人であり、令和 27 年までは増加傾向が続くと示されている。一般的に、高齢となれば病気や怪我のリスクが高まるため、高齢者人口の増加に対して、リスクに対処できる看護師、理学療法士の養成は今以上に必要不可欠であることから、埼玉県における本学での人材輩出の意味は大きいと考え、今回の定員数変更申請に至った。

社会からの本学の評価は、就職状況だけでなく入学試験の結果からも窺える。看護学科は平成 27 年度から平成 31 年度までの志願者数が 276 人→325 人→212 人→290 人→255 人と推移しており、志願倍率(志願者数/入学定員数)は 3.5 倍前後を保っている。リハビリテーション学科理学療法学専攻は、平成 27 年度から平成 31 年度までの志願者数が 155 人→178 人→128 人→154 人→176 人と推移しており、志願倍率(志願者数/入学定員数)は 4 倍前後を保っており、看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻ともに好調な状況が続いている。過去 5 年間の入学定員充足率の平均は看護学科で 1.11 倍、リハビリテーション学科理学療法学専攻で 1.09 倍と 1.00 倍を上回る状況である。よって、埼玉県を主とした社会の需要を背景とし、また、これまでの志願者数、そして入学者への教育実績から、今回収容定員の変更を行うこととした。この結果として、入学定員充足率 1.00 倍の適正な水準につながることも期待できる。

ヘルスフードサイエンス学科については、平成 29 年度の開設から平成 31 年度までの入学者数が 7 人→13 人→25 人と推移しており、今年度は 11 月時点で入学内定者は 33 人となっている。志願者は年々増加傾向にあるが、入学定員を下回っている実態に即して収容定員を変更することとした。

(3) 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

1) 教育課程の変更内容

今回収容定員の変更を行う看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻、ヘルスフードサイエンス学科の教育課程を編成する上で基盤となる、教育研究上の目的および3つのポリシーは以下の通りである。

①看護学科

【教育研究上の目的】

人間を多面的・総合的に理解し、また倫理的な態度をもって適切な人間関係を築くことができる能力、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を習得し、安全で質の高い看護を実践できる能力、社会制度をふまえ、保健・医療・福祉分野の専門職間および地域との連携・協働のできる能力、人々の生活文化・価値観を尊重し、健康の維持・増進、疾病の予防への支援ができる能力、看護の質を向上させるとともに、グローバル社会の進展も見据え継続して自己学習できる能力を養うことを目的としている。

【アドミッションポリシー】

保健医療学部のアドミッションポリシーのもと、多様な人々との連携・協働において、看護臨床および専門職としての役割を明確にすることができ、さらに人々の健康と幸福に寄与するために科学的思考力と国際的視野をもって、保健・医療・福祉・健康の領域において幅広く活躍できる看護専門職を育成するため、次のような人を求めます。

1. 看護師への熱い希望と熱意があり、行動力と実行力をもつ人
2. 看護に関する学習だけではなく、人間・社会・環境に対する興味・関心がある人
3. 他者に対して思いやりのこころを持ち、人のために行動できる人
4. 人の話をよく理解し、自分の思いや考えを伝えることができる人
5. 目標に向かう強い探求心を持ち、協働して自ら学ぶことができる人
6. 看護職として社会に貢献する意欲のある人

【カリキュラムポリシー】

保健医療学部は、建学の精神のもと、保健医療専門職者として高い倫理観と使命感を持ち、高度な専門知識に基づく確かな技術を実践するとともに、心身健康科学をはじめとした総合的な人間理解のもと、さまざまな関連職者と連携し、広く社会に貢献できる活力ある人材を養成することを目的としています。

その人材養成の目的を基に、看護学科では、人間を多面的・総合的に理解し、また倫理的な態度をもって適切な人間関係を築くことができる能力、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を習得し、安全で質の高い看護を実践できる能力、看護の質を向上させるとともに、グローバル社会の進展も見据えて継続して自己学習できる能力を養うことを目的としています。

その教育目的達成のための教育課程として、人間を学際的に総合して科学的に探究するための「コア科目」群を配置した『基礎分野』の他、保健師助産師看護師法に示された専門

家としての高度な知識・技術の修得や人間理解の力を養う科目を設置した『専門基礎分野』及び『専門分野』を体系的に編成しています。

本学を卒業すると、看護師国家試験受験資格（選択により保健師国家試験受験資格）が得られるカリキュラムとしています。

【ディプロマポリシー】

保健医療学部のディプロマポリシーのもと、保健医療学部看護学科では、「こころ」「からだ」「文化」の側面から人間を総合的に理解し、「自立と共生」「創造力と人間性」という教育理念に即した以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与します。

1. 看護を必要とする対象者とその家族に対して、専門職としての知識・技術を持ち、心理的・社会的・文化的側面から人々を多面的・総合的に理解し、問題を解決できる。
(知識・理解・文化・社会・自然)
2. 看護を科学的根拠に基づいて実践できる基本的知識と技術を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用でき、対象者および他の専門職と円滑にコミュニケーションをとり健康・障害・回復・予防・死への安全で安楽な質の高い支援ができる。
(コミュニケーションスキル・判断力・問題解決能力)
3. 看護職として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づき、他の専門職と連携・協働できる力を発揮できる。(態度・志向性・社会的責任・チームワーク・自己管理能力・倫理観)
4. 看護職として看護の質の向上へ向け、グローバルな視点を持ち社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応し、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志で看護学の発展に寄与することができる。(総合的な学習経験・創造的思考力)

本学科の卒業要件は以下の通りとなっています。()内は保健師選択コースの場合

基礎分野	19 (16) 単位以上
専門基礎分野	28 (28) 単位以上
専門分野	77 (84) 単位以上
合計	124 (128) 単位以上

②リハビリテーション学科理学療法専攻

【教育研究上の目的】

人間を多面的・総合的に理解し、また倫理的な態度をもって適切な人間関係を築くことができる能力、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を習得し、安全で質の高い理学療法を実践できる能力、社会制度をふまえ、保健・医療・福祉分野の専門職間および地域との連携・

協働のできる能力、機能障害により生活機能が損なわれている人と家族をサポートし、その自立支援を行う能力、理学療法の質を向上させるとともに、グローバル社会の進展も見据え継続して自己学習できる能力を養うことを目的としている。

【アドミッションポリシー】

保健医療学部のアドミッションポリシーのもと、多様な人々との連携・協働において、理学療法の専門性を活かし、その役割を明確にすることができ、さらに人々の健康と幸福に寄与するために科学的思考力と国際的視野をもって、保健・医療・福祉・健康の領域において幅広く活躍できる理学療法専門職を育成するため、次のような人を求めます。

1. 理学療法士への強い希望と熱意があり、行動力と実行力を持つ人
2. 関連する専門家を目指す仲間とチームとして力を発揮・協力できる人
3. 他者に対して関心と思いやりの心を持ち、人のために行動できる人
4. 人の話をよく理解し、自分の思いや考えを伝えることができる人
5. 目標に向かう強い探求心を持ち、自ら学ぶことができる自律した人
6. 常に理学療法専門職を意識し、先輩、友人、後輩と共に一生を通じて成長し続ける人

【カリキュラムポリシー】

保健医療学部は、建学の精神のもと、保健医療専門職者として高い倫理観と使命感を持ち、高度な専門知識に基づく確かな技術を実践するとともに、心身健康科学をはじめとした総合的な人間理解のもと、さまざまな関連職者と連携し、広く社会に貢献できる活力ある人材を養成することを目的としています。

その人材養成の目的を基に、リハビリテーション学科理学療法学専攻では、人間を多面的・総合的に理解し、また倫理的な態度をもって適切な人間関係を築くことができる能力、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を習得し、安全で質の高い理学療法を実践できる能力、理学療法の質を向上させるとともに、グローバル社会の進展も見据え継続して自己学習できる能力を養うことを目的としています。

その教育目的達成のための教育課程として、人間を学際的に総合して科学的に探究するための「コア科目」群を配置した『基礎分野』の他、理学療法士及び作業療法士法に示された専門家としての高度な知識・技術の修得や人間理解の力を養う科目を設置した『専門基礎分野』及び『専門分野』を体系的に編成しています。

本学を卒業すると、理学療法士国家試験受験資格が得られるカリキュラムとしています。

【ディプロマポリシー】

保健医療学部のディプロマポリシーのもと、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻では、「こころ」「からだ」「文化」の側面から人間を総合的に理解し、「自立と共

生」「創造力と人間性」という教育理念に即した以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与します。

1. 「理学療法」を必要とする対象者とその家族に対して、専門職として知識・技術とともに心理的・社会的・文化的側面から多面的・総合的に理解し、問題を解決できる。(知識・理解・文化・社会・自然)
2. 「理学療法」を科学的な根拠に基づいて基本的な専門知識と技能を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用でき、対象者と専門職とのコミュニケーションが可能であり、「障害からの回復・予防」に安全で質の高い支援ができる。(コミュニケーションスキル・数量的スキル・問題解決能力)
3. 理学療法士として、倫理観を持ち人々および地域との円滑な連携において他専門職と協業できる力を発揮でき、さらに生涯を通じて自らの能力を成長させる素養を持っている。(態度・志向性・社会的責任・チームワーク・自己管理能力・倫理感)
4. 理学療法士として、変容する社会とグローバル社会の進展における多様な健康問題に対応するため、さらに理学療法の質を向上させるために、自ら生涯学び続ける素養と意志をもち、理学療法学の発展に寄与することができる。(総合的な学習経験・創造的思考力)

基礎分野	16 単位以上
専門基礎分野	36 単位以上
専門分野	72 単位以上
合計	124 単位以上

③ヘルスフードサイエンス学科

【教育研究上の目的】

人間の総合的・科学的な理解と「食・栄養」について幅広く学び、食の安全・安心、リスク管理と国際的な食のマネジメントの総合的な知識と技術を身につけた人材を養成することを目的としている。

【アドミッションポリシー】

人間科学部のアドミッションポリシーのもと、人間総合科学の視点から、「食」と「栄養」について幅広く学び、バイオテクノロジーや生命科学を基本に食育から食の安全・安心、食・食材のリスク管理や総合マネジメントまでの総合的な知識と技術を身につけます。

そのための強い動機とアイデアを持つ、次のような人を求めます。

- 1.食と栄養に対する強い関心と共にその科学的側面に対する探究心を持ち、学ぶために必要な基礎学力を持つ人
- 2.グローバルな展開を見せる食の安全・安心についてや、食品・食材の総合マネジメントなど幅広い分野に関心を持つ人
- 3.関連する専門家との協働作業、チームとしての働きのできる基礎力を有している人
- 4.人とのコミュニケーションを大切に、他社に対して関心と思いやりの心を持ち、人のために行動できる人
- 5.食と栄養の幅広い分野で、実践的な知識と技術を身に付ける意欲があり、目標に向かう意志と自ら学ぶことができる自立した人
- 6.将来、食や栄養に関する専門的な知識や技術を生かし、食に係る行政・衛生・保健・福祉・教育分野及び企業において、人々の健康と生命の質の向上に貢献したいと考える人
- 7.高い教養と倫理観をもって広い国際性を身に付けて社会で活躍する意思を持つ人

【カリキュラムポリシー】

人間科学部は、建学の精神に基づき、広く生涯を通しての学修の機会を提供し、人間理解の体系的、総合的な教育・研究を行うことにより、強い責任感と内発的動機を有して、「活力ある人間性豊かな社会」の構築と「人類の健康と幸福」の追求に貢献し得る人材を養成、輩出することを目的としています。

その人材養成の目的を基に、ヘルスフードサイエンス学科では、その教育目的達成のための教育課程として、①人間を学際的に総合して科学的に探究するための、全学科共通の「コア科目」群を配置した『基礎分野』の他、②「食品・栄養の基礎」「人間理解の基礎」を科学的に学ぶ『専門基礎分野』、③学生の進路ごとに3専攻（「グローバルフードビジネス分野」「ヘルスフードサイエンス分野」「フードマネジメント分野」）を配した『専門分野』の、体系的なカリキュラム編成となっています。

特に『専門分野』では、「学生が将来の進路に沿って「必修」「選択」「選択必修」を系統的に学ぶこと」で、下記のような「幅広い職業人」となるよう工夫がなされています。

1. グローバルフードビジネス分野

国際基準の食のリスク・安全管理の分野で活躍する人材養成のための教育プログラムを提供します。

2. ヘルスフードサイエンス分野

先端食品・食品素材の開発・製造・流通などヘルスフードサイエンスの分野で活躍する人材育成のためのプログラムを提供します。

3. フードマネジメント分野

フードビジネスにおいて、食のトータルコーディネートを行う実践力として、料理・調理の

専門技術から、和食・洋食・中華など幅広いジャンルの食文化や地域特性や食環境などを考慮して、食のビジネスを推進するためのプログラムを提供します。

【ディプロマポリシー】

ヘルスフードサイエンス学科では、「こころ」「からだ」「文化」の側面から人間を総合的に理解し、「自立と共生」「創造力と人間性」という教育理念に即した以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与します。

1. 人間と社会の諸側面について学際的・総合的で幅広い知識を身につけている。
2. 「食」が身体健康だけでなく心理的・社会的・文化的側面と密接に関わっていることを理解している。(知識・理解・態度)
3. 現代社会で活躍できる専門知識と技能を身に付けており、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野における「栄養・食」の支援ができる。(知識・汎用的技能)
4. 食と栄養のゼネラリストとして、多様な職種、地域の人々との円滑な連携の中で力を発揮できる専門知識とコミュニケーション能力を身に付けている。(汎用的技能)
5. 変容する社会における多様な健康問題に対応すべく生涯学び続ける意思をもち、栄養学の発展に寄与することができる。(態度・志向性)
6. 学生の進路に応じて下記の専門分野について十分な理解を得ている。

「グローバルフードビジネス分野」「ヘルスフードサイエンス分野」「フードマネジメント分野」

基礎分野	19 単位以上
専門基礎分野	11 単位以上
専門分野	8 単位以上
合計	130 単位以上

看護学科では、過去 5 年間で平均 89 名が入学しており、今回の収容定員の変更後（入学定員 80 名→90 名の増員）と同規模の入学を受け入れ、教育を行ってきた実績があることから、現状の教育課程においても十分運営できると考えている。そのため収容定員の変更に伴う変更は行わないが、文部科学省から示された「看護学教育モデル・コアカリキュラム」の内容や、現在の医療・看護の動向を、科目の内容および名称に反映させるため、令和 2 年度より教育課程の変更を行う。

リハビリテーション学科理学療法学専攻では、過去 5 年間で平均 43 名が入学している。特に平成 30 年度では、47 名が入学しており、今回の収容定員の変更後（入学定員 40 名→50 名の増員）と同規模の入学を受け入れ、教育を行っている実績があることから、現

状の教育課程において十分に運営が可能であると判断できる。そのため収容定員の変更に伴う変更は行わないが、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則改正により必要となった変更等を反映させるため、令和2年度より教育課程の変更を行う。

ヘルスフードサイエンス学科については、今回の収容定員の変更に伴う教育課程の変更は行わず、設置計画に示した授業計画を、完成年度（令和2年度）迄着実に履行して行く。

2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

ア) 教育方法

①看護学科

1年次には、「心身健康科学」「生命倫理」などのコア科目を中心に、基礎分野を配置し、専門性を支える基礎学力とともに、保健医療人としての意識を高めるための科目を配置している。1年次から2年次にかけて、専門基礎分野である人体の構造と機能や疾病の成り立ちなどの各科目を配置し、保健医療に関する知識を身に付けるとともに、保健医療チームの一員としての連携・協働のあり方など社会的な側面についても学べるよう、科目を配置している。3年次では、「慢性期・急性期看護学実習」や「老年看護学実習」などを始めとした領域別実習科目を配置しており、これまで授業で蓄えた知識を臨地実習により、実践に結びつけ課題を学ぶ機会を設けている。さらに4年次では、これまでの学びを統合し、個々に看護の探求・発展を目指すよう配置している「統合実習」や選択科目群に加え、「看護研究」において学生ごとに臨床の実践から課題を設定し、研究に取り組むことを求めている。

②リハビリテーション学科理学療法学専攻

1年次には、「心身健康科学」「生命倫理」などのコア科目を中心に、基礎分野の科目を配置し、人を理解するための基礎を築かせるとともに、人の心身の構造と機能を理解させ、リハビリテーション、理学療法士、そして理学療法の学問体系を理解させるため、専門基礎分野の「生理学・解剖学」や専門分野の「基礎理学療法学」を配置している。2年次は主に疾病とその回復過程について学ぶ科目を配置している。また、心身の状態を正確に把握するための評価方法について学び、理学療法治療の基礎と、リハビリテーションチームの理解を深めることを目的とした科目配置を行っている。3年次はリハビリテーション対象者の問題解決ができるよう、様々な疾病に対する理学療法治療について学ぶための科目を多数配置しており、専門職としての職務を果たすためのスキルを学び、臨床（学外実習）において患者

の状態を把握できることを目標としている。4年次では、指導者の下、基本的な患者評価から治療ができるよう「総合臨床実習」を配置するとともに、理学療法の実践に努められるよう、知識・技術を確認、強化し、自ら問題解決に臨めるよう科目を配置している。

③ヘルスフードサイエンス学科

1年次には、人間を学際的に総合して科学的に探究するための「コア科目」群を配置した『基礎分野』を中心に学ぶ。同『基礎分野』では、生化学・生物学の基礎、英語やICTの基礎、論理的思考やコミュニケーション、またキャリア形成の考え方を学ぶ。また、『専門基礎分野』にて、「食品学総論」や「栄養と代謝」など食品・栄養の基礎を学ぶ。2年次以降は、それらの学習をもとに、食品の機能、食品工学、食資源の活用、最新の分析技術、グローバル化に対応する公衆衛生や食品安全制度から国際的な研究・調査手法までを修得する。また、国際化の進む食産業における総合コーディネーションができるように、調理・料理、食環境や食文化からもフードビジネス全般を担う専門性についても学ぶ。これらは『専門基礎分野』及び『専門分野』に体系的に科目が編成されている。『専門分野』では、本人の希望の進路に応じて「グローバルフードビジネス分野」「ヘルスフードサイエンス分野」「フードマネジメント分野」の3分野のいずれかの科目群を選択するよう履修指導がなされる。さらに、3年次の「インターンシップ」では、1週間から10日間程度の企業研修を行い、その成果を4年次の「卒業研究」にてまとめて行く。

イ) 履修指導方法

本学では、通信教育課程も含めて全ての学部・研究科で担任制を採用し、学生が大学生活において不安なく過ごせるよう、サポートを行っている。看護学科では学年毎に主任1名、副主任3～4名、アドバイザー1～2名を配置、リハビリテーション学科理学療法学専攻とヘルスフードサイエンス学科では学年毎に2名の担任をそれぞれ配置し、学年の特徴に応じた学習支援と学生指導を行っている。担任は定期的あるいは臨時に個別面談を実施して学生一人一人の状況を把握し、きめ細かい履修指導を行う。特に、新入生による履修登録は不慣れな点も多く、初年次からの躓きを避けるため、入学初日から2日間に亘り実施される新入生ガイダンスにて、教職員より詳細に説明を行う。また、「履修科目登録申請書」を提出する際には担任の承認を得ることを義務づけている。さらに、オフィスアワー制度を設け、随時教員に相談できる環境を用意している。

以上の通り、学生への対応は本学の教職員全体で徹底して行っているため、今回の収容定員の変更後も同様な体制を組んで履修指導を行う。但し、履修指導は、学生が十分な教育を受ける上で重要な機会であるため、今後も状況に応じた体制を組むよう、大学全体で整備を行っていく。

3) 教員組織の変更内容

① 看護学科

看護学科の専任教員は、現在 24 名で、内訳は教授 6 名、准教授 6 名、講師 8 名、助教が 1 名となっている。また、この専任教員に加え、専任の助手が 2 名勤務しており、令和 2 年 1 月より 1 名が加わる予定である。収容定員変更予定の令和 2 年 4 月には、教授が 2 名、助手が 1 名就任予定であり、令和 3 年度から助教が 1 名就任する予定である。現在の教員組織においても、大学設置基準第 13 条に定められている専任教員数について収容定員の変更後の基準数に問題がないことに加え、教育体制に支障がないことから、現在の教員組織を維持していく。その一方で、教育体制の充実と教員負担の軽減などを考慮し、収容定員変更予定の令和 2 年 4 月までにさらなる専任教員ならびに助手の採用を計画しており、現在募集を継続している。なお、専任教員の採用については、職位、専門分野、年齢などのバランスについて、十分に配慮し、今後も教員組織の編成に努める。

② リハビリテーション学科理学療法学専攻

リハビリテーション学科理学療法学専攻の専任教員は、現在 9 名であり、内訳は教授 4 名、准教授 2 名、講師 2 名、助教が 1 名となっている。収容定員変更予定の令和 2 年 4 月には、助教が 1 名就任予定である。現在の教員組織においても、大学設置基準第 13 条に定められている専任教員数について収容定員の変更後の基準数に問題がないことに加え、退職予定の教員もなく、教育体制に支障がないことから、現在の教員組織を維持していく。その一方で、教育体制の充実と教員負担の軽減などを考慮し、募集を継続していく。なお、専任教員の採用については、看護学科同様に、職位、専門分野、年齢などのバランスについて、十分に配慮し、今後も教員組織の編成に努める。

③ ヘルスフードサイエンス学科

ヘルスフードサイエンス学科の専任教員は、現在 8 名であり、内訳は教授 4 名、講師 3 名、助教が 1 名となっている。現在の教員組織においても、大学設置基準第 13 条に定められている専任教員数について基準数に問題がないことに加え、退職予定の教員もなく、教育体制に支障がないことから、現在の教員組織を維持していく。

4) 大学全体の施設・設備の変更内容

今回収容定員の変更を行う看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の教育は、本学の岩槻キャンパスで行っている。岩槻キャンパスの校舎は平成 23 年度の保健医療学部（看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻、義肢装具学専攻）開設時に全面リニューアルを行い、各施設・設備を整備している。

1F の学生ホール、学生自習室、テラス、図書室、2F の学生ラウンジ、パソコン教室、3F の学生ラウンジ、講堂兼体育館、屋上の運動広場は共用施設として、学生に開放している。また、講義室は 2 階、3 階に合計 16 教室あり、保健医療学部（看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻、義肢装具学専攻）の各学科の講義を行うにあたって、十分な講義室数を有している。

看護学科の専用施設としては、基礎・成人実習室、母性・小児実習室、高齢者地域・在宅実習室（全て 3F）の 3 室を有しており、学内実習を行うにあたり、十分な広さを確保している。

リハビリテーション学科理学療法学専攻の専用施設としては、治療室、機能訓練室、日常動作訓練室、評価測定室、基礎医学実習室、装具加工室（以上 2F）、水治療室(1F)の 7 室を有し、理学療法学の様々な治療法実習が実践的に学べるよう、十分な整備を行っている。なお、機能訓練室と日常動作訓練室では、様々なリハビリに対応できるよう、各種マシンや訓練機器を備えている。

なお、看護学科については、現在までの実習体制を維持するため、収容定員の変更を行うにあたり実習用のベッドを 2 台、リハビリテーション学科理学療法学専攻では、油圧式治療台を 10 台新たに追加する。

また、講義室についても、プロジェクター、スクリーン設備の刷新を予定している。

ヘルスフードサイエンス学科については、設置計画に基づいた整備計画を着実に履行していく。

以上の通り、施設・設備に関しては、今回の収容定員の変更後においても十分に対応できることから、一部の設備を追加する以外の大きな変更を行わないが、各学科の目的を実現させるにあたり、教育環境の改善が必要になった際は、その都度整備を続けていく。

教育課程等の概要															
(保健医療学部看護学科) 保健師選択コース															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	コア	心身健康科学	1前	1			○				1				兼5 オムニバス
		ヒューマンⅠ	2前	1			○								兼7 オムニバス
		ヒューマンⅡ	3前	1			○			1					兼7 オムニバス
		ヒューマンⅢ	4後	1			○			1					兼6 オムニバス
		生命倫理	1前	1			○			1					
	人間と理解	心理学	1後	1			○								兼1
		スポーツと健康	1前		1			○							兼1 ※講義
		体育概論	2前		1			○							兼1
		人間工学	1後		1			○							兼1
	他者との共生	美術	1後		1				○						兼1 ※講義
コミュニケーション演習		1前	1					○		1				兼1 共同(一部)	
人間関係論		1後	1				○							兼1 ※演習	
家族社会学		2前	1				○							兼1	
法学		2前	1				○							兼1	
日本国憲法		3前		2			○							兼1	
国際文化論		4前		1			○							兼1	
コンピュータ入門Ⅰ		1後	1				○							兼1 ※演習	
コンピュータ入門Ⅱ		2後		1				○						兼1 ※演習	
生活文化論		1前		1				○						兼1	
専門的能力の基盤	英会話	2前		1				○						兼1	
	医療英語	2後		1					○					兼1	
	英語文献講読	3後		1				○						兼1	
	ベトナム語	1・2・3・4通		1				○						兼1	
	岩槻の文化とものづくり	1後		1				○		1			3	※演習	
	職業とキャリア形成	1前	1				○			2				兼2 ※演習・共同	
	大学生入門	1通	1						○	4	6	8	2	3	※講義・共同
	論理的思考と表現法	1後		1				○							兼1 ※演習
	数学基礎	1後		1				○							兼1
	生物学基礎	1前		1				○							兼1
化学基礎	1前		1				○							兼1	
物理学基礎	1前		1				○							兼1	
英語基礎	1後		1				○							兼1	
統計学	2後		1				○							兼1 ※演習	
小計(33科目)			—	14	20	0	—			6	6	8	2	3	兼31
専門基礎分野	人間の理解	生理学Ⅰ	1前	1				○			1				
		生理学Ⅱ	1前	1				○			1				
		生理学Ⅲ	1後	2				○			1				
		解剖学Ⅰ	1前	1				○			1				
		解剖学Ⅱ	1前	1				○			1				
		生化学	1後	1				○			1				
		栄養学	1後	1				○							兼2 オムニバス
	(専門的能力とその障害を修得し、人々への支援)	病理学概論	1後	2					○		1				
		疾病と治療Ⅰ	1後	2					○		1				
		疾病と治療Ⅱ	2前	1					○		1				
疾病と治療Ⅲ	2前	1					○		1						
疾病と治療Ⅳ	2前	1					○		1						
精神科学	2前	1					○							兼1	
薬理学	1後	1					○							兼1	
薬と健康	2前		1				○							兼1	
微生物学	1後	1					○							兼1	
老年医学	2前		1				○							兼1	
環境と健康	2前		1				○							兼1	
保健医療福祉行政論	3前	2					○							兼1 ※演習	
社会保障制度論	3前	2					○							兼1	
生活福祉論	2前		1				○							兼1	
障害者福祉論	4前		1				○							兼1	

教育課程等の概要															
(保健医療学部看護学科) 保健師選択コース															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	疫学Ⅰ	2後	1			○									兼1
	疫学Ⅱ	4前	1			○									兼1
	保健統計学	3前	2			○									兼1 ※演習
専門的 能力の 発展	国際保健医療論	3前		1		○									兼1
	保健医療福祉専門職連携論	3前	1			○			1						兼2 ※演習・オムニバス・共同(一部)
	小計(27科目)	—	27	6	0	—			3	0	0	0	0		兼15
専門分野	看護学原論	1前	2			○			2						オムニバス・共同(一部)
	看護共通技術Ⅰ	1前	1			○			3	1	1	1			オムニバス
	看護共通技術Ⅱ	1後	1				○		2	1	1	1	3		※講義・共同
	看護基礎技術Ⅰ	1前	2				○		2	1	1	1	3		共同
	看護基礎技術Ⅱ	1後	1			○			2	1	1	1			共同
	看護基礎技術Ⅲ	1後	2				○		2	1	1	1	3		※講義・共同
	看護の展開	2通	1				○		2	1	1	1	3		共同
専門的 能力の 修得Ⅲ (対象の 特殊性に 即した 専門的 能力)	在宅看護学概論	2前	1			○						1			
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2				○					1			※講義
	在宅看護援助論Ⅱ	2後	1				○					1			兼1 ※講義・共同(一部)
	地域看護学概論	2前	2			○			1						
	地域看護活動論	2後	2				○		1		1				※講義・オムニバス
	感染看護論	3前		1			○								兼1
	リエゾン看護論	3前		1			○								兼1
	家族看護論	2前		1			○				1	1			共同(一部)
	健康看護論	4前	1				○		1						
	セクシュアリティ論	4前		1			○			1	2				オムニバス
	慢性期看護学概論	1後	1				○					1			
	慢性期看護援助論	2通	2					○					1		※講義
	急性期看護学概論	1後	1				○				1				
	急性期看護援助論	2通	2					○			1			1	※講義
	小児看護学概論	1後	1				○				1				
	小児看護援助論	2通	3					○			1		1		※講義・共同(一部)
	母性看護学概論	1後	1				○				1	1			オムニバス
	母性看護援助論Ⅰ	2前	2					○			1	1			※講義・共同(一部)
	母性看護援助論Ⅱ	2後	1					○			1	2			※講義・オムニバス・共同(一部)
	老年看護学概論	1後	1				○				1	1			共同(一部)
	老年看護援助論Ⅰ	2前	2					○			1	1		1	※講義・オムニバス・共同(一部)
	老年看護援助論Ⅱ	2後	1					○			1	1		1	※講義・共同
	精神看護学概論	1後	1				○			1	1	1			オムニバス・共同(一部)
	精神看護援助論	2通	3					○		1	1	1			※講義・オムニバス・共同(一部)
	公衆衛生看護技術論	3前	2					○		1		1			※講義・オムニバス
	公衆衛生看護活動論	3前	2					○		1		1			※講義・オムニバス
	公衆衛生看護管理論	3前	1				○			1					
	学校看護論	3前	1				○								兼1
	産業看護論	3前	2				○					1			
クリティカルケア論	3前		1			○					1				
リハビリテーション看護論	2前		1			○								兼1	
緩和ケア論	3前		1			○								兼1	
認知症ケア論	3前		1			○				1	1			共同	
遺伝看護	3前		1			○								兼2	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(保健医療学部看護学科) 保健師選択コース														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
療 施 設 に お け る 実 践 IV (医 療 的 能 力 の 修 得 実 践 IV)	基礎看護学実習 I	1後	1					○	2	3	4	2	3	
	基礎看護学実習 II	2前	2					○	2	1	1	2	3	
	慢性期看護学実習	3通	3					○			1		2	
	急性期看護学実習	3通	3					○		1			1	
	小児看護学実習	3通	2					○		1		1		
	母性看護学実習	3通	2					○			2			
	老年看護学実習 II	3通	3					○		1	1		1	
	精神看護学実習	3通	2					○	1	1	1			
専 門 的 能 力 の 修 得 実 践 V (地 域 に お け る 実 践 V)	老年看護学実習 I	2前	1					○		1	1		1	兼1
	在宅看護学実習	3通	2					○			1			
	統合実習	4前	2					○	2	5	7	2	3	
	公衆衛生看護学実習 I	4通	2					○	1		1			
	公衆衛生看護学実習 II	4通	3					○	1		1			
専 門 的 能 力 の 発 展	看護管理・看護情報学	4前	1			○								兼1
	看護研究 I	2後	1			○			1					
	看護研究 II	4通	1				○		4	6	8	2		共同
	領域別専門看護学演習	4後		1			○		4	6	8	2		
	健康危機管理論	4前	1			○								兼1
	看護国際協力論	4前		1		○								兼1
	災害と看護活動	4前		1		○								兼1
	医療経営論	4後		1		○					1			
	看護教育論	4後		1		○			1					
	代替医療論	1・2・3・4通		1			○							兼1 ※講義
看護研究 III	4後		1			○		4	6	8	2			
科 目 通	国際研修	1・2・3・4通		1				○	1					
	ボランティア活動	1・2・3・4通		1				○	1					
小計 (67科目)		—	81	18	0	—	—	—	5	6	8	2	3	兼13
合計 (127科目)		—	122	44	0	—	—	—	8	6	8	2	3	兼54
学位又は称号		学士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
卒業要件単位数 128単位 履修方法：基礎分野：必修科目14単位及び選択科目2単位以上履修 専門基礎分野：必修科目27単位及び選択科目1単位以上履修 専門分野：必修科目81単位及び選択科目3単位以上履修 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))								1学年の学期区分			2 期			
								1学期の授業期間			15 週			
								1時限の授業時間			90 分			

教育課程等の概要															
（保健医療学部看護学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	コア	心身健康科学	1前	1			○				1				兼5 オムニバス
		ヒューマンⅠ	2前	1			○								兼8 オムニバス
		ヒューマンⅡ	3前	1			○				1				兼7 オムニバス
		ヒューマンⅢ	4後	1			○				1				兼6 オムニバス
		生命倫理	1前	1			○				1				
	人間と理解	心理学	1後	1			○								兼1
		スポーツと健康	1前		1			○							兼1 ※講義
		体育概論	2前		1			○							兼1
		人間工学	1後		1			○							兼1
		美術	1後		1				○						兼1 ※講義
	他者との共生	コミュニケーション演習	1前	1				○			1				兼1 共同（一部）
		人間関係論	1後	1				○							兼1 ※演習
		家族社会学	2前	1				○							兼1
		法学	2前	1				○							兼1
		日本国憲法	3前		2			○							兼1
国際文化論		4前		1			○							兼1	
コンピュータ入門Ⅰ		1後	1				○							兼1 ※演習	
コンピュータ入門Ⅱ		2後		1			○							兼1 ※演習	
生活文化論		1前		1			○							兼1	
英会話		2前		1			○							兼1	
医療英語	2後	1					○						兼1		
英語文献講読	3後		1				○						兼1		
ベトナム語	1・2・3・4通		1				○						兼1		
岩槻の文化とものづくり	1後		1				○			1			3	※演習	
専門的能力の基盤	職業とキャリア形成	1前	1				○			2				兼2 ※演習・共同	
	大学生入門	1通	1					○		4	6	8	2	3	※講義・共同
	論理的思考と表現法	1後		1			○							兼1 ※演習	
	数学基礎	1後		1			○							兼1	
	生物学基礎	1前		1			○							兼1	
	化学基礎	1前		1			○							兼1	
	物理学基礎	1前		1			○							兼1	
	英語基礎	1後		1			○							兼1	
	統計学	2後		1			○							兼1 ※演習	
小計（33科目）	—	14	20	0	—	—	—	—	6	6	8	2	3	兼31	
専門基礎分野	人間の理解	生理学Ⅰ	1前	1			○			1					
		生理学Ⅱ	1前	1			○			1					
		生理学Ⅲ	1後	2			○			1					
		解剖学Ⅰ	1前	1			○			1					
		解剖学Ⅱ	1前	1			○			1					
		生化学	1後	1			○			1					
	栄養学	1後	1			○								兼2 オムニバス	
	（専門的健康と能力の修得をI） その修得をI 抱える人々への支援	病理学概論	1後	2			○			1					
		疾病と治療Ⅰ	1後	2			○			1					
		疾病と治療Ⅱ	2前	1			○			1					
		疾病と治療Ⅲ	2前	1			○			1					
		疾病と治療Ⅳ	2前	1			○			1					
		精神科学	2前	1			○								兼1
		薬理学	1後	1			○								兼1
		薬と健康	2前		1		○								兼1
		微生物学	1後	1			○								兼1
		老年医学	2前		1		○								兼1
		環境と健康	2前		1		○								兼1
保健医療福祉行政論		3前	2			○								兼1 ※演習	
社会保障制度論	3前	2			○								兼1		
生活福祉論	2前		1		○								兼1		
障害者福祉論	4前		1		○								兼1		
疫学Ⅰ	2後		1		○								兼1		

教育課程等の概要														
(保健医療学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門分野	疫学Ⅱ	4前		1		○								兼1
	保健統計学	3前		2		○								兼1 ※演習
	国際保健医療論	3前		1		○								兼1
	保健医療福祉専門職連携論	3前	1			○			1					兼2 ※演習・オムニバス・共同(一部)
小計(27科目)		—	24	9	0	—			3	0	0	0	0	兼15
専門的 能力の 基盤Ⅱ(専)	看護学原論	1前	2			○			2					オムニバス・共同(一部)
	看護共通技術Ⅰ	1前	1			○			3	1	1	1		オムニバス
	看護共通技術Ⅱ	1後	1				○		2	1	1	1	3	※講義・共同
	看護基礎技術Ⅰ	1前	2				○		2	1	1	1	3	兼2 共同
	看護基礎技術Ⅱ	1後	1			○			2	1	1	1		共同
	看護基礎技術Ⅲ	1後	2				○		2	1	1	1	3	※講義・共同
	看護の展開	2通	1				○		2	1	1	1	3	共同
	在宅看護学概論	2前	1			○					1			※講義
在宅看護援助論Ⅰ	2後	2				○				1			兼1 ※講義・共同(一部)	
在宅看護援助論Ⅱ	2後	1				○				1			兼1 ※講義・オムニバス	
地域看護学概論	2前	2			○			1						兼1 ※講義・オムニバス
地域看護活動論	2後	2				○		1		1				兼1 ※講義・オムニバス
感染看護論	3前		1			○								兼1
リエゾン看護論	3前		1			○								兼1
家族看護論	2前		1			○				1	1			共同(一部)
健康看護論	4前		1			○			1					
セクシュアリティ論	4前		1			○				1	2			オムニバス
慢性期看護学概論	1後	1				○					1			
慢性期看護援助論	2通	2					○				1		1	※講義
急性期看護学概論	1後	1				○				1				
急性期看護援助論	2通	2					○			1			1	※講義
小児看護学概論	1後	1				○				1				
小児看護援助論	2通	3					○			1		1		※講義・共同(一部)
母性看護学概論	1後	1				○				1	1			オムニバス
母性看護援助論Ⅰ	2前	2					○			1	1			※講義・共同(一部)
母性看護援助論Ⅱ	2後	1					○			1	2			※講義・オムニバス・共同(一部)
老年看護学概論	1後	1				○				1	1			共同(一部)
老年看護援助論Ⅰ	2前	2					○			1	1		1	※講義・オムニバス・共同(一部)
老年看護援助論Ⅱ	2後	1					○			1	1		1	※講義・共同(一部)
精神看護学概論	1後	1				○			1	1	1			※講義・オムニバス・共同(一部)
精神看護援助論	2通	3					○		1	1	1			※講義・オムニバス・共同(一部)
学校看護論	3前		1			○								兼1
産業看護論	3前		2			○					1			
クリティカルケア論	3前		1			○				1				
リハビリテーション看護論	2前		1			○								兼1
緩和ケア論	3前		1			○								兼1
認知症ケア論	3前		1			○				1	1			共同
遺伝看護	3前		1			○								兼2
専門的 能力の 修得Ⅳ(医 療施設 におけ る実 践)	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	2	3	4	2	3	
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					○	2	1	1	2	3	
	慢性期看護学実習	3通	3					○			1		2	
	急性期看護学実習	3通	3					○		1			1	
	小児看護学実習	3通	2					○		1		1		
	母性看護学実習	3通	2					○			2			
	老年看護学実習Ⅱ	3通	3					○		1	1		1	
	精神看護学実習	3通	2					○	1	1	1			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(保健医療学部看護学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
ひ お け る へ 実 力 の 展 開	老年看護学実習Ⅰ	2前	1					○					1				
	在宅看護学実習	3通	2					○									兼1
	統合実習	4前	2					○					2	5	7	2	3
専 門 的 能 力 の 発 展	看護管理・看護情報学	4前	1				○										兼1
	看護研究Ⅰ	2後	1				○			1							
	看護研究Ⅱ	4通	1					○		4	6	8	2				共同
	領域別専門看護学演習	4後		1				○		4	6	8	2				
	健康危機管理論	4前		1			○										兼1
	看護国際協力論	4前		1			○										兼1
	災害と看護活動	4前		1			○										兼1
	医療経営論	4後		1			○					1					
	看護教育論	4後		1			○			1							
科 目 通	国際研修	1・2・3・4通		1				○		1							
	ボランティア活動	1・2・3・4通		1				○		1							
小計（62科目）		—	66	23	0	—			5	6	8	2	3	兼13			
合計（122科目）		—	104	52	0	—			8	6	8	2	3	兼54			
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
卒業要件単位数 124単位 履修方法：基礎分野：必修科目14単位及び選択科目5単位以上履修 専門基礎分野：必修科目24単位及び選択科目4単位以上履修 専門分野：必修科目66単位及び選択科目11単位以上履修 (履修科目の登録の上限：46単位（年間）)							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要															
(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	コア	心身健康科学	1前	1			○			1					兼5 オムニバス
		ヒューマンⅠ	2前	1			○			1					兼6 オムニバス
		ヒューマンⅡ	3前	1			○								兼8 オムニバス
		ヒューマンⅢ	4後	1			○								兼6 オムニバス
		生命倫理	1前	1			○								兼1
	理人解問の	心理学	1後		1			○							兼1
		スポーツと健康	1前		1				○						兼1 ※講義
		美術	1後		1				○						兼1 ※講義
	他者との共生	コミュニケーション演習	1前	1				○		1			1		兼1 共同(一部)
		人間関係論	1前		1			○							兼1 ※演習
		倫理学	1後	1				○							兼1
		法学	1前		1			○							兼1
		国際文化論	1後		1			○							兼1
		教育学	3前	1				○							兼1
		コンピュータ入門	1前	1				○							兼1 ※演習
英会話		1後		1			○							兼1	
医療英語		1後	1					○						兼1	
英語文献講読		3後		1				○		1				兼1	
専門的能力の基盤	ベトナム語	1・2・3・4通		1			○							兼1	
	岩槻の文化とものづくり	1後		1			○							兼1 ※演習	
	職業とキャリア形成	1前	1				○		1			1		兼2 ※演習・共同	
	論理的思考と表現法	1前	1				○							兼1 ※演習	
	数学基礎	1前		1			○		1					兼1	
	生物学基礎	1前		1			○							兼1	
	化学基礎	1前		1			○							兼1	
	物理学基礎	1前	1				○							兼1	
	英語基礎	1前		1			○							兼1	
	統計学	2後	1				○							兼1	
小計(28科目)	—	14	14	0	—	—	—	—	4	0	0	2	0	兼26	
専門基礎分野	専門的能力の修得	生理学Ⅰ	1前	1			○								兼1
		生理学Ⅱ	1前	1			○								兼1
		生理学Ⅲ	1後	1			○			1					兼2 共同
		生理学実習	1後	2					○						兼1
		解剖学Ⅰ	1前	2				○							兼1
		解剖学Ⅱ	1後	1				○							兼1
		解剖学実習	1後	2					○						兼1
		運動学	1後	2				○				1			兼1
		運動学実習	2前	1					○		2	2	2		共同
		人間発達学	2前	1				○							兼2 ※演習・オムニバス
		栄養学	2後	1				○							兼1
		医学概論	1後	1				○							兼1
		病理学	2前	1				○							兼1
		内科学	2前	1				○							兼1
		神経内科学Ⅰ	2前	1				○							兼1
		神経内科学Ⅱ	2後	1				○							兼3 オムニバス
		整形外科	2前	2				○							兼1
		小児科学	2後	1				○							兼1
		老年医学	2後	1				○							兼1
		精神科学	2後	1				○							兼1
		緩和医療学	2前	1				○							兼1
		臨床心理学	2後		1			○							兼1
		消毒法・感染症・救急救命	2後	1				○			1				兼1 ※演習・オムニバス
		人間工学	2前	1				○							兼1
		医用画像学概論	2後	1				○							兼1
		薬理学	2後	1				○							兼1
リハビリテーション概論	1前	1				○			1				兼1		
公衆衛生学	1後	1				○							兼1		
看護学	2後		1			○							兼1		
作業療法学	2後	1				○							兼1		
言語聴覚療法学	2後	1				○							兼1		
発能専門的	国際保健医療論	3前		1			○							兼1	
	保健医療福祉専門職連携論	3前	1					○		2				兼1 ※講義	
小計(33科目)	—	35	3	0	—	—	—	—	4	2	2	2	0	兼25	
専門分野	専門的能力の修得	基礎理学療法	1前	1			○			1					兼1
		表面解剖と触診法	1前	1			○					1			兼1
		理学療法評価学	1後	1			○								兼1
		理学療法評価学演習Ⅰ	2前	2					○		1				兼1
		理学療法評価学演習Ⅱ	2前	2					○		1				兼1
理学療法画像評価学	2後	1				○					1		兼1		

教育課程等の概要															
(人間科学部ヘルスフードサイエンス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コア科目	心身健康科学	1通	1			○			1					兼6	オムニバス・共同 (一部)
	ヒューマンⅠ	2通	1			○								兼8	オムニバス
	ヒューマンⅡ	3通	1			○			1					兼7	オムニバス・共同 (一部)
	ヒューマンⅢ	4通	1			○								兼9	オムニバス・共同 (一部)
	小計 (4科目)	—	4	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼14	
基礎分野	基礎科目														
	こころの科学	1前	2			○								兼1	
	化学基礎	1前	2			○								兼1	
	生物学基礎	1前	2			○								兼1	
	生化学	2前	2			○			1						
	有機化学	1後	2			○			1						
	無機化学	2前		2		○			1						
	食品微生物学	1前	2			○					1				
	細胞と遺伝子	3後		2		○									
	基礎統計演習	3前	2					○						兼1	共同
	英語基礎	1前	2			○								兼3	
	食文化論	2後	2			○								兼1	
	コンピュータ入門	1前	2			○								兼1	
	論理学—論理的思考と表現法	1後	1			○								兼1	
	数学	1後	1			○								兼1	
	ストレスと食・健康	1後	1			○			1						
	職業とキャリア形成	1~3	1			○			2		3	1			オムニバス・共同 (一部)
	コミュニケーション演習	1前	1					○	2		2			兼4	オムニバス・共同 (一部)
	体育概論	1後	1			○								兼1	
スポーツと健康	1後	1					○						兼1		
小計 (19科目)	—	27	4	0	—	—	—	3	0	3	1	0	兼15		
専門基礎分野	食品・栄養の基礎														
	食品学総論	1前	2			○			1						
	食品学各論	1後	2			○			1						
	食品学実験Ⅰ	1後	1					○			1		1		
	食品学実験Ⅱ	3後	1					○			1		1		
	食の科学	1後	2			○								兼1	
	食品素材論	2前	2			○			1						
	調理学	1前	2			○						1			
	栄養と代謝	1後	2			○								兼1	
	栄養代謝実験	3前	1					○			1		1		
	食品加工基礎	1後	2			○					1		1	兼1	
	食品加工基礎実習	1後		1				○					1	兼1	
	食生活と健康	1前	2			○								兼1	
	食品管理論	2前		2		○			1						
食品衛生学	2前	2			○			1		1				共同	
食品衛生学実験	2後	1					○	1		1		1		共同	
臨床栄養学概論	2前	2			○					1					
給食計画論	1前	2			○						1				
小計 (17科目)	—	26	3	0	—	—	—	2	0	3	1	1	兼3		

教育課程等の概要														
(人間科学部ヘルスフードサイエンス学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門分野	フードシステム学	3前	2			○								兼1
	食品の経営学	1前	2			○								兼1
	食品流通学	1前		2		○								兼1
	食品資源論	2後		2		○			1					
	食品生産流通学実習（視察）	3後		1				○	2		3	1		共同・※講義
	フードスペシャリスト論	3後		2		○								兼1
	フードコーディネータ論	3後		2		○								兼1
	健康科学英語（心身、食品、健康、衛生）	2通		2		○								兼1
	国際英語（プレゼンテーション）	3通		2		○								兼1
	食品安全等国際制度論	4前	2			○								兼1
	グローバルヘルスフード開発	4前		2		○								兼1
	フードセーフティ入門	4後		2		○			1					
	食品リスク管理論	4前		2		○								兼1
	食環境生産教育実習	3通		2				○	1		1	1		兼2 共同
	国際産学連携論	4前		2		○								兼1
	トレーサビリティ論	4後		2		○								兼1
	フードビジネス関連法規	4後		2		○								兼1
小計（17科目）	—	—	6	27	0	—	—	—	3	0	3	1	0	兼7
インターンシップ 卒業研究	インターンシップ	2通		2				○	2		3	1		
	卒業研究	3後～4通		2				○	2		3	1		
小計（2科目）	—	—	0	4	0	—	—	—	2	0	3	1	0	0
共通科目	国際研修	1・2・3・4		1				○	1					
	ボランティア活動	1・2・3・4		1				○	1					
小計（2科目）	—	—	0	2	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0
合計（104科目）		—	100	79	0	—	—	—	4	0	3	1	1	兼39
学位又は称号	学士（食品健康科学）		学位又は学科の分野			家政学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目100単位を修得し、130単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：46単位（年間））						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

- (注)
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1) 学生の確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

本学では、平成 23 年 4 月より看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻、義肢装具学専攻からなる保健医療学部を開設し、保健医療分野における教育研究、学生募集、卒業後の就職に関して、多くの実績を蓄積してきている。今回、収容定員の増員を行う看護学科およびリハビリテーション学科理学療法学専攻については、これまでの学生募集・志願状況と、同類分野の私立大学および埼玉県を中心とした近隣競合学科への志願状況から、入学定員（看護学科：90 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻：50 人）を充足すると見通しを得た。本学看護学科の志願者数は入学定員 80 人に対して、過去 5 年間平均で 270 人程度と推移しており、志願倍率は平均で 3.40 倍となっている。リハビリテーション学科理学療法学専攻の志願者数は入学定員 40 人に対して、過去 5 年間平均で 155 人程度と推移しており、志願倍率は平均で 3.96 倍となって、本学看護学科およびリハビリテーション学科理学療法学専攻への人気は一定の水準を保っている状況である。

入学定員を 60 人に減員するヘルスフードサイエンス学科の志願者数は入学定員 80 人に対して、平成 29 年の開設以来 3 年間平均で 23 人と、大幅に下回る状況である。しかしながら、年々志願者数は増加しており、令和 2 年度入試については入学内定者数が 33 名（令和元年 11 月現在）となっており、変更後の定員充足の見通しを得ている。

(資料 1-①：看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の募集状況)

(資料 1-②：ヘルスフードサイエンス学科の募集状況)

日本私立学校振興・共済事業団が公表する『私立大学・短期大学等入学志願動向』より、私立大学における「保健系」学部の動向をみると、志願者数が平成 27 年の 170,602 人から平成 31 年の 188,548 人と増加傾向となっており、充足率もいずれの年度で 100%を上回っていることから、安定的に募集が可能である分野であることがわかる。

(資料 2：私立大学の「保健系」学部および「保健医療学部」の志願動向)

看護学科については、日本看護協会出版会が公表する『看護関係統計資料集』にて看護師養成大学の詳細な動向が把握できるが、全国の看護師養成大学による過去 6 年間平均の志願倍率が 6.2 倍に対して、埼玉県では 7.1 倍と高い数値となっている。

(資料 3：看護師養成大学の募集状況)

埼玉県内に所在する競合学科の一般入試（センター試験利用含む）の志願者数をみると、看護師養成学科は平成 27 年の 3,593 人から平成 31 年には 2,749 人、理学療法士養成学科は平成 27 年の 1,615 人から平成 31 年は 1,127 人と減少傾向にはあるが、過去 5 年間の平均志願倍率は看護師養成学科は 2.7 倍、理学療法士養成学科は 2.8 倍と一定の水準を保っている状況である。

（資料 4：近隣競合校による一般入試の志願動向－看護師養成）

（資料 5：近隣競合校による一般入試の志願動向－理学療法士養成）

また、本学看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の平成 31 年度の入学者数実績をもとに、収容定員の変更（看護学科の入学定員：90 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員：50 人）を行った場合に必要な合格者数を試算したところ、看護学科は同程度、リハビリテーション学科理学療法学専攻で 7 人の増加に留まり、平成 31 年度の両学科の志願者数（看護学科：255 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻：176 人）を考慮すると、適切な選抜を維持できることから、学生確保は可能であると判断した。

（資料 6：収容定員の変更における入試シミュレーション）

なお、本学は平成 29 年 4 月に『「生命」「人間」「健康」を科学的・統合的に追求し、現代の食・栄養に関連する産業、ビジネス、サービス等に対応できる人材の養成』を目的とした、ヘルスフードサイエンス学科を設置した。ヘルスフードサイエンス学科は入学定員 80 人、収容定員 320 人で定員を設定しているが、開設 1 年目である平成 29 年度の志願者数は 9 人、入学者数は 7 人、2 年目である平成 30 年度の志願者数は 26 人、入学者数は 13 人、3 年目である平成 31 年度の志願者数は 34 人、入学者は 25 人の結果となった。この 3 年間は食と栄養、食品や食材、加工や製造に関する企業や行政、NPO 等の組織などでのインターンシップを大きな特色として募集活動を行ったが、本学の他の学部・学科が専門的なライセンス取得を目的としている中で、受験生に対し、ヘルスフードサイエンス学科の特色について訴求が十分でなかったと分析している。一方、ヘルスフードサイエンス学科では、栄養士養成施設の指定を受けるため、平成 29 年にカリキュラムの一部変更を行い、平成 30 年 3 月に指定を受けた。よって、開設 4 年目となる令和 2 年度の募集活動では、改めてヘルスフードサイエンス学科の魅力と栄養士取得のメリットを強く打ち出し、広報を行っている。その結果、令和 2 年度入試の入学内定者数は 33 名（令和元年 11 月現在）となり、既に昨年度の入学者数である 25 人を上回っている状況であり、学生確保は可能であると判断した。

イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の募集状況

過去 5 年間に於ける全入試方式を合計した志願者数、合格者数、入学者数を資料 1 に示す。看護学科の志願者数は、入学定員 80 人に対して、平成 27 年から平成 31 年にかけて、276 人→325 人→212 人→290 人→255 人で推移しており、5 年間平均で 272 人となっている。志願倍率（志願者数／入学定員数）は最大で 4.06 倍、最小で 2.65 倍、平均が 3.40 倍と、高い水準での選抜を行うことができています。

リハビリテーション学科理学療法学専攻の志願者数は、入学定員 40 人に対して、平成 27 年から平成 31 年にかけて、155 人→178 人→128 人→154 人→176 人で推移しており、5 年間平均で 158 人となっている。志願倍率は最大で 4.45 倍、最小で 3.20 倍、平均が 3.96 倍と看護学科同様に高い水準での選抜を行うことができています。

また、両学科ともにすべての年度において入学定員充足率が 1.00 倍を上回っており、入学者数は 5 年間の平均で看護学科が 89 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻が 43 人となっており、入学者確保においても安定した状況となっている。

（資料 1－①：看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の募集状況）

②私立大学における同類分野の進学状況

日本私立学校振興・共済事業団が公表する『私立大学・短期大学等入学志願動向』（平成 27 年～平成 31 年）より、私立大学における「保健系」学部の過去 5 年間の動向を資料 2 に示す。これによると、私立大学における「保健系」学部の志願者数は平成 27 年から平成 31 年にかけて、170,602 人→172,040 人→179,962 人→185,322 人→188,548 人で推移しており、5 年間で 17,946 人増加している。各年において志願倍率は 5.5 倍前後、充足率は 103% 前後を保っており、「保健系」学部が安定した動向を示していることがわかる。

また、「保健系」学部から、本学と同様の名称である「保健医療学部」を抽出したところ、志願者数は平成 27 年から平成 31 年にかけて、24,934 人→26,057 人→25,621 人→26,979 人→28,502 人で推移しており、5 年間で 3,568 人増加している。各年において志願倍率は 4.7 倍前後、充足率は 105% 前後を保っており、「保健系」学部同様、学生募集の状況が好調な分野であることが分かる。

（資料 2：私立大学の「保健系」学部および「保健医療学部」の志願動向）

③看護師養成大学の募集状況

日本看護協会出版会が公表する『看護関係統計資料集』（平成 25 年～平成 30 年）より、全国および埼玉県に所在する看護師養成大学の過去 6 年間の動向を資料 3 に示す。これによると、全国の看護師養成大学は平成 25 年の 218 校から平成 30 年の 280 校と、6 年間で 62 校も増加している。これに加え、入学定員数も平成 25 年の 17,878 人から平成 30 年の 23,840 人と、5,962 人増加している。このような状況のなか、志願者数は平成 25 年から平

成 30 年にかけて、118,098 人→127,152 人→127,632 人→131,868 人→137,438 人→148,577 人で推移しており、6 年間で 30,479 人増加している。また、志願倍率はいずれの年度で 6 倍を超えており、充足率も 107%前後を保っている。

埼玉県内に所在する看護師養成大学をみると、平成 26 年に大学数が 2 校増加し 10 校となり、入学定員数も平成 26 年に 740 人から 230 人増加し、970 人となり、平成 30 年には 1 校増加し、11 校で 1,075 人となっている。志願者数は平成 25 年から平成 30 年にかけて、4,123 人→8,083 人→7,527 人→6,919 人→6,497 人→7,372 人で推移しており、6 年間で 2,631 人増加している。特に、平成 26 年の学校数増加の際は、志願者数も前年に比べ大幅に増加している。大幅な増加があった平成 26 年以降の志願者数は減少傾向にあったが、平成 30 年度は増加に転じ、志願倍率も 6.7 倍以上を保っていることから、全国の水準と比べ、埼玉県内における看護師養成大学への進学意欲が高いことが窺える。また、充足率も 110%程度で推移していることから、埼玉県内の看護師養成大学については、入学定員を上回る入学希望者が存在していることを示している。

(資料 3 : 看護師養成大学の募集状況)

④近隣競合校の動向

本学の看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻と競合する、近隣の同類学科の一般入試(センター試験利用含む)の過去 5 年間の動向を資料 4・5 に示す。なお、競合する学科として、同じ埼玉県に所在し、同じ資格を取得できる学科(看護師養成および理学療法士養成)を条件とした。

埼玉県内に所在する看護師養成学科は、以下の 8 大学 8 学科が挙げられる。

埼玉医科大学	保健医療学部	看護学科	入定：80 人	(日高市)
西武文理大学	看護学部	看護学科	入定：80 人	(狭山市)
東京家政大学	健康科学部	看護学科	入定：100 人	()
東都大学	ヒューマンケア学部	看護学科	入定：100 人	(深谷市)
日本医療科学大学	保健医療学部	看護学科	入定：80 人	(入間郡)
日本保健医療大学	保健医療学部	看護学科	入定：100 人	(幸手市)
文京学院大学	保健医療技術学部	看護学科	入定：100 人	(ふじみ野市)
				※1 年次のみ
目白大学	看護学部	看護学科	入定：100 人	(さいたま市)

これらの学科の志願倍率は平成 27 年から平成 31 年にかけて 2.92→2.68→2.64→2.81→2.51 で推移しており、多くの学科で 2 倍から 3 倍を超えていることから、本学の周辺地域では、看護師養成学科の人気は高く、志願者も集まっていることが伺える。

埼玉県内に所在する理学療法士養成学科は、以下の 5 大学 5 学科・専攻が挙げられる。

埼玉医科大学	保健医療学部	理学療法学科	入定：50 人	(入間郡)
日本医療科学大学	保健医療学部	リハビリテーション学科 -理学療法専攻	入定：80 人	(川)
日本保健医療大学	保健医療学部	理学療法学科	入定：80 人	(幸手市)
文京学院大学	保健医療技術学部	理学療法学科	入定：80 人	(ふじみ野市)
目白大学	保健医療学部	理学療法学科	入定：80 人	(さいたま市)

これらの学科の志願倍率は平成 27 年から平成 31 年にかけて 3.74→3.11→2.89→2.37→2.11 で推移している。平成 28 年以前は 3 倍を超え、平成 29 年以降でも 2 倍を超えていることから、本学の周辺の地域では、理学療法士養成学科の人気は高く、志願者も集まっていることが伺える。

(資料 4：近隣競合校による一般入試の志願動向-看護師養成)

(資料 5：近隣競合校による一般入試の志願動向-理学療法士養成)

⑤ 収容定員の変更における入試シミュレーション

本学看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の平成 31 年度における入学者数の実績をもとに、収容定員の変更（看護学科の入学定員：90 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員：50 人）を行った場合に必要な合格者数を試算したものを資料 6 に示す。看護学科では、志願者数 255 人、歩留率 57.6%から変化しないと仮定した場合、合格者を 157 人とすれば入学定員の 90 人は確保できる試算となった。平成 31 年の合格者数 158 人と比べ、同程度と見込めることから、適切な入試選抜を維持できる範囲内で学生確保ができると考えられる。

リハビリテーション学科理学療法学専攻では、志願者数 176 人、歩留率 63.9%から変化しないと仮定した場合、合格者を 79 人とすれば入学定員の 50 人は確保できる試算となった。平成 31 年の合格者数 72 人と比べ、合格者の増加は 7 人に留まることから、看護学科と同様に、適切な入試選抜を維持できる範囲内で学生確保ができると考えられる。

(資料 6：収容定員の変更における入試シミュレーション)

2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

① 大学説明会・オープンキャンパス

本学では、本学への入学を志望する者及びその保護者等を対象にして、本学の内容や入学試験等を説明するオープンキャンパスを下記のように実施する予定である（すでに実施済みの日程も含む）。

2019年 3月24日（日）、 5月26日（日）、 6月9日（日）、
6月23日（日）、 7月21日（日）、 8月4日（日）、
8月25日（日）、 9月29日（日）、 10月20日（日）、
11月24日（日）、 12月22日（日）
2020年 1月25日（土）

これらは参加を希望する生徒や家族、社会人等の都合を考慮して、年内は全日程とも日曜日に開催を予定している。

このオープンキャンパスでは、大学案内や学生募集要項等を用いて大学の理念や学科別の教育目的とともに、入学者の受入れ方針とそれに沿った入学試験を中心として説明を行い、また、模擬授業などを行うことで、本学の特徴の紹介にもつなげている。

②ホームページ・学生募集要項

各学部、各学科及び大学院各専攻のアドミッション・ポリシーは、全て本学のホームページに掲載することで、広く周知している。併せて学生募集要項においては、最初の見開きのページに明示し、出願検討者の目に触れるよう工夫している。

③学生募集活動

本学は、入学者確保のため、本学の所在する関東エリアを中心に、甲信越エリア、南東北エリアにおいて、全教職員による学校訪問を行っている。今年度は、約370校（昨年度307校）を対象に、年間2回の訪問を予定している。本学に入学実績のある高等学校の教員と面会し、本学の特色と教育内容の説明を行うとともに、高校教員との意見交換を行い、効果的な学生募集の検討や高校の実情を踏まえたうえでの教育活動の改善に役立っている。併せて、全国で実施される進学相談会、高等学校内で実施されるガイダンスに参加し、高校単位での大学見学も受け入れている。これらの活動を通じて受験生に直接説明を行う機会も確保する。進学相談会は受験生が進学先を本格的に検討する4月～10月に、会場説明会52会場、高校内ガイダンス111校、バス見学受け入れ9校、合計172回を予定している。進学相談会については、随時ホームページにて受験生に周知を行っている。

なお、平成29年度に開設された人間科学部ヘルスフードサイエンス学科については、平成30年4月より新たに栄養士養成課程の認可を得て、食品開発から調理、ビジネスまで、企業で活躍できる栄養士の養成を特色として広報活動を展開している。認知度向上のための方策としては、ヘルスフードサイエンス学科のホームページのTOPに、イベント告知専用のページを配置し、各種イベントへの誘導を図っている。また、オープンキャンパスの実施に合わせてダイレクトメール等での周知を行い、参加を促している。その結果、公式ホームページ閲覧者数ならびにオープンキャンパス参加者については、令和元年10月迄の段階で、昨年度を大きく上回っている（表1）。ヘルスフードサイエンス学科を希望するオープ

ンキャンパス参加者については、全員が本学を第一志望校としている旨の回答をアンケートより得ている。また、新たな試みとして、高校生を対象とした学科主催の「食のアイデアコンテスト」を実施。当該学科のコンセプト理解と普及を目的にしたこのコンテストには北海道から沖縄まで、全国の高校生から 299 件（2019 年度）の応募を得た。これをきっかけにオープンキャンパスへ参加、入試に出願した生徒もおり、学生募集としても効果を発揮している。

さらに、SNS の効果的な活用として、人間総合科学大学ブログ「UHAS ウオッチ」を開設し、受験生の視点で学科の魅力を伝えられるように、教職員に加え、本学の学生自らも記事を発信している。在学生の世界食品開発コンテスト優勝報告など学科の教育成果を効果的に発信する場ともなっている。また、この情報をより多くの受験生に周知するためツイッター、インスタグラム、フェイスブック等もあわせて活用している。

表 1 ヘルスフードサイエンス学科公式ホームページ閲覧者数及びオープンキャンパス参加者数

	2019 年	2018 年
	3 月-10 月	3 月-10 月
WEB サイト閲覧者数	9,037 件	3,526 件
オープンキャンパス参加者数	178 名	92 名

以上に加え、進学情報媒体等への掲載やインターネット広告の拡充、ヘルスフードサイエンス学科に特化した案内冊子の作成、食品産業における企業人を招いての講演等も実施しており、ヘルスフードサイエンス学科の定員充足率については大幅な改善を見込んでいる。

人間科学部心身健康科学科【通信教育課程】については、入試相談会、オープンキャンパスの開催回数を昨年度の 15 回から今年度 20 回へ増やしている。また、本学ではこれまで有職者を中心に募集活動を行ってきたが、昨年度より通信制高等学校に対する募集活動にも注力し、専用リーフレットの作成を行うとともに、SNS を利用した広報活動も展開している。併せて、教職員による通信制高等学校への訪問を今年度は約 70 校行う予定である。

また、専門学校との教育交流提携（大学併修制度）を推進するため、専門学校への広報活動（訪問・リーフレット送付）を行っている。その結果、平成 29 年度に 27 校であった併修提携校は、平成 30 年度末時点で 36 校へと増加しており、今後も十分な需要が見込まれる。

以上の取組により心身健康科学の定員充足率についても改善を見込んでいる。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

・看護学科

本学看護学科では、人間を多面的・総合的に理解し、また論理的な態度をもって適切な人間関係を築くことができる能力、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を習得し、安全で質の高い看護を实践できる能力、社会制度をふまえ、保健・医療・福祉分野の専門職間および地域との連携・協働のできる能力、人々の生活文化・価値観を尊重し、健康の維持・増進、疾病の予防への支援ができる能力、看護の質を向上させるとともに、グローバル社会の進展も見据えて継続して自己学習できる能力を養うことを目的としている。

・リハビリテーション学科理学療法学専攻

本学リハビリテーション学科理学療法学専攻では、人間を多面的・総合的に理解し、また論理的な態度をもって適切な人間関係を築くことができる能力、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を習得し、安全で質の高い理学療法を实践的に行う能力、社会制度をふまえ、保健・医療・福祉分野の専門職間および地域との連携・協働のできる能力、機能障害により生活機能が損なわれている人と家族をサポートし、その自立支援を行う能力、理学療法の質を向上させるとともに、グローバル社会の進展も見据えて継続して自己学習できる能力を養うことを目的としている。

・ヘルスフードサイエンス学科

本学ヘルスフードサイエンス学科では、人間の総合的・科学的な理解と「食・栄養」について幅広く学び、食の安全・安心、リスク管理と国際的な食のマネジメントの総合的な知識と技術を身につけた人材を養成することを目的としている。

2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

・看護学科

本学看護学科では、平成23年4月の開設以降、多くの卒業生が看護師として就職している。過去3年間の就職状況は以下の表の通りであるが、就職希望者における内定率は3年間連続で100%となっており、社会から高い評価を受けている結果であると判断している。

	在籍者	進学者	就職希望者	内定者	内定率
H29.3 卒業	77人	6人	71人	71人	100.0%
H30.3 卒業	93人	2人	91人	91人	100.0%
H31.3 卒業	60人	1人	59人	59人	100.0%

厚生労働省の看護職員確保対策のホームページにおいて、「看護職員（保健師・助産師・看護師・准看護師）としての就業者数は平成 28 年末で約 166 万人であり、税・社会保障一体改革における推計において、団塊の世代が後期高齢者となる令和 7 年には、看護職員は 196 万人～206 万人必要である。就業者数は、年間平均 3 万人程度、増加しているが、このペースで今後増加しても令和 7 年には 3 万人～ 13 万人が不足すると考えられる。」（抜粋）としており、将来の看護職員の不足について懸念を示している。

将来、全国的に不足が予測されている看護職員であるが、看護師のみを見た場合、本学が位置する埼玉県では、現状において全国平均よりも下回る状況である。厚生労働省の「平成 29 年病院報告」および「平成 29 年医療施設調査」をもとに、都道府県別の病床 100 床に対する看護師数を算出したところ、埼玉県は 48.0 人で、全国平均 48.7 人よりも下回る状況であった。（資料 7）また、厚生労働省の看護職員需給見通しに関する検討会で公表された「第七次看護職員需給見通し」（資料 8）にて、平成 27 年時点での需要見通しと供給見通しの差が試算されているが、全国の 99.0%に対し、埼玉県は 98.0%に留まっていることから、埼玉県における看護師の供給量が足りていないことが伺える。

以上の通り、本学看護学科の就職状況ならびに、将来や地域における看護師不足の現状を考慮すると、本学看護学科の人材需要については問題ないと考えている。

（資料 7：都道府県別 病床 100 対看護師数）

（資料 8：都道府県別 第七次看護職員需給見通し）

・リハビリテーション学科理学療法学専攻

本学リハビリテーション学科理学療法学専攻では、平成 23 年 4 月の開設以降、多くの卒業生が理学療法士として就職している。過去 3 年間の就職状況は以下の表の通りであるが、就職希望者における内定率は高い水準を保っている状況であり、看護学科同様、社会から高い評価を受けている結果であると判断している。

	在籍者	進学者	就職希望者	内定者	内定率
H29.3 卒業	39 人	0 人	39 人	39 人	100.0%
H30.3 卒業	34 人	0 人	34 人	33 人	97.1%
H31.3 卒業	28 人	0 人	28 人	28 人	100.0%

過去 5 年間の理学療法士数の推移は以下の通りとなっている。

	H25	H26	H27	H28	H29
全国	61,721	66,151	70,492	74,236	78,439
埼玉県	2,572	2,785	3,025	3,257	3,576

（参照：厚生労働省「病院報告」）

これによると、病院で勤務する理学療法士は平成 29 年度時点で、全国 78,439 人（常勤換算）おり、平成 25 年の 61,721 人から約 1.7 万人増加している状況である。埼玉県は平

成 29 年時点で 3,576 人おり、平成 25 年の 2,572 人から 1,004 人増加している状況である。これらは、全国、埼玉県ともに理学療法士の需要が高いことを示しているといえる。

厚生労働省の「平成 29 年病院報告」および「平成 29 年医療施設調査」をもとに、都道府県別の病床 100 床に対する理学療法士数を算出したところ、埼玉県は 5.5 人であり、全国水準の 4.7 人よりは上回っている状況であった。しかしながら、もっとも多い高知県の 6.6 人や、長野県の 6.1 人などの水準と比べると、改善が見込まれる。また、本学が位置する埼玉県に隣接する茨城県（4.4 人）、栃木県（3.8 人）は、全国平均を下回っており、理学療法士の不足が予想される。

（資料 9：都道府県別 病床 100 対理学療法士数）

さらに、厚生労働省の理学療法士・作業療法士需給分科会にて公表した、四病院団体協議会実施の「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（資料 10）によると、「現在と比較して 2025 年までに（理学療法士の）雇用を増やしていく予定ですか」に対して、38.8% の医療機関が「増やしていく」と回答し、「未定」の 39.3% に次いで多い回答であった。関東のみで見た場合、45.2% が「増やしていく」と回答しており、他の選択肢よりも高い割合であったのに加え、他の地域と比べても「増やしていく」を回答した割合がもっとも高く、今後の理学療法士の需要は、増加すると予想される。

以上の通り、本学リハビリテーション学科理学療法学専攻の就職状況ならびに、理学療法士のこれまでの増加数や、医療施設が示した増加の意向を考慮すると、本学リハビリテーション学科理学療法学専攻の人材需要については問題ないと考えている。

（資料 10：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査
（理学療法士に関係する箇所のみ抜粋）

・ヘルスフードサイエンス学科

①食料品製造業の従業者数の推移からみた人材需要

経済産業省が発表している「工業統計調査」によれば、平成 25 年から平成 29 年までの「食料品製造業」の従業者数の全製造業の従業者数に対する比率は以下の通りであった。

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
食料品製造業の従業者数	1,105,813	1,112,433	1,109,819	1,130,444	1,138,973
全製造業の従業者数の合計	7,402,984	7,403,269	7,497,792	7,571,369	7,697,321
比率	14.9%	15.0%	14.8%	14.9%	14.8%

食料品製造業の従業者数の比率は 15%前後で推移しており、食料品製造業における人材需要は堅調であると考えられる。

また、特に埼玉県に着目した場合、食料品製造業の従業者数の比率は以下の通りであった。

	平成 25 年	平成 26 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
埼玉県の食料品 製造業の従業者数	61,833	66,587	66,316	66,729	70,195
埼玉県の全製造業 の従業者数の合計	375,408	379,238	384,568	384,055	396,691
比率	16.5%	17.6%	17.2%	17.4%	17.7%

※平成 27 年については平成 28 年経済センサスのため工業統計調査を休止

埼玉県においては、全国平均に比べても食料品製造業の従業者数の伸びが特に大きく、人材需要が増していることがわかる。本学科の卒業生は、食料品製造業またはそれに関連する企業等に就職する者が多くなることが予測されるが、採用のニーズは十分に高いものと考えられる。

(資料 11：製造業の業種別従業者数の推移)

資料1-①:看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の募集状況

学科・専攻	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	平均
看護学科	入学定員(A)	80	80	80	80	80	80
	志願者数(B)	276	325	212	290	255	272
	合格者数(C)	157	170	142	158	158	157
	入学者数(D)	80	96	87	89	91	89
	志願倍率(B/A)	3.45	4.06	2.65	3.63	3.19	3.40
	歩留率(D/C)	51.0%	56.5%	61.3%	56.3%	57.6%	56.4%
	充足率(D/A)	1.00	1.20	1.09	1.11	1.14	1.11
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	入学定員(A)	40	40	40	40	40	40
	志願者数(B)	155	178	128	154	176	158
	合格者数(C)	80	85	81	80	72	80
	入学者数(D)	42	40	42	47	46	43
	志願倍率(B/A)	3.88	4.45	3.20	3.85	4.40	3.96
	歩留率(D/C)	52.5%	47.1%	51.9%	58.8%	63.9%	54.5%
	充足率(D/A)	1.05	1.00	1.05	1.18	1.15	1.09

資料1-②:ヘルスフードサイエンス学科の募集状況

学科・専攻	項目	29年度	30年度	31年度	平均
ヘルスフードサイエンス 学科	入学定員(A)	80	80	80	80
	志願者数(B)	9	25	34	23
	合格者数(C)	9	18	32	20
	入学者数(D)	7	13	25	15
	志願倍率(B/A)	0.11	0.31	0.43	0.28
	歩留率(D/C)	77.8%	72.2%	78.1%	76.3%
	充足率(D/A)	0.09	0.16	0.31	0.19

※志願者数には、一般入試、大学入試センター試験利用入試における第2志望制度(第1志望の学科・専攻が不合格になった場合、第2志望の学科・専攻であらためて合否判定が行われる制度)で判定を受けた学生も含む。

資料2: 私立大学の「保健系」学部および「保健医療学部」の志願動向

【保健系学部の動向】

	学部数	入学定員 (A)	志願者 (B)	受験者 (C)	合格者 (D)	入学者 (E)	志願倍率 (B/A)	実質倍率 (C/D)	歩留率 (E/D)	充足率 (E/A)
平成27年	192	28,998	170,602	163,950	61,599	31,206	5.88	2.66	50.7%	107.6%
平成28年	198	30,330	172,040	165,349	63,762	31,585	5.67	2.59	49.5%	104.1%
平成29年	209	32,850	179,962	173,271	67,051	33,561	5.48	2.58	50.1%	102.2%
平成30年	220	34,307	185,322	177,967	69,269	34,669	5.40	2.57	50.0%	101.1%
平成31年	237	35,861	188,548	180,995	73,835	36,159	5.26	2.45	49.0%	100.8%
増加数 (平成27年→ 平成31年)	45	6,863	17,946	17,045	12,236	4,953	5.54	2.57	0.50	103.2%

平均

【保健医療学部の動向】

	学部数	入学定員 (A)	志願者 (B)	入学者 (C)	志願倍率 (B/A)	充足率 (C/A)
平成27年	30	4,845	24,934	5,424	5.15	112.0%
平成28年	30	5,085	26,057	5,252	5.12	103.3%
平成29年	32	5,795	25,621	5,967	4.42	103.0%
平成30年	32	6,000	26,979	6,128	4.50	102.1%
平成31年	34	6,460	28,502	6,636	4.41	102.7%
増加数 (平成27年→ 平成31年)	4	1,615	3,568	1,212	4.72	1.05

平均

出典: 日本私立大学学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

資料3: 看護師養成大学の募集状況

【全国】

	学校数	入学定員数 (A)	応募者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数	入学者数 (D)	志願倍率 (B/A)	競争率 (C/D)	充足率 (D/A)
平成25年	218	17,878	118,098	108,708	31,531	19,376	6.6	5.6	108.4%
平成26年	234	19,674	127,152	116,275	36,289	21,223	6.5	5.5	107.9%
平成27年	250	21,034	127,632	116,903	39,861	22,512	6.1	5.2	107.0%
平成28年	256	21,619	131,868	120,796	41,164	23,106	6.1	5.2	106.9%
平成29年	267	22,656	137,438	126,497	43,171	24,007	6.1	5.3	106.0%
平成30年	280	23,840	148,577	136,415	45,558	25,048	6.2	5.4	105.1%
平均	251	21,117	131,794	120,932	39,596	22,545	6.2	5.4	106.8%
増加 (H25→H30)	62	5,962	30,479	27,707	14,027	5,672			

【埼玉県】

	学校数	入学定員数 (A)	応募者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数	入学者数 (D)	志願倍率 (B/A)	実質倍率 (C/D)	充足率 (D/A)
平成25年	8	740	4,123	3,807	1,429	838	5.6	4.5	113.2%
平成26年	10	970	8,083	7,370	2,021	1,066	8.3	6.9	109.9%
平成27年	10	970	7,527	6,921	2,097	1,022	7.8	6.8	105.4%
平成28年	10	970	6,919	6,369	1,898	1,068	7.1	6.0	110.1%
平成29年	10	975	6,497	6,063	1,888	1,067	6.7	5.7	109.4%
平成30年	11	1,075	7,372	6,813	2,101	1,180	6.9	5.8	109.8%
平均	10	950	6,754	6,224	1,906	1,040	7.1	6.0	109.5%
増加 (H25→H30)	2	210	2,631	2,417	477	202			

出典: 日本看護協会出版会「看護関係統計資料集(平成25年～平成30年)」

資料6: 収容定員の変更における入試シミュレーション

【看護学科のシミュレーション】

	入学定員	志願者	合格者	入学者	歩留率	充足率
変更前	80	255	158	91	57.6%	113.8%
	↓	(変更なし)	↓	↓	(変更なし)	↓
変更後	90	255	156.3	90	57.6%	100.0%

【リハビリテーション学科理学療法学専攻のシミュレーション】

	入学定員	志願者	合格者	入学者	歩留率	充足率
変更前	40	176	72	46	63.9%	115.0%
	↓	(変更なし)	↓	↓	(変更なし)	↓
変更後	50	176	78.3	50	63.9%	100.0%

資料7:都道府県別 病床100対看護師数

総数	看護師数 (A)	病床数			病床100対 看護師数 (A/B×100)
		病院	一般診療所	合計 (B)	
全 国	805,708.0	1,554,879	98,355	1,653,234	48.7
北 海 道	44,237.0	94,523	6,253	100,776	43.9
青 森	8,556.2	17,252	2,085	19,337	44.2
岩 手	8,780.2	17,304	1,418	18,722	46.9
宮 城	13,448.4	25,552	1,651	27,203	49.4
秋 田	7,643.6	15,059	802	15,861	48.2
山 形	7,879.8	14,589	678	15,267	51.6
福 島	11,299.2	25,547	1,429	26,976	41.9
茨 城	14,569.5	31,594	1,791	33,385	43.6
栃 木	10,660.5	21,105	1,657	22,762	46.8
群 馬	12,178.7	24,217	1,219	25,436	47.9
埼 玉	31,255.6	62,346	2,765	65,111	48.0
千 葉	30,164.2	59,538	2,314	61,852	48.8
東 京	72,491.6	128,279	3,798	132,077	54.9
神 奈 川	43,161.4	73,844	2,522	76,366	56.5
新 潟	15,027.8	28,406	596	29,002	51.8
富 山	8,480.3	16,633	610	17,243	49.2
石 川	9,839.0	17,905	907	18,812	52.3
福 井	5,744.0	10,912	1,103	12,015	47.8
山 梨	5,170.6	10,843	475	11,318	45.7
長 野	14,440.8	23,878	903	24,781	58.3
岐 阜	11,163.3	20,456	1,657	22,113	50.5
静 岡	19,934.5	38,673	2,118	40,791	48.9
愛 知	39,541.3	67,678	4,053	71,731	55.1
三 重	10,523.0	20,172	1,165	21,337	49.3
滋 賀	9,166.3	14,351	506	14,857	61.7
京 都	18,196.5	35,325	737	36,062	50.5
大 阪	57,426.7	106,920	2,368	109,288	52.5
兵 庫	35,085.3	65,021	2,764	67,785	51.8
奈 良	8,543.7	16,962	486	17,448	49.0
和 歌 山	6,316.4	13,473	1,069	14,542	43.4
鳥 取	4,939.4	8,546	455	9,001	54.9
島 根	5,616.9	10,557	482	11,039	50.9
岡 山	15,246.3	28,226	2,234	30,460	50.1
広 島	19,606.6	39,942	2,948	42,890	45.7
山 口	11,748.7	26,700	1,709	28,409	41.4
徳 島	6,252.1	14,430	1,804	16,234	38.5
香 川	7,853.2	14,863	1,644	16,507	47.6
愛 媛	11,069.4	21,980	2,711	24,691	44.8
高 知	7,848.1	18,170	1,260	19,430	40.4
福 岡	43,954.8	85,398	7,548	92,946	47.3
佐 賀	7,315.4	14,980	2,349	17,329	42.2
長 崎	12,513.4	26,301	3,640	29,941	41.8
熊 本	15,750.0	34,626	5,052	39,678	39.7
大 分	10,022.1	20,006	3,813	23,819	42.1
宮 崎	9,101.9	19,107	2,589	21,696	42.0
鹿 児 島	14,932.1	33,706	5,245	38,951	38.3
沖 縄	11,012.2	18,984	973	19,957	55.2

出典:看護師数は「平成29年病院報告」、病床数は「平成29年医療施設調査」

※看護師数は常勤換算従事者数

資料8 都道府県別 第七次看護職員需給見通し

(単位:人、常勤換算)

区分	平成23年			平成27年		
	需要数	供給数	需要見通しと供給見通しの差	需要数	供給数	需要見通しと供給見通しの差
01 北海道	76,845.0	72,490.0	4,355.0 94.3%	80,592.0	78,869.0	1,723.0 97.9%
02 青森県	19,829.8	18,927.8	901.9 95.5%	21,237.3	21,090.5	146.8 99.3%
03 岩手県	16,592.5	15,824.4	768.1 95.4%	17,170.6	16,433.2	737.4 95.7%
04 宮城県	24,457.1	23,819.7	637.4 97.4%	26,687.5	26,640.7	46.8 99.8%
05 秋田県	13,702.2	13,562.7	139.5 99.0%	14,264.1	14,250.9	13.2 99.9%
06 山形県	14,604.0	13,670.1	933.9 93.6%	14,907.3	14,457.7	449.6 97.0%
07 福島県	24,410.0	24,156.0	254.0 99.0%	25,581.0	25,565.0	16.0 99.9%
08 茨城県	27,884.8	25,555.9	2,328.9 91.6%	30,043.8	29,078.7	965.1 96.8%
09 栃木県	20,650.4	19,887.6	762.8 96.3%	21,595.4	21,109.8	485.6 97.8%
10 群馬県	22,287.7	21,910.5	377.2 98.3%	24,542.1	23,616.9	925.2 96.2%
11 埼玉県	49,847.7	48,917.8	929.9 98.1%	55,626.1	54,536.8	1,089.3 98.0%
12 千葉県	45,887.3	43,456.8	2,430.5 94.7%	50,891.6	49,410.0	1,481.6 97.1%
13 東京都	115,462.0	112,839.0	2,623.0 97.7%	120,575.0	120,575.0	0.0 100.0%
14 神奈川県	73,160.0	59,110.0	14,050.0 80.8%	81,118.0	79,340.0	1,778.0 97.8%
15 新潟県	26,793.0	26,613.0	180.0 99.3%	28,440.0	28,454.0	△ 14.0 100.0%
16 富山県	14,129.9	13,777.6	352.3 97.5%	14,936.9	14,834.6	102.3 99.3%
17 石川県	16,579.1	16,202.8	376.3 97.7%	17,534.7	17,485.3	49.4 99.7%
18 福井県	10,740.6	10,467.8	272.8 97.5%	11,526.6	11,360.6	166.0 98.6%
19 山梨県	9,046.1	8,844.4	201.7 97.8%	9,481.6	9,385.4	96.2 99.0%
20 長野県	24,307.0	23,578.0	729.0 97.0%	25,833.8	25,568.0	265.8 99.0%
21 岐阜県	20,624.9	19,244.3	1,380.6 93.3%	22,213.9	21,916.4	297.5 98.7%
22 静岡県	35,198.8	33,785.5	1,413.3 96.0%	37,208.5	36,348.3	860.2 97.7%
23 愛知県	69,327.4	65,147.1	4,180.3 94.0%	74,656.9	73,870.1	786.7 98.9%
24 三重県	18,207.3	17,645.0	562.3 96.9%	20,226.1	20,295.0	△ 68.9 100.3%
25 滋賀県	13,235.1	13,142.7	92.4 99.3%	14,433.7	14,393.2	40.5 99.7%
26 京都府	28,581.3	28,357.0	224.3 99.2%	30,780.9	30,780.0	0.9 100.0%
27 大阪府	88,909.0	85,250.0	3,659.0 95.9%	98,553.0	99,508.0	△ 955.0 101.0%
28 兵庫県	60,193.9	58,954.4	1,239.4 97.9%	64,817.5	64,774.2	43.2 99.9%
29 奈良県	14,157.0	13,365.0	792.0 94.4%	15,924.0	16,002.0	△ 78.0 100.5%
30 和歌山県	13,816.4	13,196.6	619.8 95.5%	14,610.8	14,354.6	256.2 98.2%
31 鳥取県	8,328.0	8,052.0	276.0 96.7%	8,832.0	8,594.0	238.0 97.3%
32 島根県	10,687.6	10,352.8	334.7 96.9%	11,226.7	10,981.8	244.9 97.8%
33 岡山県	25,522.1	24,917.1	605.0 97.6%	26,818.6	26,745.4	73.2 99.7%
34 広島県	41,948.8	40,563.4	1,385.4 96.7%	44,378.1	43,785.7	592.4 98.7%
35 山口県	21,222.0	20,846.0	376.0 98.2%	22,463.0	22,380.0	83.0 99.6%
36 徳島県	12,406.4	11,958.8	447.6 96.4%	12,973.7	12,876.4	97.3 99.3%
37 香川県	14,218.3	13,840.0	378.3 97.3%	14,853.2	14,786.0	67.2 99.5%
38 愛媛県	19,622.7	19,466.0	156.7 99.2%	19,979.6	19,803.1	176.5 99.1%
39 高知県	12,989.1	12,766.0	223.1 98.3%	13,491.6	13,445.6	46.0 99.7%
40 福岡県	76,522.7	76,002.3	520.4 99.3%	80,633.9	80,566.4	67.5 99.9%
41 佐賀県	13,640.5	13,043.2	597.3 95.6%	14,420.5	13,988.9	431.6 97.0%
42 長崎県	24,422.0	23,565.0	857.0 96.5%	24,993.0	24,534.0	459.0 98.2%
43 熊本県	29,030.8	28,459.4	571.4 98.0%	31,284.2	31,262.8	21.4 99.9%
44 大分県	19,050.6	18,787.0	263.6 98.6%	19,878.6	19,709.0	169.6 99.1%
45 宮崎県	18,833.1	18,520.3	312.8 98.3%	19,949.6	19,881.6	68.0 99.7%
46 鹿児島県	29,064.9	28,617.3	447.6 98.5%	30,580.0	30,451.1	128.9 99.6%
47 沖縄県	17,337.0	16,823.8	513.2 97.0%	18,124.9	17,926.8	198.1 98.9%
合計(全国)	1,404,313.9	1,348,279.9	56,034.0 96.0%	1,500,891.9	1,486,022.5	14,869.4 99.0%

出典:厚生労働省 看護職員需給見通しに関する検討会資料「第七次看護職員需給見通しについて」

資料9：都道府県別 病床100対理学療法士数

総数	理学療法士数 (A)	病床数			病床100対 理学療法士数 (A/B×100)
		病院	一般診療所	合計 (B)	
全 国	78,439.0	1,554,879	98,355	1,653,234	4.7
北 海 道	3,838.0	94,523	6,253	100,776	3.8
青 森	580.3	17,252	2,085	19,337	3.0
岩 手	600.9	17,304	1,418	18,722	3.2
宮 城	984.5	25,552	1,651	27,203	3.6
秋 田	427.9	15,059	802	15,861	2.7
山 形	611.1	14,589	678	15,267	4.0
福 島	1,018.2	25,547	1,429	26,976	3.8
茨 城	1,476.5	31,594	1,791	33,385	4.4
栃 木	857.7	21,105	1,657	22,762	3.8
群 馬	1,240.2	24,217	1,219	25,436	4.9
埼 玉	3,575.6	62,346	2,765	65,111	5.5
千 葉	3,451.6	59,538	2,314	61,852	5.6
東 京	6,442.2	128,279	3,798	132,077	4.9
神 奈 川	3,498.7	73,844	2,522	76,366	4.6
新 潟	929.3	28,406	596	29,002	3.2
富 山	610.5	16,633	610	17,243	3.5
石 川	754.3	17,905	907	18,812	4.0
福 井	509.7	10,912	1,103	12,015	4.2
山 梨	638.8	10,843	475	11,318	5.6
長 野	1,502.9	23,878	903	24,781	6.1
岐 阜	963.5	20,456	1,657	22,113	4.4
静 岡	2,048.1	38,673	2,118	40,791	5.0
愛 知	3,603.1	67,678	4,053	71,731	5.0
三 重	786.7	20,172	1,165	21,337	3.7
滋 賀	728.3	14,351	506	14,857	4.9
京 都	1,871.9	35,325	737	36,062	5.2
大 阪	5,861.9	106,920	2,368	109,288	5.4
兵 庫	3,648.1	65,021	2,764	67,785	5.4
奈 良	936.9	16,962	486	17,448	5.4
和 歌 山	793.0	13,473	1,069	14,542	5.5
鳥 取	479.6	8,546	455	9,001	5.3
島 根	452.0	10,557	482	11,039	4.1
岡 山	1,364.6	28,226	2,234	30,460	4.5
広 島	1,938.7	39,942	2,948	42,890	4.5
山 口	1,154.5	26,700	1,709	28,409	4.1
徳 島	856.5	14,430	1,804	16,234	5.3
香 川	750.0	14,863	1,644	16,507	4.5
愛 媛	1,093.0	21,980	2,711	24,691	4.4
高 知	1,278.9	18,170	1,260	19,430	6.6
福 岡	4,787.9	85,398	7,548	92,946	5.2
佐 賀	921.3	14,980	2,349	17,329	5.3
長 崎	1,425.5	26,301	3,640	29,941	4.8
熊 本	1,828.4	34,626	5,052	39,678	4.6
大 分	1,306.2	20,006	3,813	23,819	5.5
宮 崎	801.3	19,107	2,589	21,696	3.7
鹿 児 島	2,081.8	33,706	5,245	38,951	5.3
沖 縄	1,128.4	18,984	973	19,957	5.7

出典：理学療法士数は「平成29年病院報告」、病床数は「平成29年医療施設調査」

※理学療法士数は常勤換算従事者数

資料11 製造業の業種別従業者数の推移

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
09 食料品製造業	1,105,813	1,112,433	1,109,819	1,130,444	1,138,973
10 飲料・たばこ・飼料製造業	100,371	99,451	103,075	101,827	102,129
11 繊維工業	276,854	268,135	268,299	258,823	251,923
12 木材・木製品製造業(家具を除く)	93,272	91,497	95,544	90,947	90,819
13 家具・装備品製造業	97,386	96,824	99,978	95,934	95,505
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	181,608	181,868	185,907	186,139	186,657
15 印刷・同関連業	276,620	268,880	263,891	260,164	258,298
16 化学工業	339,708	343,416	348,895	358,027	366,260
17 石油製品・石炭製品製造業	24,529	24,830	24,248	25,515	25,573
18 プラスチック製品製造業(別掲を除く)	409,136	405,938	411,676	425,035	435,564
19 ゴム製品製造業	111,826	110,987	114,775	111,825	115,472
20 なめし革・同製品・毛皮製造業	23,056	22,380	22,558	21,242	21,301
21 窯業・土石製品製造業	240,177	237,733	242,816	236,031	239,873
22 鉄鋼業	216,280	214,988	209,748	215,684	220,408
23 非鉄金属製造業	137,964	138,587	131,884	137,363	140,144
24 金属製品製造業	571,976	576,707	583,664	591,865	606,216
25 はん用機械器具製造業	315,928	308,841	306,415	319,153	327,617
26 生産用機械器具製造業	543,449	550,642	564,958	587,805	610,154
27 業務用機械器具製造業	202,652	204,404	210,084	207,537	206,822
28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	388,209	382,110	381,686	395,551	406,874
29 電気機械器具製造業	472,547	481,936	482,552	477,529	485,679
30 情報通信機械器具製造業	157,425	151,851	136,141	128,715	128,446
31 輸送用機械器具製造業	966,741	980,505	1,041,452	1,057,212	1,083,760
32 その他の製造業	149,457	148,326	157,727	151,002	152,854
合計	7,402,984	7,403,269	7,497,792	7,571,369	7,697,321

出典：経済産業省「工業統計調査」平成25年～平成29年

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	クスミ タケシ 久住 武 <平成29年4月>	69	医学博士	1,141	人間総合科学大学 学長 (平成29.4～令和3.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。